

昭和 43 年 度

地力保全基本調査成績書

[丸瀬布遠軽地域・湧別町
上湧別町]

北海道立中央農業試験場

58

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成積書は昭和43年度に行つた12地域20市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表す。

昭和44年3月

北海道立中央農業試験場

和田 忠 雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3課）による。

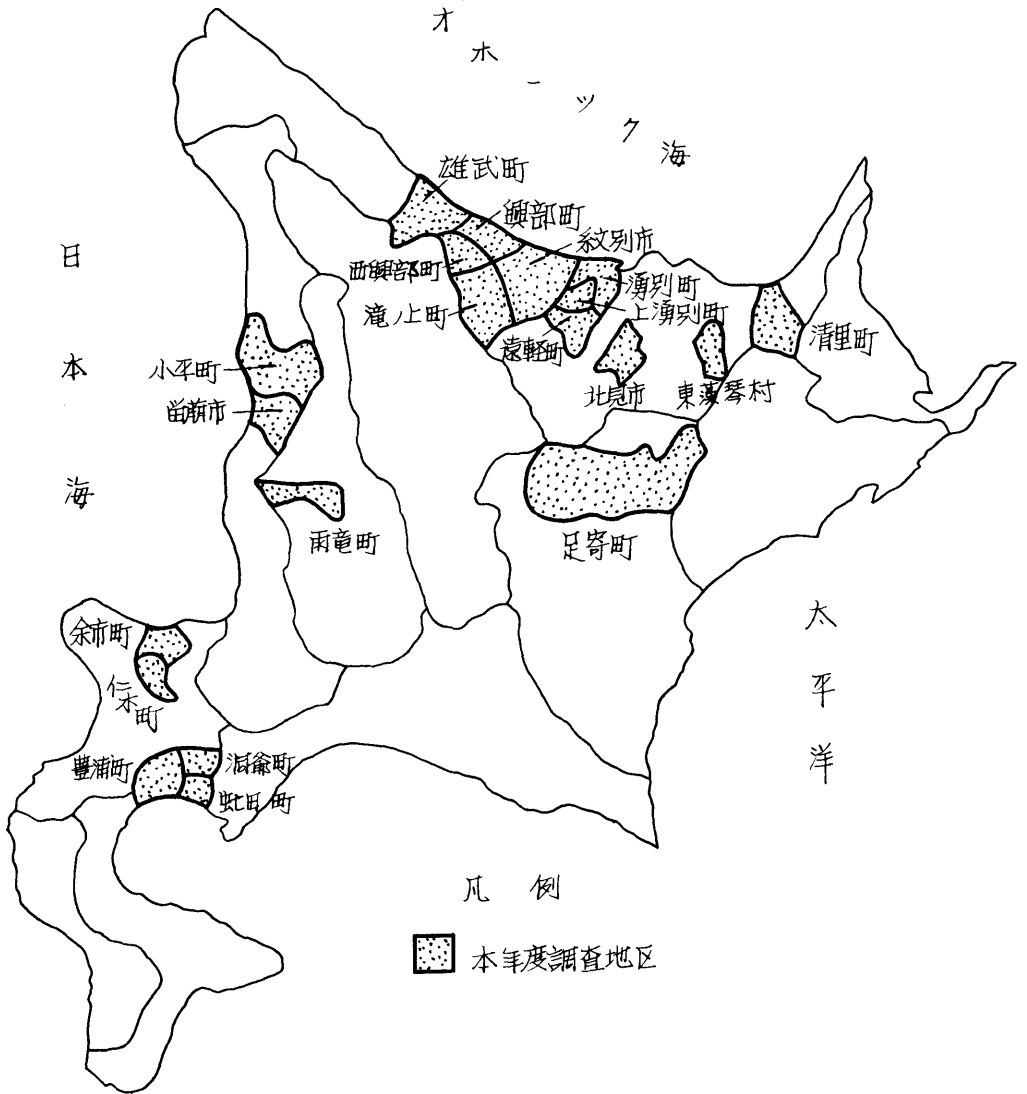
土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	長 谷 部 俊 雄
土 壤 改 良 科	科 長	後 藤 計 二
”	第 1 係 長	小 林 荘 司
”	研 究 職 員	水 元 秀 彰
	”	伊 東 輝 行
	”	木 村 清
	”	松 原 一 実
	”	坂 本 宜 崇
		（ 現 在 ・ 天 北 農 試 ）
	第 2 係 長	大 垣 昭 一
	研 究 職 員	小 林 茂
	”	宮 脇 忠
	”	山 本 晴 雄
	”	高 橋 市 十 郎
	”	上 坂 晶 司
	第 3 係 長	高 尾 欽 弥
十 勝 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	菊 地 晃 二
	”	関 谷 長 昭
北 見 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	秋 山 喜 三 郎

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (ha)		本 年 度 調 査 面 積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
北 見	北 見 市	2,497	9,935	-	-	2,497	9,935
丸瀬布・遠 軽	遠 軽 町	460	3,172	-	-	460	3,172
	湧 別 町	329	5,083	-	-	329	5,083
	上湧 別 町	480	2,962	-	-	480	2,962
紋 別	紋 別 市	68	6,468	-	-	68	6,468
	興 部 町	2	2,943	-	-	2	2,943
	西興 部 町	-	1,487	-	-	-	1,487
枝幸・雄武	雄 武 町	-	2,794	-	-	-	2,794
滝ノ上	滝ノ上 町	522	3,960	-	-	522	3,960
斜 里	清 里 町	1	7,028	-	-	1	7,028
網走湖畔	東藻 琴 村	138	4,291	-	-	138	4,291
陸 別	足 寄 町	22	10,308	-	-	22	10,308
洞爺湖畔	豊 浦 町	225	2,324	-	1,000	-	1,324
	洞 爺 町	245	2,321	-	-	245	2,321
	虻 田 町	68	1,411	-	-	68	1,411
樺 戸	雨 竜 町	2,482	760	-	-	2,482	760
留 萌	留 萌 市	1,067	792	-	-	1,067	792
	小 平 町	1,505	925	-	-	1,505	925
後 志 北 部	余 市 町	698	2,060	-	-	698	2,060
	仁 木 町	885	1,053	-	-	885	1,053
合 計		11,685	72,077	-	1,000	11,685	71,077

調査地区位置図



丸瀬布遠軽地域 湧別町・上湧別町

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道紋別郡湧別町・上湧別町

(2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
湧別町	329	5,083	—	5,412	329	5,083	—	5,412
上湧別町	480	2,962	—	3,442	480	2,962	—	3,442

過年度調査面積				本年度調査面積			
水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
—	1,936	—	1,936	329	3,147	—	3,476
—	631	—	631	480	2,331	—	2,811

2) 気候

本地区は北海道の北東部、オホーツク海に面している。従つて夏季にオホーツク海気団の影響を強く受けて低温、日照不足に終始することが多く、冷湿害を受け易い。特に水稻において被害が大きく、最近は水稻栽培面積が急減している。気候は一般に冷涼で降雨量が少ない。

紋別測候所の観測成績を示すと次表の如くである。

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11
		気温 (°C)	平均	4.7	9.5	11.5	16.0	18.0	16.0
	最高平均	8.9	14.1	14.8	19.0	20.6	19.9	14.5	6.8
	最低平均	0.7	5.6	8.7	13.5	15.8	12.5	6.0	0.1
降水量 (mm)	平均	58.1	78.9	106.7	97.9	142.8	124.8	56.7	59.2
湿度 (%)		66	72	87	89	88	79	73	71
日照時数 (時)		202.9	205.3	152.1	146.3	135.4	178.5	176.8	120.0

晩霜 5月1日 初霜 10月26日

3) 土地条件

(1) 地形

本地区の北部は海岸線に沿つて低平地が分布し、南部は標高100～300mの丘陵性山地となつていて、低平地との間に東方に高度を減じて海岸段丘が発達している。また湧別川流域には広大な低地がひろがり、本地区の主要な農業地帯となつている。他の河川流域は一般に狭長であるが河岸段丘がみられ、これらの小河川の両側は扇状地からなる緩傾斜地が多く分布している。

(2) 地質

本地区の地質は山地は主として、中生層、三紀層、南西部においては流紋岩とその凝灰岩よりなり、河川流域に分布する沖積地、洪積台地、及び緩傾斜地の扇状堆土はどれもこれらを母材とする土壌である。また海岸近くの低平地には低位泥炭が分布している。

(3) 侵蝕状況

本地区南部の丘陵地は傾斜がやや急なために侵蝕が発生しているところが多い。また段丘地は傾斜が比較的緩かではあるが堅密層が浅く、透水性が小さいため春季の融雪時や降雨時には水蝕が発生する。しかし一般的に軽度のものが多いようである。

(4) 交通状況

海岸及びサロマ湖岸に沿ってほぼ東西に一般国道が走り、これに整備良好な道道が直交している。この2本の幹線を中心に湧別川流域及び海岸近くの低平地では号線道路が比較的発達しているため交通は不便ではない。また丘陵地では号線道路が未発達ではあるが概ね沢沿いに町村通が走っており、比較的整備されている。

4 土地利用及び営農状況

(1) 上湧別町

上湧別町の概況は次の通りである。

a) 経営面積 (1戸当平均ha)

総面積	田	畑	樹園地	山林・その他
9.9	0.6	4.4	0.3	4.6

b) 作付面積(ha)

水 稻	麦類	豆 類	馬鈴薯	特用作物	そ菜	果 樹	飼料作物	その他
360	97	320	260	449	58	160	1,313	14

c) 家畜の種類と飼養頭数

	馬	乳牛	豚	綿羊	鶏
頭 数	550	1,862	253	83	7,062
飼養農家数	481	267	116	54	224

d) 労働の関係 (1戸当人数)

家族人数	労力換算	年雇	季節雇	日雇(延)
5.6	2.6	2	6	14,599

本町のほぼ中央部を南北に流れる湧別川の流域には広い低平地が形成されていて、水田、リンゴ栽培、アスパラガスを中心とするそ菜栽培等が行なわれており本町の農業の中心となつている。このうち水田は北限地帯のため永年にわたり冷害による大きな被害を受けて近年は水田面積が漸次減少してきている。この低平地の東西は丘陵地となつており、東部は隣接する湧別町の境界も近く、農耕地は極く少ないが西半部は広く、河成段丘、扇状地、丘陵地等の間に狭長な低平地が分布し、畑作、混同、酪農等が行なわれている。また北部の湧別川の低平地の両側には海成段丘が形成されており、この地帯も畑作、酪農が中心となつている。本町では昭和42年に農業構造改善事業推進協議会が形成され、その基本計画によると水稻、麦類、豆類を漸次減少せしめて、果樹、アスパラガス、チューリップ及び葉菜、根菜等のそ菜、ビート、酪農を振興し、これらを中心とする営農団地により農業地帯区分を行ない、それぞれの現状を分析し、目標とそのための方策及び問題点を摘出しているが、いづれも資金の不足をはじめとして耕地の不足、土地基盤の未整備とそれによる低生産性、労力不足等の問題を挙げており、営農の安定確立にはこれらの問題点への対策が是非とも必

要と思われる。

(2) 湧別町

湧別町の現況は次の通りである。

a 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	畑	樹園地	山林・その他
7.8	0.1	4.2	—	3.5

b 作付面積(ha)

水 稻	麦 類	豆 類	馬 鈴 薯	特 用 作 物	そ 菜	果 樹	飼 料 作 物	そ の 他
86	116	482	389	504	93	4	3007	111

c 家畜の種類と飼養頭数

	馬	乳牛	豚	めん羊	鶏
豆 数	729	5306	578	41	5,671
飼養農家数	659	512	149	30	307

d 労働の関係(1戸当人数)

家族人数	労力換算	年 雇	季節雇	日雇(延)
5.2	3.1	—	—	9085

上湧別町との境界から海岸までの湧別川流域の低平地とその両側に分布する海成段丘地が本町における主要な農業地帯である。低平地では畑作が主体でてん菜、馬鈴薯、そ菜等が栽培されている。

段丘地と海岸近くに分布する泥炭地は概ね酪農中心で年々その比重が大きくなってきている。また東部のサロマ湖南岸沿いの丘陵地、段丘地及びサロマ湖に注ぐ小河川流域はハツカを主とする畑作が昔から営まれており、近年は畑作から混同、そして酪農へと年毎に酪農が盛んになってきているが、耕地面積が狭く、また未改良の土壌が多いので収量は低く、複雑な地形による土地利用の不便などから経営は不安定なものが多いが、作付体系の単純化、農地の効率的利用と機械化の推進、土地基盤の整備、家畜の多頭飼育等構造改善の実施により経営の安定化をめざし努力しているのが現況である。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

(水 田)

土 壤 統 名	色層序	腐植層序	礫層 砂層 礫を混在する砂層	驟 化 沈積物	土 性		泥 炭	黒 泥	グ ラ イ	母材・堆積様式
					表土	次層				
福 島	YR ₁ /Y	表層腐植層	なし	あり	強粘質	強粘質	なし	なし	なし	洪 積(海) 半固結水成岩

(畑)

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層砂層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材・堆積様式
					表土	次層	
富栄床	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	粘質	強粘質	洪積(海)、非固結水成岩
信部内北	YR/Y	表層腐植層	"	あり	強粘質	"	" 半固結水成岩
旭	YR/YR	表層多腐植層	"	"	"	"	" "
信部内	"	表層多腐植層	"	"	"	"	" "
五鹿山	"	表層多腐植層	"	"	粘質	"	洪積(河)、"
共栄ノ沢	"	表層腐植層なし	"	なし	"	"	" "
上芭露	YR/Y	表層腐植層なし	"	あり	強粘質	"	" "
支流ノ沢	YR/YR	表層腐植層なし	あり	なし	粘質	壤質	洪積(扇状地)、半固結水成岩 固結火成岩
計呂地	"	表層腐植層	"	"	強粘質	粘質	" 半固結水成岩
福島南	"	表層腐植層	"	あり	"	強粘質	" "
東芭露	"	表層腐植層なし	"	"	粘質	粘質	" "
中番屋	"	表層腐植層なし	"	なし	砂質	砂質	洪積(海)、非固結水成岩
川西	YR/YR	表層腐植層	なし	"	強粘質	強粘質	"(河)、半固結水成岩
上湧別	"	表層腐植層なし	あり	"	壤質	壤質	" "
開盛	"	表層腐植層	"	"	強粘質	粘質	" "
中湧別	"	表層腐植層なし	"	"	"	"	" "
中湧中央	"	表層腐植層	なし	"	"	強粘質	" "

土 統名	色層序	腐植層序	礫層、砂 礫層、礫 を混在す る砂層	酸 化 沈積物	土 性		母材・堆積様式	
					表土	次層		
富 美 東	YR/ YR	表層腐植層なし	なし	あり	粘 質	礫 質	水積(河)	半固結水成岩
南 兵 村	"	表層腐植層	あり	なし	"	"	"	"
湧 別	"	"	なし	あり	強粘質	強粘質	"	"
川 西 北	"	"	"	"	"	"	"/垂泥炭	"/ヨシ (非固結水成岩)
北 兵 村	"	表層多腐植層	"	"	"	粘 質	水積(河)	半固結水成岩
上富美中央	"	表層腐植層	あり	なし	粘 質	礫 質	"	"
滋 賀 東	Y/ G	表層腐植層なし	なし	あり	強粘質	強粘質	集積 水積(河)	垂泥炭 半固結 水成岩
西 芭 露	YR/ YR	"	"	"	"	"質	水積(河)	半固結水成岩
芭 露 南	"	"	"	"	礫 質	礫 質	"	"
芭露中央	"	表層腐植層	"	"	強粘質	粘 質	"	"
志 撫 子	"	全層多腐植層	"	"	"	強粘質	"/集積	"/泥炭
上芭露南	"	表層腐植層	あり	"	粘 質	粘 質	水積(河成)	半固結水成岩
芭 露	"	"	なし	"	強粘質	強粘質	"	"
滋 賀	"	表層腐植層なし	あり	なし	壤 質	粘 質	崩積	"
上 富 美	"	表層腐植層	"	"	粘 質	礫 質	"	固結火成岩
西ノ沢	"	表層腐植層なし	"	あり	"	粘 質	"	"
円 山	"	表層腐植層	"	なし	"	強粘質	"	半固結水成岩
富 美	"	表層腐植層	"	"	"	粘粘質	水積(扇状 土)	固結火成岩
キノウシ	YR/ YR	"	"	"	礫 質	礫 質	"	半固結水成岩
緑 陰	YR/ YR	"	"	あり	強粘質	強粘質	"	"
ポ ン 川	"	"	なし	"	"	粘 質	"	"
サギ沼	"	全層多腐植層	"	"	壤 質		集積	ヨシ・ハンノキ
テイネイ	"	"	"	"	粘 質		"	"

(2) 土壤区一覽

(水田)

土壤区名	簡略分級式	面積(ha)	備考
福島一福高	ⅡrⅡtpfna	310	調査面積(ha) 384

(畑)

土壤区名	簡略分級式	面積(ha)	備考
富栄床一富栄床	Ⅱfn	38	調査面積(ha) 628
信部内北一信部内北	Ⅱw Ⅱtdpfn	643	1371
旭一旭	Ⅱwf Ⅱtpna	523	1185
信部内一信部内	Ⅱtn Ⅱpwfse	87	290
五鹿山一1	Ⅱtpwfnase	(内水田 170 65)	551
五鹿山一2	Ⅱdpwnase	60	151
共栄ノ沢一共栄ノ沢	Ⅱtpwna	11	21
上芭露一上芭露	Ⅱtdi Ⅱgfnis	112	189
支流ノ沢一支流ノ沢	Ⅱtdgp fse	84	293
計呂地一計呂地	Ⅱn Ⅱtdgp fse	29	49
福島南一福島南	Ⅱtdgpwniase	161	477
東芭露一東芭露	Ⅳ(w)Ⅱt Ⅱfne	609	1156
中番屋一中番屋	Ⅱtpf	0	324
川西一川西	Ⅱtd	227	334
上湧別一1	Ⅱdi Ⅱtg(w)	407	571
上湧別一2	Ⅱtg	80	268
上湧別一3	Ⅱtdgn	92	128
開盛一開盛	Ⅱdpi	320	463
中湧別一1	Ⅱtdp	71	89
中湧別一2	Ⅱdi Ⅱt(w)	262	378
中湧中央一中湧中央	Ⅱp	(内水田 582 68)	974
富美東一富美東	Ⅱtn	18	23
南兵村一南兵村	Ⅱt Ⅱd(w)n	108	154
湧別一湧別	Ⅱtpwfa	330	759
川西北一川西北	Ⅱtpwfn	82	215
北兵村一北兵村	Ⅱw Ⅱpfna	(内水田 37) 68	170
上富美中央一上富美中央	Ⅱdi Ⅱtdga	143	247
滋賀東一滋賀東	Ⅱw Ⅱtnalf	0	3
西芭露一1	Ⅱdp	172	367
西芭露一2	Ⅱdj Ⅱtgp	13	19
芭露南一芭露南	Ⅳ(w)Ⅱtgi Ⅱn	350	780
芭露中央一芭露中央	Ⅱw Ⅱtpa	480	1060
志撫子一志撫子	Ⅱwn Ⅱtpfa	79	198
上芭露南一1	Ⅱdgwa	114	298

土 区 名	簡略分級式	面 積 (h a)	備 考
上芭露南一 2	■di llpwna	5	1 5
芭 露一芭 露	llpwa	4 1	6 8
滋 賀一滋 賀	lltgns	1 8 1	4 5 3
上 富 美一上 富 美	■tdgi llmse	2 8 0	1 0 0 7
西 ノ 沢一西 ノ 沢	■tdi llgwse	6 6	3 2 9
円 山一円 山	lltdgs	5 4 8	1 6 2 0
富 美一富 美	■di lltgfse	5 7	1 4 2
キナウシ一キナウシ	■di ■tg llpfn	3 1 9	8 4 7
緑 陰一緑 陰	lldpwfns	1 9	6 2
ボ ン 川一ボ ン 川	lltgpwfns	3 6 5	8 2 9
サ ギ 沼一サ ギ 沼	■lw ■fna	3 8	3 7 5
テ イ ネ イ一テ イ ネ イ	■lw ■fa lltn	1 0 0	5 0 2

2) 土壌統別説明

福 島 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量7%内外、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度1~2、発達弱度の細粒構造もしくは均質連結状で細孔を含む。ち密度5前後で極疎、PH(H₂O)5.5前後、下層と平坦で判然である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量1%内外、土性はLiCを主とする。色は2.5Yで明度6~8、彩度1~2。発達中度の柱状構造で細孔含む。明褐の糸根雲状の酸化沈積物に富む。ち密度15前後で疎、PH(H₂O)5.5、下層とは平坦で漸変する。

第3層は厚さ35cm前後で腐植を概ね欠き、土性はLiCを主とする。色は5Yで明度7~8、彩度1~2。発達強度の柱状構造で細孔含む。明褐の雲状の酸化沈積物を含む。ち密度20前後で中。PH(H₂O)5.5前後。下層とは判然である。

第4層は概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はC(農学会法、触感)。色は7.5YRで明度4~5、彩度2~4。均質連結状を呈し、細孔に乏しい。暗赤褐の管状の酸化沈積物がある。ち密度20前後で疎~中である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字北兵村 試坑No.28

第1層	0~15cm	腐植富む黒褐(10YR3/2)のLiC。弱度の細粒状構造もしくは均質連結状。細孔含む。ち密度3で極疎、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿。層界平坦判然。
-----	--------	--

第2層	15~30cm	腐植欠く淡黄灰(2.5Y7/2)のLiC。柱状構造、細孔あり。糸根状、雲状の酸化沈積物に富む。ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、層界平坦漸変。
第3層	30~64cm	腐植欠く淡黄灰(5Y7/1)のLiC、柱状構造。細孔あり、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿。層界平坦判然。
第4層	64cm以下	腐植欠く、褐灰(7.5YR5/2)のLiC、均質連結状もしくは柱状構造、管状の酸化沈積物あり。ち密度18で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字北兵村 試坑No.28

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重g	*全炭素%	*全窒素%	炭素率	腐植%
			組砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~15	4.1	2.8	18.4	34.0	44.8	LiC	136	417	0.411	10.0	6.9
2	15~30	3.6	2.6	23.5	34.9	39.0	LiC	173	0.666	0.081	8.1	1.1
3	30~64		3.9	27.6	32.0	32.0	LiC	170	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 P ₂ O ₅ mg/100g	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.4	4.3	5.5	24.3	9.6	0.4	0.2	40	1180	9.6	18.3	0.94
2	5.4	4.1	9.7	16.5	6.0	0.4	0.2	36	1037	2.4	7.0	2.18
3	5.5	3.8	19.0	14.5	4.4	0.4	0.2	30		3.6	—	

※ 乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し類似する統としては旭統、信部内統、五鹿山統、福島南統があるが旭統とは表土の腐植含量、信部内統とは礫の有無、他の2統とは成因の相違によりそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積(海成)

B 地形 標高10~20mの段丘

C 気候 年平均気温6.2°C 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況 水稲単作が主で一部畑地

E 農業上の留意事項

排水の完備、加里の増肥、苦土入り肥料の使用

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字北兵村の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
福島 - 福島	MrItpfna

② 土壤区別説明

福 島 統 一 福 島 区

示 性 分 級 式 (水田)

土	表	有	表	耕	漚	酸	土	自	養	障	災												
壤	効	土	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地
生	土	土	土	土	土	土	分	離	ラ	地	然	層	分	換	〃	〃	効	害	理	冠	す	べ	り
産	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
力	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	含	難	硬	水	土	密	元	含	乾	沃	状	豊	含	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p	ℓ	r	▼	f	n	i	a												
⑩	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
⑪	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	簡	略	分	級	式	■	r	■	t	p	f	n	a										

A 土壤区の特徴

この土壤区は福島統に属する。表土の厚さは15cm前後でやや浅く、有効土層は1m以上で深い、表土の土性は微粒質で粘着性強く、耕起、碎土がやや困難である。透水性不良で過湿のおそれがある。保肥力、固定力が小さく、塩基状態は中庸、石灰は多いが、苦土加里に乏しく、磷酸は中程度である。下層は強酸性を呈する。障害となるものはないが、降雨により冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況 水稻が主体で一部に畑作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 湿性を呈しているため排水施設を完全なものにすること。

加里、苦土に乏しいので加里肥料の増施、苦土入り肥料の使用が望ましい。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字北兵村
 記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和44年3月31日

富 栄 床 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ7cm前後で腐植含量14%内外、土性はCLを主とする。色は7.5~10YRで明度1~2、彩度1。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度1.3で疎。PH(H₂O)5.前後。下層とは平坦明瞭である。

第2層は厚さ7~8cmで腐植含量8%内外、土性はLiCを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度1~2。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.5~2.0で疎~中。PH(H₂O)5.前後。下層とは平坦漸変である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植含量7%内外、土性はCLを主とする。色は5YRで明度2~3、彩度2~4。発達中度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.2~1.5で疎。PH(H₂O)5.0~5.5。下層とは平坦漸変である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はSiCLを主とする。色は5YRで明度3~5、彩度6、発達強度の塊状構造で細小孔に富む。ち密度2.3~2.6で中~密。PH(H₂O)5.5.前後。下層とは平坦漸変である。

第5層は厚さ25~30cmで腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は5YRで明度4~6、彩度6~8。発達強度の塊状構造で細小孔に富む。ち密度2.0~2.4で中、PH(H₂O)5.5~6.0。下層とは平坦漸変である。

第6層は概ね75~80cm以下で腐植を欠き、土性はCL(農学会法触感)を主とする。色は5YRで明度4~6、彩度6~8。発達中~強度の細塊状構造で細小孔に富む。ち密度2.4~2.6で中~密。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字富栄床 試坑No.37(未耕地)

第1層	0~7cm	腐植頗る富む黒(10YR 1.5/1)のCL。弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度1.3で疎。PH(H ₂ O)5.0、調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	7~15cm	腐植富む黒褐(7.5YR 2/1.5)のLiC。弱度の細塊状構造、細孔富む。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第3層	15~36cm	腐植富む暗赤褐(5YR 3/2)のCL。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.3で疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第4層	36~50cm	腐植欠く赤褐(5YR 4/6)のSiCL。強度の塊状構造。細小孔富む。ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第5層	50~77cm	腐植欠く赤褐(5YR 5/8)のLiC。強度の塊状構造、細小孔富む。ち密度2.2で中、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半湿、層界平坦漸変。

第6層	77cm以下	腐植欠く赤褐(5YR5/8)のCL(農学会法触感)、強度~中度の細塊状構造、細小孔富む、ち密度中~密、調査時の湿り半湿。
-----	--------	--

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字富栄床 試坑 No.37

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地 容積 %	真比重	*全炭素 %	*全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~7	3.7	16.9	43.9	20.2	19.0	CL	1.07		8.37	0.507	18.0	13.9
2	7~15	4.5	8.9	20.8	33.2	37.1	LiC	1.30		5.04	0.273	18.4	8.3
3	15~36	5.7	9.7	28.1	41.6	20.6	CL	1.24	2.56	4.37	0.279	15.7	7.1
4	36~50	4.4	10.4	20.8	47.3	21.5	SiCL	1.41		—	—	—	—
5	50~77	5.4	8.4	20.2	37.2	34.2	LiC			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	4.0	8.8	4.21	6.6	1.3	0.5	16	694	11.6
2	5.1	3.8	23.8	4.63	2.9	0.2	0.4	6	1124	tr
3	5.3	3.9	25.5	4.82	1.8	0.2	0.4	4	1626	tr
4	5.5	4.0	25.8	3.06	2.2	1.0	0.8	7	1488	tr
5	5.7	4.0	10.3	3.06	2.4	2.1	1.0	8	1465	tr

*乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統として、旭統、中番屋統、五鹿山統、湧別統、川西統、サギ沼統があるが、旭統とは乾湿、五鹿山統とは成因、他の土壌統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 海砂

A-4 堆積様式 洪積世堆積(海成)

B 地形 標高10m内外の段丘

C 気温 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

ほとんどがカンワ、セン等の樹木とミヤコザサ、チモシー、ワラビ、ヨモギ等の下草の生育する未墾地である。(一部に放牧地)

E 農業上の留意事項 合理的な施肥

F 分布 北海道紋別郡湧別町字富栄床の大部分、信部内の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
富栄床-富栄床	llfn

② 土壌区別説明

富 榮 床 統 一 富 榮 床 区

示 性 分 級 式 (畑)

	土 壤 生 力 可 能 性 等 級	表 効 土 の 層 の 厚 さ	表 表 土 の 粘 土 含 量	表 表 土 の 粘 土 難 着 性	土 地 の 乾 燥 程 度	自 然 潤 滑 性	養 分 定 量	置 換 状 態	有 機 酸 量	障 害 質 的 障 害	災 害 的 障 害	傾 斜 危 險	侵 蝕 傾 斜	耐 風 蝕 性																						
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																									
II						2	2	1		1	1	1		1	2	3		2	1	2	1	3		1	1		1	1		1	—	—		1	1	1
簡略分級式 Ifn																																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は富榮床統に属する。表土の厚さは35cm内外、有効土層は1m以上でともに深い。表土の土性は細粒質で粘着性は弱～中で耕起、砕土は比較的容易でゆる。保水性中庸で透水性大きく、過湿のおそれはない。保肥力は全層大で固定力は表土が小で次層以下中であり、塩基状態は極めて不良で自然肥沃度は中～低い、作土は石灰中、苦土多く、加里中庸で有効態磷酸多く、強酸性で、次層以下は、加里中庸の他は養分に乏しく極強酸性を呈する。障害性、災害性は特になく、地形は概ね平坦で侵蝕は殆んど認められない。

B 植生及び利用状況

殆んどがカシワ、セン等の樹木と下草にヨモギ、ミヤコザサ、チモンシ等の生育する未墾地である(一部放牧地)

C 地力保全上の問題点

全層強～極強酸性を呈し、次層以下は養肥分に乏しいので炭カル、磷酸等の土改資材の投入と共に、合理的な施肥を心がける必要がある。

D 分 布 北海道紋別郡湧別町字富榮床の大部分、信部内の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

信 部 内 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量7%内外、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度1~2、採度1~2、発達弱度の細粒状が多く細孔に富む。ち密度18前後で疎~中、PH(H₂O)5.5~6、下層とは平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量1~2%、土性はLiC~SiCLである。色は2.5Yで明度4~8、採度1~2、発達弱度の細塊状構造と径20~50mmの柱状構造で一部に均質連結状を呈する。黄褐の雲状酸化沈積物をわずかに含む。ち密度24~27で中~密。PH(H₂O)5.5前後、下層とは平坦漸変である。

第3層は厚さ25cm前後で腐植を欠く、土性はLiCを主とする。色は10YR~Nで明度6、彩度0~1、径30~80mmの柱状構造を呈する。褐色の雲状の酸化沈積物を含む。ち密度24~26で中~密、PH(H₂O)5.5前後、下層とは平坦漸変である。

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠く、土性はHCを主とする。色は概ねNで明度6、彩度0が多い。径70~120mmの柱状構造を呈する。褐色で雲状の酸化沈積物に富む。ち密度18~22で中、PH(H₂O)5.5~6、下層とは平坦漸変である。

第5層は厚さ25cm前後で腐植を欠く。土性はC(農学会法触感)が多い。色は概ねNで明度6~7、彩度0。径100mmの柱状構造を呈する。褐色の酸化沈積物に頗る富む。ち密度24~27で密、下層とは漸変である。

第6層は概ね95cm以下で腐植を欠く。土性はC(農学会法触感)が多い。色はNで明度6~7、彩度0。厚さ3~10mmの板状構造。ち密度29以上を示し極密である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字福島 試坑No.38

第1層	0~15cm	腐植に富む黒~黒褐(10YR2/1.5)のLiC。発達弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度19で中、PH(H ₂ O)6、調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	15~26cm	腐植を欠く灰(N6/0)のLiC。弱度の細塊状構造と柱状構造。黄の酸化沈積物を含む。ち密度26で密。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第3層	26~50cm	腐植を欠く灰(N6/0)のLiC。柱状構造、褐色の酸化沈積物含む。ち密度26で密、PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第4層	50~70cm	腐植を欠く灰(N6/0)のHC。柱状構造。褐色の酸化沈積物富む。ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第5層	70~94cm	腐植を欠く灰(N6.5/0)のC(農学会法触感)。柱状構造。褐色の酸化沈積物頗る富む。ち密度25で密。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。

第6層	94cm以下	腐植を欠く灰(N6.5/0)のC(農学会法触感)。板状構造。ち密度29で極密。調査時の湿り半乾。
-----	--------	--

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字福島 試坑No.38

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地 容積 重%	真比重	*全炭素 %	*全窒素 %	炭素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.5	9.2	23.2	41.5	26.1	LiC	101	2.43	4.03	0.297	13.6	6.7
2	15~26	2.3	5.6	16.1	40.3	38.0	LiC	177		0.42	0.665	8.4	0.7
3	26~50	3.3	3.8	17.0	39.9	39.3	LiC	183		—	—	—	—
4	50~70	3.7	4.9	16.7	32.8	32.8	HC	187		—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.5	2.3	26.8	9.3	0.3	0.1	35	864	3.7
2	5.5	3.7	17.5	16.2	4.9	0.3	0.1	30	515	3.3
3	5.5	3.6	28.8	16.5	4.7	2.3	0.1	28	591	tr
4	5.7	3.6	23.8	22.7	5.3	3.1	0.1	23	618	tr

*乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し類似する土壌統としては旭統、信部内統、五鹿山統、福島南統があるが、旭統とは表土の腐植含量、信部内統とは礫の有無、五鹿山統、福島南統とは成因の相違によりそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(海成)

B 地形 標高10~30mの段丘

C 気候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね、畑地、採草地、放牧地である。一部カシワ、セン、ヤナギ、ヤチハンノキ、カバ等の生育する未利用地

E 農業上の留意事項

深耕、合理的施肥、心土破碎、排水完備

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字旭の一部、湧別町字信部内、五鹿山の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
信部内北一信部内北	■wlltdpfnas

② 土壌区別説明

信 部 内 北 統 一 信 部 内 北 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生	効	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐											
産	土	耘	土	土	の	地	然	層	分	換	の	性	態	量	害	理	冠	す	斜	為	水	風													
力	土	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の	の	蝕											
可	の	層	礫	粘	土	着	乾	沃	状	豊	含	の	要	基	灰	土	里	酸	害	の	障	危	危	傾	方	蝕									
能	の	含	難	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	蝕	性	性										
性	厚	深	量	易	湿	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性									
等	深	量	易	湿	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性										
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性										
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
■					3	2	2		3	2	2		1	2	2		3	3	3	2	1	2		1	1		2	1		2	--		1	1	1
簡略分級式	■wlltdpfnas																																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は信部内北統に属する。表土の厚さは15~19cmでやや浅く、有効土層は概ね90cm程度で中庸である。表土の土性は微粒質で粘着性は中程度で耕起、破碎はやや困難である。透水性は小、保水性中庸で湿性を呈しており、過湿のおそれが多い。保肥力は大、固定力小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。養肥分は置換性石灰多く、苦土、加里に乏しく、有効態磷酸は中庸である。表土の酸度は中程度であるが、下層は強酸性を呈する。障害性はないが降雨時に一時的に冠水のおそれがある。侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

概ね畑地、採草地、放牧地で一部カンワ、セン、ドロ、ヤナギ、ハンノキ、カバ等の生育する未利用地

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全なものにすること。また下層が堅密層であるから心土破碎を施行することが望ましい。一般に表土が浅めであるので深耕する必要がある。その際は下層土の改良のため、有機物、炭カル等土改資材を投入するとより有効である。塩基に乏しいので加里、苦土入

肥料を増施すること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字旭の一部、湧別町字信部内、五鹿山の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

旭 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cm。腐植含量20%内外で10%程度のももあり、土性はHC~LiCである。色は10YR~Nで明度1、彩度0~1。発達弱度の細粒状構造で細孔含む。ち密度11~13で疎。PH(H₂O)5.5前後。下層とは平坦明瞭である。

第2層は厚さ6~9cm。腐植含量15%内外で土性はHC~LiCで火山灰の見られるところもある。色は10YR~Nで明度1、彩度0~2。発達弱~中度の細塊状構造で細孔含む。ち密度16で疎。PH(H₂O)5.2~5.5。下層とは平坦漸変である。

第3層は厚さ5~8cm。腐植含量3.5%内外で土性はLiCを主とする。径20~50mmの柱状構造で一部に弱度の細塊状構造もあり、細孔を含む。色は10YRで明度2、彩度1~2。ち密度15~20で疎~中。PH(H₂O)5~5.5。下層とは平坦漸変である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植含量1~2%。土性はLiC~HCで色は10YRで明度3、彩度1~2。径20~80mmの柱状構造を呈する。明褐で脈状の酸化沈積物を含む。ち密度17~20で疎~中。PH(H₂O)5.0~5.5。下層とは平坦漸変である。

第5層は厚さ20~25cmで腐植を欠き、土性はLiC~HC。色は10YR~2.5Yで明度5~8、彩度1。径50~200mmの柱状構造で細孔を含む。赤褐~明褐の酸化沈積物を含む。ち密度17~21で疎~中、PH(H₂O)5.3~5.9。下層とは漸変する。

第6層は概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はC(農学会法触感)を主とする。色は10YR~2.5Yで明度6~7、彩度1。柱状構造もしくは均質連結状を呈する。赤褐~明褐の酸化沈積物を含む。ち密度17~22で疎~中。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字川西 試坑No.39

第1層	0~15cm	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のLiC、弱度の細粒状構造、細孔含む。ち密度11で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	15~21cm	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のHC。中度の細塊状構造、細孔含む。ち密度16で中。PH(H ₂ O)4.8。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	21~29cm	腐植含む黒褐(10YR2/2)のLiC。柱状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)4.8。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。

第4層	2.9~4.2cm	腐植ある黒褐(10YR3/1)のHC。柱状構造。細孔あり。脈状の酸化沈積物含む。ち密度1.7で疎。PH(H ₂ O)5.0。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第5層	4.2~6.7cm	腐植欠く黄褐灰(10YR5/2)のHC。柱状構造の細孔含む。脈状の酸化沈積物含む。ち密度1.7で疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第6層	6.7cm以下	腐植欠く黄褐灰(10YR6/1)のC(農学会法触感)。幻質連結状。脈状の酸化沈積物含む。ち密度1.7で疎。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

紋別郡湯別町字川西 試坑No.39

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~1.5	6.4	4.8	27.6	37.1	30.5	LiC	1.20	2.04	15.24	0.205	7.4	24.6
2	1.5~2.1	6.4	0.7	12.7	38.4	48.2	HC	—	—	11.21	0.640	17.5	18.1
3	2.1~2.9	3.5	0.4	13.4	42.7	43.5	LiC	1.51	2.55	2.10	0.200	10.5	3.5
4	2.9~4.2	3.7	2.2	13.9	32.4	51.5	HC	1.64	—	1.08	0.113	9.5	1.8
5	4.2~6.7	4.0	3.7	15.4	32.6	48.3	HC	1.73	2.68	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.2	5.0	87.1	24.8	0.8	0.1	28	1687	11.1
2	4.8	3.6	34.3	87.1	11.6	1.0	0.1	13	1798	tr
3	4.8	3.5	49.3	35.8	3.5	0.3	0.1	10	959	tr
4	5.0	3.6	33.3	26.8	3.1	1.6	0.6	12	847	tr
5	5.3	3.6	28.0	26.8	4.2	3.5	0.1	16	908	tr

※乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、富栄床統、信部内北統、信部内統、五鹿山統、北兵村統、中番屋統、芭露中央統、川西統、サギ沼統、テイネイ統があり、富栄床統とは乾湿、信部内北とは腐植含量、信部内とは土層の礫の有無、五鹿山統とは成因、他の土壌統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(海成)

B 地 形 標高5~10mの段丘

C 気 候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど採草地、畑地、放牧地である。

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、合理的施肥

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和44年3月31日

信 部 内 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量8~11%。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2、彩度1。発達弱~中度の細粒状構造で細孔含む。ち密度15~19で疎~中である。PH(H₂O) 5.4~6.5。下層とは平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量1~2%。土性はCL~LiCである。色は10YRで明度4~5、彩度2~3。1~5cmの円礫を含む。発達中度の細塊状構造で細孔富む。ち密度15~22で疎~中。PH(H₂O) 5.5~5.9。下層とは判然である。

第3層は厚さ10~15cmで腐植含量1%内外。土性はCL~LiCである。色は10YRで明度5~6、彩度3。1~5cmの円礫を含み、径20~80mmの柱状構造で細孔含む~富む。ち密度21~23で中。PH(H₂O) 5.5~5.6。下層とは漸変である。

第4層は厚さ15~25cmで腐植を欠き、土性はLiCを主とする。1~5cmの円礫を含む。色は10YR~2.5Yで明度6~7、彩度2~3。径20~80mmの柱状構造。黄褐で雲状の酸化沈積物を含む。ち密度24で中。PH(H₂O) 5.4~5.6。下層とは漸変である。

第5層は概ね50~60cm以下で腐植を欠き、土性はC(農学会法触感)である。色は10YRで明度5~6、彩度4~6。1~5cmの円礫を含む。径20~100mmの柱状構造と厚さ5~15mmの板状構造である。黄褐で雲状の酸化沈積物とグライ斑を含む。ち密度23~24で中である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字信部内 試坑No.43

第1層	0~14cm	腐植富む黒(10YR2/1)のLiC。弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O) 6.5。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	14~25cm	腐植含む黄褐灰(10YR4/2)のLiC。中~小円礫含む。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度22で中。PH(H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第3層	25~35cm	腐植ある灰黄褐(10YR5/3)のCL。中~小円礫あり。柱状構造。細孔富む。ち密度23で中。PH(H ₂ O) 5.6。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第4層	35~60cm	腐植欠く灰黄橙(10YR6/3)のLiC。中~小円礫含む。柱状構造。雲状の酸化沈積物含む。ち密度24で中。PH(H ₂ O) 5.4。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第5層	60cm以下	腐植欠く灰黄橙(10YR6/4)のC(農学会法触感)。中~小円礫含む。柱状構造。雲状の酸化沈積物とグライ斑含む。ち密度23で中。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 g	真比重	※炭素 %	※窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	4.2	10.3	28.8	33.6	27.3	LiC	145	2.46	4.97	0.386	12.8	8.2
2	14~25	3.1	13.5	31.3	29.7	25.5	LiC	136	2.56	1.20	0.121	9.9	2.0
3	25~35	3.2	14.8	29.9	33.0	22.3	CL	169	2.67	0.90	0.097	9.3	1.5
4	35~60	3.7	11.5	27.9	34.6	26.0	LiC	168	2.70	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	6.0	0.3	40.5	30.0	0.2	0.1	74	1197	6.3
2	5.9	4.5	2.8	32.0	11.2	2.4	0.1	35	918	tr
3	5.6	4.0	11.8	25.8	9.1	3.6	0.1	35	843	tr
4	5.4	3.9	14.0	24.7	9.4	2.4	0.1	38	885	tr

※乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統として、信部内北統、旭統、福島南統、湧別川統、芭露中央統、上芭露南統、円山統、緑陰統があるが、信部内北統とはの有無。旭統とは腐植含量、福島南統とは成因、その他の土壌統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(海成)

B 地 形 標高30~70mの段丘

C 気 候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね、採草地、畑地、放牧地、一部カシワ、白カバ、シコロ、セン、ハンノキ、ササ、ワラビの生育する山林

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、合理的施肥

F 分 布 北海道紋別郡上湧別町字旭、五鹿山の一部、湧別町信部内、緑陰の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
信 部 内 - 信 部 内	III tn I p w f s e

② 土壌区別説明

信 部 内 統 一 信 部 内 区

示性分級式（畑）

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有
産	土	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	効	有
力	土	の	風	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩
可	の	層	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩
能	の	層	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩
性	厚	含	難	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	有
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	湿	度	否	否	否	否	否	否	否
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	
	■				3	2	2		3	2	2	
	1	1	1	1	3	2	2		1	2	2	
	1	1	1	1	3	3	2	1	1	1	1	
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	2	--	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
簡略分級式	■ t n l p w f s e											

A 土壌区の特徴

この土壌区は信部内統に属する。表土の厚さは12～14cmで浅く、有効土層は1m以下で深い。表土の土性は微粒質で粘着性中～やや強く、耕起、砕土はやや困難である。透水性やや大、保水性中庸で稍湿性を呈し、過湿となるおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。養肥分は石灰多く、苦土、加里に乏しい。有効態磷酸は中庸で酸度も中程度であるが、下層は酸性強く、養肥分に乏しい。特殊な障害性、災害性はないが、地形が緩傾斜～傾斜地で水蝕が認められる。

B 植生及び利用状況

概ね、採草地、畑地、放牧地、一部カシワ、白カバ、シコロ、セン、ハンノキ、ササ、ワラビの生育する山林

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完備することが必要である。心土破碎も有効であろう。一般に表土が浅いので、炭カル、熔燐等を施用しながら深耕することが望ましい。また加里、苦土、磷酸に乏しいので、これらを増施すること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字旭、五鹿山の一部、湧別町字信部内、緑陰の一部

記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和44年3月31日

五 鹿 山 統

(1) 土壌統の特徴

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~25cmで腐植含量15%内外、7%程度のものも一部にある。土性はCL~LiCでHCもある。一部に小円礫含む。色は10YRで明度1~2、彩度1。弱度の細粒状構造で細孔含む。ち密度1.6~2.0で疎~密。PH(H₂O) 5.9~6.5。下層とは平坦で明瞭~判然である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量4%内外。土性はLiCを主とする。一部に小円礫含む。色は10YRで明度2、彩度2、中度の細塊状構造で細孔含む。ち密度1.6~1.8で疎。PH(H₂O) 5.5前後。下層とは平坦判然である。

第3層は厚さ5~7cmで腐植含量1%内外。土性はCL~LiCで一部に小円礫を含む。色は10YR~2.5Yで明度4~7、彩度2。発達弱度の細塊状構造と径10~70mmの柱状構造で細孔含む。暗赤褐雲状の酸化沈積物を含む。ち密度2.1~2.2で中。PH(H₂O) 5.4~5.7。下層とは漸変である。

第4層は厚さ15~20cmで腐植を欠き、土性はLiCを主とする。一部に小円礫含む。色は10YR~2.5Yで明度6~7前後、彩度1~2。10~100mmの柱状構造で細孔含む~富む。黄褐の雲状酸化沈積物含む~富む。ち密度2.1~2.6で中~密。PH(H₂O) 5.6。下層とは漸変である。

第5層は厚さ15~25cmで腐植を欠き、土性はSiCL~LiC。一部小円礫を含む。色は10YRで明度6~8。彩度1~2。10~100mmの柱状構造で細孔含む~富む。黄褐の酸化沈積物含む~富む。ち密度2.0~2.3で中。PH(H₂O) 5.6。下層とは漸変である。

第6層は概ね60~70cm以下で腐植を欠き、土性はC~CL(農学会法触感)である。一部小円礫に富む。色は10YRで明度7~8、彩度1~2。10~20mmの柱状構造もしくは均質連結状を呈し、厚さ10~30mmの板状を示すものもある。ち密度2.4~2.8で密。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字東 試坑No.35

第1層	0~20cm	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のCL。弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度1.6で疎。PH(H ₂ O) 6.5。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	20~32cm	腐植含む黒~黒褐(10YR2/1.5)のLiC。中度の細塊状構造。細孔含む。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O) 5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第3層	32~39cm	腐植ある黄褐灰10YR4/2)のLiC。弱度の細塊状構造と柱状構造との複合。細孔富む。ち密度2.2で中。PH(H ₂ O) 5.4。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第4層	39~50cm	腐植欠く黄褐灰(10YR6/1)のLiC。柱状構造。細孔含む。雲状の酸化沈積物を含む。ち密度2.6で密。PH(H ₂ O) 5.5。調査時の湿り湿層界平坦漸変。

第5層	50~66cm	腐植欠く黄褐灰(10YR 6.5/1)のSiCL。柱状構造。細孔含む。雲状の酸化沈積物含む。ち密度23で中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第6層	66cm以下	腐植欠く淡黄褐灰(10YR 7/1)のC(農学会法触感)。柱状構造。細孔あり。ち密度24で中。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字東 試坑 No.35

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	※全炭素%	※全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.8	5.5	27.2	42.5	24.8	CL	137		8.19	0.574	14.3	13.3
2	20~32	3.7	6.6	26.1	38.1	29.2	LiC	133	2.52	2.53	0.224	11.3	4.2
3	32~39	2.7	2.6	27.6	41.1	28.7	LiC	—	—	0.83	0.088	9.4	1.4
4	39~50	2.8	2.5	28.9	42.9	25.7	LiC	181		—	—	—	—
5	50~66	3.3	1.3	26.0	57.0	15.7	SiCL	181	2.65	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	6.0	0.3	5.94	3.40	1.7	0.1	57	1746	7.6
2	5.6	4.3	10.3	30.8	4.2	0.2	0.1	14	1401	5.4
3	5.4	4.1	17.0	21.5	4.4	0.8	0.1	20	764	tr
4	5.5	3.7	18.3	19.5	5.3	2.4	0.1	27	594	tr
5	5.7	3.7	16.0	21.1	5.8	3.3	0.1	27	653	tr

※乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統として、富栄床統、信部内北統、旭統、福島南統、中湧中央統、湧別統、開盛統、芭露中央統、円山統、ポン川統、滋賀統があるが、前4統とは成因、その他とは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(河成)

B 地形 標高10~100mの段丘(緩傾斜)

C 気候 年平均気温9.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草地、放牧地、一部カシワ、ハンノキ等の生育する山林

E 農業上の留意事項

排水完備、心土破砕、加里肥料の増施、水蝕防止

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美、富美、札富美、北兵村の一部

調査及び記載責任者 宮 勝 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
五鹿山 - 1	tpwfnase
” 2	dpwnase

② 土壌区別説明

五鹿山統一1区

示性分級式(畑)

土	耕	表	表	表	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	土	土	土	地	然	層	置	有	微	障
産	力	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の
可	の	層	の	の	の	風	の	水	水	潤	肥
能	厚	の	粘	土	の	乾	沃	状	豊	含	”
性	等	深	性	性	性	性	度	力	力	態	量
級	さ	量	易	湿	度	度	否	素	度	無	性
t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e
1 1	2 2	2 2	3 2	1 3	1 3	2 1	1 1	1 1	2 1	2 -	2
簡略分級式		tpwfnase									

A 土壌区の特徴

この土壌区は五鹿山統に属する。表土の厚さは14~20cmで中庸~稍浅く、有効土層は概ね1mで深い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸であり、耕起、砕土はやや困難である。透水性小、保水性中庸で湿性を呈し、一時的に過湿のおそれがある。保肥力大、固定力は中庸、塩基状態は概ね良好で自然肥沃度は比較的高い。養肥分は加里少なく、磷酸中庸でその他は多目であるが下層は強酸性を呈する。特殊な障害性ないが降雨により一時的に冠水のおそれがある。斜面では部分的に水蝕が認められる。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草地、放牧地、一部カシワ、ハンノキ等の生育する山林

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全とすること。また心土破砕の施行も有効と考えられる。加里が特に少ないので増施することが必要である。水蝕の発生するところはなるべく草地、あるいは緑作帯等を設けて水蝕防止を心がけることが望ましい。

D 分布 北海道紋別郡上湧別字上富美、富美、北兵村の一部、湧別町東の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

五鹿山 - 2区

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 厚 等 級	表 効 土 の 層 の 厚 含 量	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 乾 燥 性	土 地 の 風 乾 燥 性	自 然 水 潤 沃 度	保 固 力	養 分 定 量	置 換 性 質	微 酸 性 量	障 害 物 質	災 害 的 障 害	傾 斜 危 険 度	傾 斜 危 険 度	侵 蝕 耐 性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e			
II	I	I	I	3	2	2	3	2	2	I	1	2	I	1
簡略分級式 IIdpwnase														

A 土壤区の特徴

この土壤区は五鹿山統に属する。1区より腐植少なく、下層は礫に富み、有効土層を制限していると考えられるものを分けたものである。表土は概ね25cm以上あつて深く、有効土層はほぼ60cm程度で中庸である。表土の土性は微粒質で粘着性中庸であり、耕起、砕土にやや困難を感じる。透水性小さく、保水性は中庸のようであるが湿性を呈し過湿のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態概ね良好で自然肥沃度は一般に高い。養分は加里少なく、磷酸中庸の他は多い。酸度も中庸である。特殊な障害性はないが降雨により一時的に冠水のおそれがある。地形は3~5°の傾斜で水蝕が認められる。

B 植生及び利用状況 殆んど採草地、放牧地、畑地である。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全とすること。加里が少ないので加里肥料を増施すること。水蝕防止につとめること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字富美、札富美の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

共 栄 ノ 沢 統

(1) 土壌統の概況

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量3%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度2~4、彩度2~3である。発達弱度の細粒状構造で細孔含む。ち密度15前後で疎である。PH(H₂O)5.5前後。下層とは平坦で判然である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量1%内外、土性はLiCのものが多し。色は10YRで明度3~5、彩度2~4である。未~半風化の小~中円礫を含む。発達弱度の細塊状構造と中度の塊状構造で細孔を含む。ち密度20前後で中。PH(H₂O)5前後。下層とは平坦で漸変である。

第3層は厚さ25cm前後で腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度4~6、彩度3~6、未~半風化の小~中円礫を含む。発達弱度~中度の細塊状構造で細孔を含む。ち密度は20前後で中。PH(H₂O)5前後。下層とは平坦で漸変である。

第4層は概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はHCを主とする。色は10YRで明度5~7、彩度4~8。未~半風化の小~中円礫を含む。発達弱度の細塊状~塊状構造である。ち密度20~24で中である。PH(H₂O)4.5~5.0。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字上富美 試坑614

第1層	0~18cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のCL。弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	18~32cm	腐植欠く灰黄褐(10YR4/3)のLiC。未~半風化円礫含む。弱度の細塊状構造と中度の塊状構造。細孔含む。ち密度20で中。PH(H ₂ O)4.8。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	32~58cm	腐植欠く灰黄褐(10YR5/4)のLiC。未~半風化円礫含む。弱~中度の細塊状構造。細孔含む。ち密度20で中。PH(H ₂ O)4.9。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第4層	58cm以下	腐植欠く明黄褐(10YR6/6)のHC。未~半風化円礫含む。弱度の細塊状~塊状構造。ち密度22で中。PH(H ₂ O)4.7。調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字上富美 試坑No.14

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	明地容積 g	真比重	*全炭素 %	*全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	3.5	11.2	27.1	40.1	21.6	CL	1.48	2.63	1.98	0.173	11.4	3.3
2	18~32	5.2	9.1	23.4	39.6	27.9	LiC	1.58		0.55	0.071	7.8	0.9
3	32~58	6.3	4.9	26.0	24.2	44.9	LiC			—	—	—	—
4	58~	8.0	14.2	17.3	19.9	48.6	HC			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.4	3.2	23.8	10.9	1.3	0.2	46	624	3.7
2	4.8	3.8	39.0	29.6	6.3	4.5	0.2	21	991	8.4
3	4.9	3.7	46.5	32.4	6.9	2.7	0.4	21	1002	tr
4	4.7	3.7	56.1	40.8	8.6	4.1	0.6	21	1041	tr

*乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては、支流の沢統、上富美統、ボン川統があるが、支流の沢統とは成因因、上富美、ボン川統とは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(河成)

B 地形 標高220~240mの段丘

C 気候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地となっている。

E 農業上の留意事項

深耕、下層酸性矯正、有機物施用、加里肥料の増施

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
共栄ノ沢 - 共栄ノ沢	lltpn

② 土壌区説明

共栄ノ沢統一共栄ノ沢区

示性分級式（畑）

土	鵞	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	表	表	表	透	保	固	土	置	有	微	酸
産	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効
力	土	の	風	の	乾	水	潤	肥	定	塩	石	苦
可	の	層	の	の	の	水	潤	肥	定	塩	石	苦
能	の	磧	粘	土	乾	沃	沃	状	豊	含	"	"
性	厚	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	"	"
等	深	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素
級	さ	量	易	湿	度	度	度	否	性	度	無	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	
	II				2	2	2		1	2	1	
	1	1	1	1	2	2	1		1	1	2	
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式	II t p n											

A 土壌区の特徴

この土壌区は共栄の沢統一に属する。表土の厚さは18cm前後でやや浅く、有効土層は概ね1m以上あつて深い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸～やや強く、耕起、碎土やや困難である。保水性中庸、透水性大で過湿のおそれはない。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態中庸で、自然肥沃度は高いほうである。養分は加里が少なく、磷酸は中庸で他のものは多い。酸度は表土で中庸であるが下層は極めて強い。特殊な障害性、災害性はなく、地形は2～3°で水蝕おそれも少ない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地となつている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅めなので深耕すること。その際有機物の施用と共に下層が極めて強い酸性なので炭カルもあわせて施用すること。加里が乏しいので加里肥料を増施する必要がある。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

上 芭 露 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量4%内外。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~4。発達弱度の細粒状構造で細孔富む。ち密度1.8で疎。PH(H₂O)6前後。下層とは平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植を欠く、土性はLiCを主とする。色は5Yで明度6~7。彩度3~4。径30~50mmの柱状構造。ち密度2.6~2.9で密で不透水層となつている。PH(H₂O)5.5前後。下層とは平坦明瞭である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠く。土性はHCが主である。色は5Yで明度7~8。彩度1~2。径30~50mmの柱状構造。ち密度2.4~2.6で中~密。PH(H₂O)5前後。下層とは平坦で漸変である。

第4層は厚さ25cm前後で腐植を欠く。土性はLiCが主である。色は5Yで明度7~8、彩度1。径50~100mmの柱状構造。ち密度2.0~2.4で中。PH(H₂O)4.5~5.0。下層とは平坦で漸変である。

第5層は概ね75cm以下で腐植を欠く。土性はC(農学会法触感)である。色は5Yで明度7~8、彩度1。径50~100mmの柱状構造。赤褐で雲状の酸化沈積物に富む。ち密度中~密。調査時の湿り半乾。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字西 露 試坑No.61

第1層	0~19cm	腐植含む暗褐(10YR2/3)のLiC。弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	19~33cm	腐植欠く灰黄(5Y7/3)のLiC。柱状構造。ち密度2.7で密。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	33~50cm	腐植欠く淡黄灰(5Y8/2)のHC。柱状構造。ち密度2.4で中。PH(H ₂ O)5.0。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第4層	50~75cm	腐植欠く淡黄灰(5Y8/1)のLiC。柱状構造。ち密度2.2で中。PH(H ₂ O)4.8。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第5層	75cm以下	腐植欠く淡黄灰(5Y8/1)の農学会法触感)。柱状構造。雲状の酸化沈積物富む。ち密度中~密。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字西 露 試坑No.61

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	※ 全炭素%	※ 全窒素%	炭素率	腐植
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	3.1	7.7	25.5	40.9	25.9	LiC	150	2.46	2.39	0.244	9.8	4.0
2	19~33	3.1	1.7	20.8	39.4	28.1	LiC	139	2.63	—	—	—	—
3	33~50	3.9	1.0	19.3	32.6	47.1	HC	162	2.71	—	—	—	—
4	50~75	4.3	0.6	21.4	37.7	40.3	LiC	175	2.98	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	0.5	22.8	13.2	2.3	0.1	58	804	5.0
2	5.6	3.8	20.3	21.0	7.7	2.3	0.2	37	756	tr
3	5.0	3.6	33.8	24.9	7.4	14.8	0.3	30	849	tr
4	4.8	3.4	31.5	24.3	7.9	4.0	0.3	33	766	tr

※乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌区としては、芭露南統、志撫子統、西芭露統、芭露中央統、円山統、キナウシ統、ボン川統があるが、前4統は沖積、円山統は崩積、キナウシ統、ボン川統は扇状堆土でいづれも本統と堆積様式を異にするので区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩(砂岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(河成)

B 地 形 標高30m内外の段丘

C 気 候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど採草地、畑地、放牧地として利用されている。

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、加里肥料の増施

F 分 布 北海道紋別郡湧別町字計呂地、上 露、西 露の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上芭露 - 上芭露	Itpwna

② 土壤区別説明

上芭露統 — 上芭露区

示性分級式 (畑)

土 生 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 含 深 さ	表 土 粘 着 性	表 土 乾 燥 性 易	透 水 性 濕 度	保 湿 性 度	自 然 沃 度	養 分 力 否	置 換 性 量	有 効 態 量	障 害 物 質 有 害 性 素	災 害 的 障 害 無 性 性	傾 斜 度 斜 度	傾 斜 度 斜 度	侵 蝕 性 性	耐 水 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e							
		3 2 2	3 2 2	1 2 1	1 1 3 2 1 2	1 1	2 1	1 — —	1 1 1						
簡略分級式	l t p w n a														

A 土壤区の特徴

この土壤は上芭露統に属する。表土の厚さは20cm内外で少々浅く、有効土層は概ね1mで深い。表土の土性は微粒質で粘着性~稍強く、耕起、碎土はやや困難である。保水性中庸であるが、下層の透水性小さく、湿性を呈している。保肥力大、固定力小、塩基状態概ね良好で自然肥沃度は高い。養分は加里が少なく、磷酸中庸でその他のものは多い。酸度は中庸であるが次層以下いずれも極強酸性を呈し、有効態磷酸が極めて乏しい。特殊な障害性はなく、降雨により一時的に冠水のおそれがある。地形は2°~3°で水蝕も認められる。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地、採草地、放牧地である。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全なものとする。心土破碎施行も有効と思われる。一般に表土がやや浅いので有機物施用と共に深耕を続けることが望ましい。その際は下層が極強酸性を呈しているため炭カルも併せて施用すること。加里及び磷酸肥料を増施すること。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字計呂地、上芭露、西芭露の一部
 記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

支流の沢統

(1) 土壤統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.5cm前後で腐植含量4%内外。土性はCLを主とする。色は10YRで明度2～4、彩度2～3。未風化の中～小円礫を含む。発達程度弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度1.2で疎である。PH(H₂O)5.5前後。下層とは平坦で判然である。

第2層は厚さ1.5cm前後で腐植含量1～2%。未風化の中～小円礫に頗る富み～礫土で礫間に土性SLを挟む。色は10YRで明度3～5、彩度2～4。構造は見られないが礫間を充填するものは細孔に富む。ち密度は密である。PH(H₂O)5.5前後。下層とは平坦で明瞭である。

第3層は概ね3.0cm以下で未風化の中～小円礫よりなる礫層で、礫間に土性S(農学会法触感)を挟む。色は10YRで明度5～7、彩度3～4。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字上富美 試坑No.11

第1層	0～1.5cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のCL。未風化中～小円礫含む。弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度1.2で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	1.5～3.0cm	腐植ある灰黄褐(10YR4/3)のSLを挟む未風化中～小円礫よりなる礫層。ち密度密。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。
第3層	3.0cm以下	腐植欠く灰黄褐(10YR6/4)のS(農学会法触感)を挟む未風化中～小円礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字上富美 試坑No.11

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 [※] %	全窒素 [※] %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～1.5	2.4	3.4	25.6	24.6	18.4	CL	2.50	0.200	12.5	4.2
2	1.5～3.0	2.1	46.6	20.6	18.8	14.0	SL	0.83	0.081	10.2	1.4

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.5	2.4	16.7	7.4	1.0	0.2	4.4	4.40	17.6
2	5.6	4.3	7.7	14.0	3.9	1.5	0.2	2.8	4.78	tr

※乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては、共栄の沢統、上富美中央統、開盛統、滋賀東統、上富美統、滋賀統、富美統、ホン川統があるが共栄の沢統とは成因。その他の土壌統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 固結火成岩（流紋岩）

A-4 堆積様式 洪積世堆積（扇状堆土）

B 地形 標高130～160mの段丘状扇状地

C 気候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草地、放牧地となつているが、一部荒廃しているところもある。

E 農業上の留意事項

有機物施用、加里肥料の増施、水蝕防止

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
支流の沢—支流の沢	It di l g f n s e

② 土壌区別説明

支流の沢統一支流の沢区

示性分級式（畑）

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵													
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐							
産	土	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風			
力	土	の	の	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	の	蝕
可	層	の	の	の	粘	土	水	沃	状	豊	含	"	"	要	の	障	危	危	傾	方	傾	蝕	蝕	
能	の	難	土	着	硬	乾	沃	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性
性	厚	含	性	性	性	性	度	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性
等	深	性	性	性	性	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	湿	度	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e													
簡略分級式	It di l g f n s e																							

A 土壌区の特徴

この土壌区は支流の沢統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅く、次層以下礫層～礫が多く、有効土層は極く浅い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸であり、耕起、碎土は比較的容易であるが、礫に富み、農具の磨耗がはげしい。保水性中庸で透水性も中庸～稍々小さいが、過湿のおそれは少ない。保肥力中庸、固定力極く小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。養分は加里少なく、苦土中庸で、その他のものは多い。酸度は中程度であるが次層は強酸性である。特殊な災害性はなく、地形は概ね3～5°で部分的に水蝕がみられる。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地、採草地、放牧地となつている。

C 地力保全上の問題点

一般に腐植が少ないので有機物を施用すること。また加里に乏しいので増施することが望ましい。表土、有効土層浅く、礫が多いのであるべく草地として利用する方が土壌保全上望ましいと考える。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

計 呂 地 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量5%内外。土性はLiOを主とする。色は10YRで明度2～3、彩度2～4。風化～腐朽小円～半角礫を含む。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度10前後で頗る疎。PH(H₂O)5.5前後。下層とは平坦で明瞭である。

第2層は厚さ12～13cmで腐植含量1～2%。土性はOLを主とする。色は10YRで明度3～5、彩度2～4。風化～腐朽小円～半角礫に富む。発達中程度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度20～25で中～密。PH(H₂O)5.5前後。下層とは漸変である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。土性はCLを主とする。色は10YRで明度4～6、彩度2～4。風化～腐朽小円～半角礫に頗る富む。発達弱度の細塊状構造と柱状構造で細孔含む。ち密度26～30で密～甚密。PH(H₂O)5.5前後。下層とは漸変である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠く。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5～7、彩度3～6。風化～腐朽礫に頗る富む。柱状構造で細孔あり。ち密度26～30で密～甚密。PH(H₂O)5.5前後。下層とは漸変である。

第5層は概ね65cm以下で風化～腐朽小円～半角礫(砂岩、頁岩)よりなる礫層で極めて堅密である。(色は10YR7～8/4)

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字計呂地 試坑No.50

第1層	0～16cm	腐植富む黒褐(10YR2/3)のLiO。風化～腐朽小円～半角礫含む。弱度の細粒状構造。細孔富む。ち密度8で頗る疎。PH(H ₂ O)5.6。
-----	--------	---

		調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第2層	16~29cm	腐植ある灰黄褐(10YR4/3)のCL。風化~腐朽小円~半角礫富む。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度23で中。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第3層	29~51cm	腐植欠く灰黄褐(10YR5/3)のCL。風化~腐朽小円~半角礫頗る富む。弱度の細塊状構造と柱状構造。細孔富む。ち密度28で密。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第4層	51~65cm	腐植欠く灰黄褐(10YR6.5/4)のCL。風化~腐朽小円~半角礫に頗る富む。柱状構造。細孔あり。ち密度28で密。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第5層	65cm以下	風化~腐朽小~中円~半角礫(砂岩、頁岩)よりなる灰黄褐色を呈する堅密な礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字計呂地 試坑No.50

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 %	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	2.9	10.8	28.4	34.3	26.5	LiC	151	2.51	3.16	0.218	14.5	5.3
2	16~29	2.1	17.5	26.7	36.7	19.1	CL	152	2.66	0.83	0.084	9.9	1.4
3	29~51	2.3	22.7	25.2	35.1	17.0	CL	—	—	—	—	—	—
4	51~65	2.5	18.2	33.3	32.4	16.1	CL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.5	2.0	20.9	10.6	1.8	0.2	51	802	3.3
2	5.4	4.1	10.5	23.6	5.1	1.2	0.2	22	748	tr
3	5.4	3.9	20.3	22.8	4.5	0.9	0.3	20	629	tr
4	5.5	3.7	33.5		3.1	1.6	0.3		592	tr

※乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては志撫子統、上芭露南統、ポン川統、円山統があるが、いずれも本統とは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩(砂岩、頁岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高40m~60mの段丘

C 気 候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、採草地、放牧地に利用されている。

E 農業上の留意事項

深耕(有機物、炭カル施用)、加里、磷酸肥料の増施

F 分布 北海道紋別郡湧別町字計呂地、東芭露の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
計 呂 地 - 計 呂 地	IItdgpnis

② 土壌区別説明

計 呂 地 統 一 計 呂 地 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	耕	表	表	表	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	表	表	透	保	置	有	有	增	自	侵
産	土	土	土	然	固	層	微	物	地	傾	耐
力	土	土	土	然	土	換	酸	害	冠	斜	風
可	の	の	の	水	定	の	量	質	す	為	水
能	の	の	の	潤	肥	塩	加	害	水	の	風
性	厚	粘	粘	沃	状	基	磷	の	的	危	蝕
等	深	性	性	力	量	灰	要	障	害	險	蝕
級	さ	量	易	度	否	土	素	無	性	度	蝕
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
II	II	II	II	3	3	2	1	2	2	1	1
簡略分級式 IItdgpnis											

A 土壌区の特徴

この土壌区は計呂地統に属する。表土の厚さは15cm前後で浅く、有効土層は概ね60cm前後で中庸～稍浅い。表土の土性は微粒質で粘着性強く。耕起、砕土やや困難である。透水性中庸、保水性中庸で過湿のおそれはない。保肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高い方である。養分は加里少なく、磷酸も中～やや少ないが他のものは多い。酸度は中程度であるが下層は強酸性である。特殊な災害性なく、地形は5°内外の傾斜であるが水蝕は認められない。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草表、放牧地となっている。

C 地力保全上の問題点

作土が浅いので深耕することが必要で、その際有機物、炭カル等を施用すること。また加里、磷酸等の肥料を増施することが望ましい。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字計呂地、東芭露の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

福 島 南 統

(1) 土壌統の特徴

A 土壌統の概説

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17~20cmで腐植含量5~7%。土性はLiC~CLである。風化小半角礫富む。色は10YRで明度2~3、彩度3。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度12~17で疎。PH(H₂O)5.3~6.0。下層とは平坦で判然である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量1~2%。土性はLiC~CLである。風化小円~半角礫に富む色は10YRで明度4、彩度3~4、発達弱度~中度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度14~21で疎~中。PH(H₂O)5.6 5.6~5.7。下層とは漸変である。

第3層は厚さ15~20cmで腐植を欠く。土性はCLを主とする。風化小~中円 半角礫に富む~頗る富む。色は10YRで明度5~7、彩度3~4。発達弱度の細塊状構造もしくは柱状構造で細孔を含む。ち密度20前後で中。PH(H₂O)5.2~5.5。下層とは平坦で判然である。

第4層は概ね50cm以下で腐植を欠く。土性はCL(農学会法触感)を主とする。風化小~中円~半角礫に富み~頗る富み。礫土のところもある。概ね均質連結状で細孔あり程度、明黄褐~黄褐の雲状の酸化沈積物を含むところが多い。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字福島 試坑No.46

第1層	0~19cm	腐植富む黒褐(10YR 2/3)のLiC。風化小半角礫富む。弱度の細粒状構造、細孔含む。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	19~32cm	腐植含む灰黄褐(10YR 4/3)のLiC。風化小半角礫富む。弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	32~50cm	腐植欠く灰黄橙(10YR 7/3)のCL。風化小半角~円礫富む。巾30~80mmの柱状構造と弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り半湿。層界平坦判然。
第4層	50cm以下	腐植欠く淡黄褐灰(10YR 8/2)のCL(農学会法触感)。風化小~中半角~円礫富む。5~15mmの板状構造もしくは均質連結状。細孔あり。雲状の酸化沈積物含む。ち密度21で中。調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字福島 試坑 No. 46

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	3.6	18.5	26.1	28.5	26.9	LiC	1.43	2.44	3.91	0.298	13.1	6.5
2	19~32	3.1	18.6	24.4	31.9	25.1	LiC	1.15	2.62	1.20	0.112	10.7	2.0
3	32~50	2.8	19.2	35.4	25.0	20.4	CL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.0	14.3	36.9	9.3	1.8	0.1	25	942	3.3
2	5.6	4.0	19.8	28.6	3.9	0.3	0.1	14	842	4.1
3	5.2	3.9	24.0	26.5	4.7	1.5	0.1	18	707	tr

※乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては、信部内統、旭統、信部内北統、五鹿山統、北兵村統、芭露中央統、円山統、ボン川統、キナウシ統があるが、いずれも成因、あるいは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩(砂岩、頁岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(扇状堆土)

B 地 形 標高50~70mの段丘

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

殆んど採草地、畑地、放牧地であるが一部荒廃地化している。

E 農業上の留意事項

深耕、酸性改良、加里肥料の増施、水蝕防止

F 分 布 北海道紋別郡上湧別町字上富美、富美、札富美、中トバノ沢の一部、湧別町字福島の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
福島南一 福島南	■ n t d g p f s e

② 土壤区別説明

福島南統一福島南区

示性分級式 (畑)

土 壤表有表耕 生 効土 産土	表表表 土土土 転土土	土 地	自 透保湿	養 固土置	障 有微酸	災 有物	傾 增地	侵 自傾人	耐 耐
力土の 可の層 能の	のの のの 粘土 の	乾の 水水潤肥	然 層分換	の性 の性	塩の 石苦加	害質的 害質的	害の のの	斜 然為	水風
性厚 等深	難土着 性性さ 易	乾 沃	力力 力力	量量 量量	要 素度	障 有害	危危 険険	傾方 斜向斜	蝕蝕 蝕蝕
級さ	量量	湿	度	否	性	性	斜	蝕	性性
t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
■			3 2 2 1 2 2	1 2 3	1 1 3 2 1 3	I 1 1 I 1 1	2 - -	1 2 1	
簡略分級式 ■ n t d g p f s e									

A 土壤区の特徴

この土壤区は福島南統に属する。表土の厚さは17~19cmでやや浅く、有効土層は概ね50~60cmで中~やや浅めである。表土の土性は微粒質~細粒質で粘着性やや強く、耕起、碎土がやや困難である。透水性大、保水性中庸であるが下層に酸化沈積物を含んでいるので過湿状となることがある。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中位である。養肥分は加里少なく、磷酸中庸で他のものは多いが酸度は強~極強酸性を呈する。特殊な災害性はなく、地形は概ね5~6°の傾斜で水蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草地、放牧地であるが一部荒廃地化している。

C 地力保全上の問題点

強い酸性を呈しているので炭カル施用を行ない、酸性改良を実施すること。作土が浅めであるので深耕することが望ましい。その際は有機物等改良資材を施用すること。加里が少ないので加里肥料を増肥する必要がある。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美、富美、札富美、中トバン沢の一部

湧別町字福島の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

東 芭 露 統

(1) 土壌統の概説

A-1 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量4%内外、土性はCL~LiCである。頁岩の半風化小半角礫を含む~富む。色は10YRで明度3~4、彩度2~4。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度は1.6~2.0で疎~中である。PH(H₂O)5.5~6.6。下層との境界は平坦で明瞭~判然である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植を欠く、土性はCLを主とする。頁岩の小半角礫を含む~富む。色は10YRで明度7~8、彩度2~4。径20~70mmの柱状構造と発達弱度の細塊状構造で細孔を含む。亀裂面は灰色の脈状を呈する。ち密度2.2~2.8で中~密。PH(H₂O)5.3~5.4。下層との境界は平坦で漸変である。

第3層は厚さ18~20cmで腐植を欠く。土性はLiCのものが多い。頁岩の小半角礫を含むが頗る富むところがある。色は10YR~2.5Yで明度7~8、彩度2~3。径30~100mmの柱状構造である。グライ斑を含み、亀裂面は灰色の脈状を呈する。ち密度2.5~2.8で密である。PH(H₂O)5.5~6.0。下層との境界は漸変である。

第4層は概ね50cm以下で腐植を欠く、土性はLiCのものが多い。頁岩の小半角礫を含むが頗る富むところがある。色は10YRで明度8、彩度1~2。径50~100mmの柱状構造。グライ斑を含む。ち密度2.8~3.2で極密である。PH(H₂O)6前後。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字東芭露 試坑No.66

第1層	0~20 cm	腐植含む黄褐灰(10YR4/2)のLiC。小半角礫含む。弱度の細粒状構造。ち密度2.4~2.6で中~密、PH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り半乾層界判然。
第2層	20~30 cm	腐植欠く淡黄褐灰(10YR8/2)のCL、小半角礫含む。径50~70mmの柱状構造、亀裂面は灰色を呈する。ち密度2.8で密、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半湿、層界漸変。
第3層	30~50 cm	腐植欠く淡黄橙(10YR8/3)のLiC、小半角礫含む。径50~70mmの柱状構造、グライ斑含む。亀裂面は灰色を呈する。ち密度2.8で密、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、層界漸変。
第4層	50cm以下	腐植欠く淡黄褐灰(10YR8/1)のLiC、小半角礫含む。径50~70mmの柱状構造、ち密度2.8で密、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字東 露 試坑No.66

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素	全窒素	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土				%	%		
1	0~20	2.6	10.7	28.5	3.55	25.3	LiC			2.26	0.200	11.3	3.8
2	20~30	2.4	12.6	30.0	32.7	24.7	CL			—	—	—	—
3	30~50		10.2	29.1	32.0	28.7	LiC			—	—	—	—
4	50~		15.3	30.0	23.0	31.7	LiC			—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.6	6.3	0.4	22.0	15.9	0.8	0.4	72	895	7.4
2	5.4	3.7	18.8	19.7	5.3	3.8	0.2	27	624	tr
3	5.7	3.7	10.8	21.0	7.9	3.3	0.3	38		tr
4	6.1	4.7	6.3	19.3	9.7	3.3	0.2	50		4.8

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては、円山統、キナウシ統、芭露中央統、西芭露統、芭露南統、ポン川統があるが円山統は崩積土、キナウシ統は扇状堆土、その他は沖積土でいづれも堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩、頁岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(扇状堆土)

B 地形 5前後の傾斜を有する段丘(河成)

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地、採草地、放牧地である。

E 農業上の留意事項

排水完備、心土破碎、有機物の施用

F 分布 北海道紋別郡湧別町字計呂地、志撫子、芭露、上芭露、西芭露、東芭露の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
東芭露 - 東芭露	l t d g p w n i a s e

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量1%以下、土性はSで海砂よりなる。無構造で単粒状を呈する。ち密度は疎～頗る疎、PH(H₂O)6前後。下層との境界は平坦明瞭。

第2層は厚さ2cm前後で第3層を含めて腐植含量4～5%（触感では頗る富む）、土性はS（触感ではSL）、色は10YRで明度2、彩度1、概ね単粒状を呈するが発達極めて弱い細塊状構造もわずかに見られる。ち密度は疎、PH(H₂O)5.5～6.0、下層との境界は平坦明瞭。

第3層は厚さ4cm前後で腐植を含む（触感）、土性はSで火山灰及び海砂よりなる。色は概ね10YRで明度4～5、彩度2、単粒状を呈する。ち密度は疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は概ね21cm以下で腐植を欠く、海砂よりなり、土性はSである。色は不明、単粒状を呈し、ち密度は疎～頗る疎、PH(H₂O)6前後。

代表的断面形態

(所在地) 紋別市字落滑 試坑6紋別-30

第1層	0～15 cm	腐植欠く海砂よりなる砂層で大部分が粗砂、無構造で単粒状、ち密度疎、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第2層	15～17 cm	腐植富む黒(10YR2/1)のS、火山灰と海砂よりなる。無構造で単粒状、ち密度疎、PH(H ₂ O)5.7(第3層共)。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第3層	17～21 cm	腐植含む黄褐灰(10YR4～5/2)のS、火山灰と海砂よりなる。無構造で単粒状、ち密度疎、PH(H ₂ O)5.7(第2層共)。調査時の湿り乾、層界平坦明瞭。
第4層	21cm以下	腐植欠く海砂(粗砂)よりなる砂層、無構造で単粒状、ち密度疎～頗る疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

紋別市字 滑 試坑6紋別-30

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	0.3	98.1	0.6	0.8	0.5	S		0.35	0.051	7.0	0.6	
2	15～21	1.0	86.4	7.1	4.1	2.4	S		2.70	0.206	13.1	4.6	
3	21～	0.2	97.2	0.3	25	—	S		—	—	—	—	

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度%	燐酸吸 収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.3	0.3	5.04	1.6	0.6	0.3	32	215	
2	5.7	4.7	0.8	16.11	4.3	0.6	0.3	27	374	
3	5.9	4.4	1.5	1.90	0.7	0.1	0.2	37	214	

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては富栄床統、旭統、福島統、湧別統、サギ沼統、テイネイ統、芭露中央統、志撫子統があるが、富栄床統とは堆積様式が、またその他とは成因、堆積様式が異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 海砂

A-4 堆積様式 水積（海成）、風積

B 地形 オホーツク海、サロマ湖の岸に沿う細長い砂丘

C 気温 年平均気温6.2℃、年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

大部分ハマナス等の生育する未利用地、一部放牧地

E 農業上の留意事項

粘質土壌の客入、有機物の施用

F 分布 北海道紋別郡湧別町の海岸及びサロマ湖の湖岸の大部分

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中 番 屋 - 中 番 屋	IV(w) II t f n e

② 土壌区別説明

中 番 屋 統 - 中 番 屋 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	農表有表耕											土	自		養	障	災	傾	侵								
生	効	土	耘	土	土	地	然	層	換	"	"	効	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐			
産	土	土	土	土	土	土	地	然	層	換	"	"	効	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐		
力	土	の	の	の	の	の	風	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の		
可	の	層	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の		
能	の	層	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の		
性	厚	含	難	着	硬	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃		
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性		
級	さ	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易		
	t	d	g	p		w		f		n		i		a		s		e									
IV							1	1	1	(2)	IV	1	3	(2)		3	1	1		3	2	3	1	1	1		
簡略分級式 IV(w) t f n c																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は中番屋統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸で、有効土層は概ね1mで深い。表土の土性は粗粒質で粘着性はなく、耕起は容易である。透水性大、保水性極めて小さく、過干のおそれがある。保肥力小、塩基状態は良～中庸で自然肥沃度は中位である。養分は石灰、加里少なく、苦土は中庸で磷酸は多である。特殊な障害性、災害性はない。地形は波状で裸地では風蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分ハマナス等の自生する未利用地、一部放牧地

C 地力保全上の問題点

保水性、保肥力が小さいので粘質土壌の客入、及び有機物施用が必要である。

D 分 布

北海道紋別郡湧別町の海岸、及びサロマ湖の沿岸の大部分

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

川 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量6%内外、土性はSiCを主とする。色は10YRで明度2彩度2~3。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度19~20で中、PH(H₂O)6前後。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はSiCを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度3~4。発達中度の細塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度19~22で中、PH(H₂O)5.5~6.0。下層との境界は平坦で明瞭である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、SとSLの互層で土性はSLを主とする。色は2.5Yで明度4~5、彩度4~6。概ね単粒状で弱度の塊状構造もある。細孔に富み、小、中孔を含む。ち密度15で疎、PH(H₂O)5.5~6、下層とは平坦明瞭である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はSLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~4。発達弱度の細塊~塊状構造で細孔に富み、小、中孔を含む。ち密度15で疎、PH(H₂O)5.5前後。下層とは平坦明瞭である。

第5層は概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はS(粗砂)である。色は概ね2.5Yで明度4、彩度4、単粒状を呈し、ち密度17前後で疎、PH(H₂O)5.5前後。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字川西 試坑629

第1層	0~16 cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のSiC。弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度19で中、PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	16~35 cm	腐植欠く灰黄褐(10YR4/3)のSiC。中度の細塊状構造、細孔富み、小孔含む。ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	35~55 cm	腐植欠く明黄褐(2.5Y4/6)のSL。単粒状で一部に弱度の塊状構造。細孔富み、小、中孔含む。ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第4層	55~68 cm	腐植欠く黄褐灰(10YR4/2)のSL。弱度の細塊状構造、細孔富み、小、中孔含む。ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第5層	68cm以下	腐植欠く明黄褐(2.5Y4/4)のS。単粒状、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾~半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字川西 試坑 No. 29

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容 積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	3.5	2.4	17.8	45.5	34.3	SiC	1.14		3.67	0.369	9.7	6.1
2	16~35	2.8	0.4	28.1	45.9	25.6	SiC	1.51	2.68	—	—	—	—
3	35~55	1.5	13.0	57.8	14.9	14.3	SL	1.36		—	—	—	—
4	55~68	2.0	12.7	62.8	15.5	9.0	SL			—	—	—	—
5	68~	1.1	88.2	8.9	1.0	1.9	S			—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.3	0.6	46.0	20.3	1.9	1.4	44	941	544
2	5.8	4.6	2.3	34.1	11.3	1.9	0.3	33	802	tr
3	5.7	4.5	3.5	25.0	8.3	2.2	0.3	33	586	9.7
4	5.6	4.4	5.5	23.8	6.9	1.8	0.4	29	645	17.1
5	5.5	4.4	4.3	10.0	3.1	1.0	0.3	31	379	tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては富栄床統、信部内北統、旭統、中湧別統、中湧中央統、上湧別統、川西北統、芭露中央統があるが、富栄床統、信部内北統、旭統とは堆積様式、中湧別統とは礫層の有無、中湧中央統とは表土の深淺、上湧別統とは表土の土性と礫層の有無、川西北統、芭露中央統とは乾湿が異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩、流紋岩)

A-4 堆積様式 沖積(河成)

B 地形 湧別川下流の平地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、採草地である。

E 農業上の留意事項

深耕(有機物、磷酸資材の施用と共に)

F 分布 北海道紋別郡湧別町字川西の一部、上湧別町中湧別の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
川西 - 川西	ll t p f

② 土壌区別説明

川西統一川西区

示性分級式(畑)

土	塲	表	有	表	耕	土	自	養	置	有	障	災	傾	侵	
生	効	表	表	表	土	透	保	固	層	微	有	増	地	自	人
産	土	土	土	土	地	然	然	層	分	効	害	害	冠	斜	為
力	土	の	の	の	風	水	水	潤	肥	塩	害	害	水	然	水
可	の	の	の	乾	の	水	潤	肥	塩	石	加	質	的	の	風
能	層	の	粘	土	土	潤	肥	塩	基	灰	里	障	的	の	蝕
性	厚	含	難	土	着	乾	沃	沃	基	土	要	害	的	傾	蝕
等	深	性	性	性	性	性	性	度	力	力	量	素	無	度	蝕
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	度	否	性	性	度	性	度	蝕
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e					
II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
簡略分級式 II t p f															

A 土壌区の特徴

この土壌区は川西統に属する。表土の厚さは15~16cmでやや浅く、有効土層は概ね1m以上で深い。表土の土性は微粒質で粘着性中庸で、耕起、砕土はやや困難である。透水性大、保水性大で過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中位~やや高い。養分は置換性塩基類及び有効態リン酸のいづれも多く、酸度も弱~中程度であるが次層は磷酸加里に乏しい。特殊な災害性、障害性はなく、地形も平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地、採草地である。

C 地力保全上の問題点

特に問題点はない。一般に作土が15~16cmでやや浅いので深耕を続けることが望ましく、その際は次層が有機物、有効態のリン酸、加里等が乏しいのでこれらの施用を実施しながら漸次深耕すること。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字川西の一部、上湧別町中湧別の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

上 湧 別 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量1~4%、土性はSL~Lが多く、一部にCLもある。色は10YRで明度2~3、彩度2~4、発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度1.5前後で疎。PH(H₂O)6.5前後、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ5cm前後で腐植含量1~2%、土性はSL~LSで火山灰層である。色は10YRで明度3~4、彩度2~4。発達弱度の細塊状構造で細孔富む。ち密度1.5前後で疎、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ2cm前後で腐植を欠く。土性はSL(農学会法触感)で火山灰層である。色は10YRで明度7~8、彩度2。単粒状を呈している。ち密度1.5前後で疎。なおこの火山灰層のみられないところが多い。下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ30cm前後で腐植を欠く、土性はSLを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度2~4。単粒状を呈し、一部に発達弱度の細塊状構造もある。ち密度1.1~1.5で疎。PH(H₂O)5.5~7.0。下層との境界は明瞭である。

第5層は概ね60cm以下で砂岩、流紋岩、凝灰岩の中円~半角礫よりなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字南兵村 試坑№4

第1層	0~21 cm	腐植のある黒褐(10YR3/2)のL、発達弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)6.4。調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	21~26 cm	腐植欠く暗褐(10YR3/3)のSL(農学会法触感)。弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.5で疎、火山灰層、調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第3層	26~28 cm	腐植欠く淡黄褐灰(10YR8/2)のSL(農学会法触感)。単粒状、ち密度1.5で疎。火山灰層。調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第4層	28~57 cm	腐植欠く黄褐灰(10YR4/2)のSL、単粒状、ち密度1.1で疎、PH(H ₂ O)6.9。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第5層	57cm以下	砂岩(半風化)、流紋岩、凝灰岩(未風化)の中円~半角礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字南兵村 試坑№4

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	*全炭素 %	*全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~26	2.4	15.8	48.1	23.4	1.27	L	1.33	2.57	0.72	0.095	7.5	1.2
2	26~57	1.9	29.0	52.7	1.6	6.7	SL	1.47	2.58	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和 度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.6	0.2	20.4	13.6	0.9	0.9	6.7	46.0	27.9
2	6.9	5.9	0.2	15.5	10.1	0.5	0.3	6.5	39.7	25.3

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては富栄床統、旭統、中湧別統、中湧中央統、川西統、南兵村統、湧別統、川西北統があり、前2統とは堆積様式を異にし、中湧別統以下4統とは表土の土性が、また後の2統とは乾湿が異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)固結火成岩(流紋岩)

A-4 堆積様式 沖積(河成)

B 地形 湧別川流域の平地

C 気候 年平均気温6.2℃、年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地である

E 農業上の留意事項

有機物施用

F 分布 北海道紋別郡上湧別町開盛、南兵村、中湧別、北兵村の一部

湧別町四号線の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上湧別-1	II t d
" - 2	III d i II t g(w)
" - 3	II t d g n

② 土壌区別説明

上湧別統 - 1 区

示性分級式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵													
生	効	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐		
産	土	土	土	土	地	然		層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	然	為	水	風			
力	土	の	の	の	風			の	性	態	量			害	質	的	害	の	の			蝕			
可	の	層	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	の	障	危	危		
能	層	礫	粘	土	の	乾	沃	沃	状	豊	含								有	害	險	傾	傾		
性	厚	含	難	着	硬	乾																			
等	深	性	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	"	素	度	無	性	性	度	度	斜	斜
級	さ	量	易	湿	度	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p		w		f		n						i	a	s		e					
II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
簡略分級式 II t d																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は上湧別統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸であり、有効土層も60cm内外で中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。透水性大、保水性中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、固定力ごく小、塩基状態は良好で肥沃度は高いほうである。養分では苦土が中程度の他はどれも多く、酸度も弱い。特殊な災害性はなく、地形も一部緩波状の平地で浸蝕のおそれは少ない。

B 植主及び利用状況 殆んど畑地である。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので堆肥等有機物の施用を続けることが必要である。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字南兵村の一部、湧別町字川西の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

② 土壌区別説明

上湧別統 - 3区

示性分級式 (畑)

土	塲	表	表	表	透	保	固	土	置	有	微	酸	障	災	傾	侵		
生	効	土	耘	土	の	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	
産	土	土	土	土	の	風		の	性	態	量		害	物	水	り	斜	
力	土	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	質	的	の	
可	層	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	質	的	の	
能	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	質	的	の	
性	厚	含	難	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	有	害	障	危	
等	深	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量			素	度	無	性	
級	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	否	否			素	度	無	性	
	t	d	g	p		w		f		n				i	a	s	e	
	II	II	II	I	2	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1
	簡略分級式 II t g n																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は上湧別統に属する。1区とは表土より礫が出現し、2区より礫層が深いので区分したものである。表土の深さは20cm内外で中庸、有効土層も55cm内外で中庸である。表土の土性は細粒質で粘着性も中庸であり耕起、砕土はやや困難である。透水性大、保水性中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力ごく小で、塩基状態は中庸であるが肥沃度は高いほうである。養分では苦土が少ない他はいつでも多く、酸度も中庸である。特殊な災害性はなく、地形は概ね平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地である。

C 地力保全上の問題点

腐植が少なめであるので有機物の施用が必要である。また苦土に乏しいので苦土入り肥料を使用することが望ましい。

D 分布 北海道紋別郡上湧引町字南兵村の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

開 盛 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~17cmで腐植含量5%内外、土性はCL~LiCである。色は7.5~10YRで明度2~3、彩度3、泥岩、流紋岩の半角礫のあるところがある。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度15前後で疎である。PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ15cm前後で一部25cm程度のもあり、腐植含量1.5~5%、土性はCLである。色は7.5~10YRで明度3~5、彩度3~4、発達弱~中度の細塊状~塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度15前後で疎である。PH(H₂O)6前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はS(農学会法触感)である。色は10YRで明度4~5、彩度3~4、泥岩、流紋岩の中半角礫を含む。無構造で単粒状を呈する。ち密度15前後で疎である。下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ40~55cm以下で、泥岩、流紋岩の中円~半角礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字上富美 試坑No.15

第1層	0~15 cm	腐植富む黒褐(10YR2/3)のLiC、小~中半角礫あり、発達弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)7.0、調査時の湿り半乾。層界判然。
第2層	15~29 cm	腐植含む暗褐(10YR3/3)のCL、発達弱度の細塊状構造、細孔富み、小孔含む。ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾。層界判然。
第3層	29~43 cm	腐植欠く灰黄褐(10YR4/3)のS(農学会法触感)。中半角礫含む単粒状、ち密度15で疎、調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第4層	43cm以下	泥岩、流紋岩の中半角礫、円礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字上富美 試坑No.15

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素* %	全素* %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	2.1	9.6	32.9	32.4	25.1	LiC	1.49	2.42	2.96	0.348	8.5	5.0
2	15~29	2.3	14.7	31.6	34.2	19.5	CL	1.44		2.80	0.263	10.6	4.7

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.0	6.1	0.1	36.0	27.3	2.6	2.1	7.6	7.77	36.3
2	6.2	5.6	0.2	20.4	10.9	3.1	1.7	5.3	7.57	8.2

* 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては富美東統、芭露中央統、上富美中央統、中湧中央統、中湧別統があるが、富美東統、中湧別統は腐植含量少なく、芭露中央統は湿性で上富美中央統は礫層浅く、中湧中央統は腐植層厚く、かく礫層が出現しないのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩（砂岩）、固結火成岩（流紋岩）

A-4、堆積様式 沖積（河成）

B 地形 富美川等の小河川流域の低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、草地として利用されている。

E 農業上の留意事項 深耕

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字開盛、上富美、富美、札富美の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
開盛—開盛	lldpi

② 土壌区別説明

開 盛 統 — 開 盛 区

示性分級式（畑）

土	生	力	可	能	性	等	級	土	表	表	土	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	入	侵	耐		
産	効	土	の	厚	深	さ	量	土	表	表	土	土	地	然	然	層	換	性	性	態	量	物	害	冠	す	傾	斜	為	水	風		
力	土	の	の	の	の	の	の	風	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	傾	傾	方	蝕	蝕	
可	層	の	の	の	の	の	の	粘	土	乾	沃	沃	沃	沃	沃	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕		
能	厚	深	含	難	着	硬	乾	性	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	性	性	度	度	斜	斜	度	性	性	
等	深	含	難	着	硬	乾	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	素	度	無	性	性	性	度	度	斜	斜	度	性	性		
級	さ	さ	量	易	易	易	湿	湿	度	度	度	度	度	度	度	否	否	否	否	素	素	性	性	性	度	度	斜	斜	度	性	性	
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																						
ll	ll	ll	ll	3	2	2	1	1	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	ll	2	1	1	1	1	—	—	1	1	1
簡略分級式	lldpi																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は開盛統に属する。表土の厚さは30cm前後で深く、有効土層は50cm前後で中庸～やや浅い。表土の土性は細～微粒質で耕起、碎土はやや困難である。透水性はよく、保水性中庸で過湿のおそれは少ない。保肥力大、固定力は小で塩基状態良く、肥沃度は高い。養分分では概ね置換性塩基、有効態磷酸に富み、酸度も低いが、部分的に強酸性を呈し、磷酸に乏しいところもある。特殊な災害性なく、地形もほぼ平坦で侵蝕のおそれも少ない。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、草地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

特に問題点はないが作土がやや浅いので深耕することが望ましい。また強酸性を呈するところは酸性矯正が必要であるのはもちろんである。

D 分布

北海道紋別郡上湧別町字開盛、上富美、富美、札富美の一部
記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

中 湧 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm前後で腐植含量2～4%、土性はCL～LiCである。色は10YRで明度3、彩度2。発達弱度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度8～15で頗る疎～疎。PH(H₂O)6.3～6.4、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ30cm前後であるが、10cm以下のところがある。腐植を欠き、土性はCLが多い。色は10YRで明度3～4、彩度2～3。発達中度の細塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度13で疎。PH(H₂O)6.4、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植を含み(触感)、土性はCL(農学会法触感)を主とする。色は10YRで明度3、彩度2で発達中度の細塊状構造、細孔に富み、小孔含む。ち密度14で疎。下層との境界は判然である。

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はCL(農学会法触感)を主とする。色は10YRで明度4、彩度2～3、発達中度の細塊状構造で細孔富み、小孔含む。ち密度14で疎。下層との境界は明瞭である。

第5層は概ね80cm以下で未風化の砂岩、凝灰岩の小～中円礫よりなる礫層である。(一部24～25cm以下より礫層のところがある。)

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字北兵村 試坑No.24

第1層	0～18 cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のLiC、弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度8で頗る疎。PH(H ₂ O)6.3。層界平坦判然。
-----	------------	--

第2層	18~50 cm	腐植欠く黄褐灰(10YR4/2)のCL。中度の細塊状構造。細、小孔含む。ち密度13で疎。PH(H ₂ O)6.4。層界平坦明瞭。
第3層	50~61 cm	腐植含む(触感)黒褐(10YR3/2)のCL(農学会法触感)。中度の細塊状構造。細孔富み、小孔含む。ち密度14で疎。層界平坦判然。
第4層	61~82 cm	腐植欠く黄褐灰(10YR4/2)のCL(農学会法触感)。中度の細塊状構造。細孔富み、小孔含む。ち密度14で疎。層界平坦明瞭。
第5層	82cm以下	未風化小~中円礫よりなる礫層である。

代表的断面の分析成績
紋別郡上湧別町字北兵村試坑624

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	1.9	0.4	32.8	36.8	28.0	LiC	1.43	2.57	13.6	0.203	6.7	2.3
2	18~50	2.0	0.1	41.9	36.5	21.5	CL	1.48	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和 度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.6	0.1	27.4	18.8	1.5	0.9	6.9	7.53	24.0
2	6.4	5.1	0.3	24.4	15.4	2.1	0.3	6.3	8.32	31.9

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては上湧別統、川西統、中湧中央統があるが、上湧別統とは表土の土性が川西統は礫層が出現せず、また中湧中央統とは表土の深さが本統とは異なるのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 沖積(河成)

B 地形 湧別川流域の平地

C 気候 年平均気温6.2℃、年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、草地である。

E 農業上の留意事項

有機物施用、深耕

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字南兵村、北兵村、札富美の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

② 土壤区別説明

中 湧 別 統 - 2 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 勝表有表耕 生 効土 産土 耘土土 力土の 可の層 能の 性厚 等深 級さ t d g p ■ ■ 2 2 1 1 2 (2) 1 2 1 1 1 1 3 1 1 1 3 1 1 1 - - 1 1 1 簡略分級式 ■ d i ■ t(w)	自 養 透保湿 然 の 粘土 難土着硬 性性 量易 w f n 否	置 有微酸 層分換 " " 効 の 性 態量 の 石苦加磷 基 灰土里酸要 状豊含 " " " 力力態 量 素度 度 否 i a s	障 災 傾 侵 有物 増地 自傾人 侵耐 害理 冠す 斜 為 水風 物 水 り 然 の 風 害 質的 害の の 蝕 の 障 危危 傾方 蝕 有害 險險 無性 度度 斜向斜 度性性 性 性 斜 蝕 e
--	--	--	--

A 土壤区の特徴

この土壤区は中湧別統に属し、礫層が浅いので2区として区分したものである。表土の厚さは17cm前後でやや浅く、有効土層も24～25cm程度で浅い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸であるが耕起、固土は比較的容易である。保水性中、透水性大で地下水位低く、過干のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高い。養肥分については有効態磷酸に乏しい他はいづれも多く、酸度も弱い。災害性は特になが礫層が浅く、有効土層を制限しているのが障害となつている。平坦で浸蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地、草地である。

C 地力保全上の問題点

一般に腐植が少ないので有機物の施用が望ましい。また磷酸も不足しているので磷酸肥料の増肥をすること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字南兵村、北兵村、札富美の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

中 湧 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量6～7%、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2、彩度1～2。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度11で疎、PH(H₂O)6.5前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外、土性はLiC～CLである。色は10YRで明度3、彩度2～3。発達強度の細塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度16で疎、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦で漸変である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度4、彩度3。発達中程度の細塊状構造で細小孔を含む。ち密度19で中、PH(H₂O)5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ10～15cmで腐植を含む(触感)。土性はC(農学会法触感)である。色は10YRで明度3、彩度3。発達弱度の細塊状構造と径20～50mmの柱状構造で細小孔を含む。ち密度20で中、下層との境界は平坦漸変である。

第5層は厚さ40cm前後で腐植を欠く。土性はC(農学会法触感)である。発達弱度の細塊状構造と径20～50mmの柱状構造細孔に富む。ち密度19で中、下層との境界は平坦で明瞭である。

第6層は概ね1m以下で砂岩、凝灰岩の円礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字北兵村 試坑No.23

第1層	0～18 cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のLiC、弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度11で疎、PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	18～31 cm	腐植含む暗褐(10YR3/3)のLiC。強度の細塊状構造、細小孔含む。ち密度16で疎、PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第3層	31～52 cm	腐植欠く灰黄褐(10YR4/3)のLiC。中程度の細塊状構造。細小孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第4層	52～65 cm	腐植含む(触感)暗褐(10YR3/3)のC(農学会法触感)。弱度の細塊状構造と一部柱状構造、細小孔含む。ち密度20で中、調査時の湿り半乾、層界漸変。
第5層	65～110 cm	腐植欠く灰黄褐(10YR4/3)のC(農学会法触感)。弱度の細塊状構造と柱状構造。細孔富む。ち密度19で中、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第6層	110cm以下	未風化～半風化の円礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字北兵村 試坑No 23

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	※	※	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土				全炭素 %	全窒素 %		
1	0~18	2.9	2.0	26.5	37.5	34.0	LiC	1.27	2.51	3.94	0.338	11.7	6.6
2	18~31	2.7	0.2	30.6	36.2	33.0	LiC	1.51		1.73	0.188	9.2	2.9
3	31~52	2.7	0.3	25.2	42.2	32.3	LiC	1.67		—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和 度%	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	6.1	0.2	35.7	25.2	1.3	1.0	7.1	110.6	18.1
2	5.3	4.0	14.5	25.0	8.2	0.5	0.5	3.3	97.1	tr
3	5.2	3.9	15.7	23.7	6.5	1.3	0.4	2.7	89.5	tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として開盛統、中湧別統、上湧別統、川西統、湧別統、上富美中央統があり、開盛統と中湧別統とは礫層の深淺が、上湧別統とは表土の土性が本統と異なり、また、川西統は表土が浅く、湧別統、上富美中央統は湿性を呈するのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩（砂岩、凝灰岩）

A-4 堆積様式 沖積（河成）

B 地形 湧別川流域の平地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地である。

E 農業上の留意事項

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字南兵村、北兵村の一部、湧別町字四号線の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
中湧中央 - 中湧中央	II p

② 土壤区別説明

中湧中央統一中湧中央区

示性分級式 (畑)

土 生力可能性厚等級	表表表表透保濕	耕土 土土土土然	自 透保濕	養 保固土	置 層分換	有微酸 性態量	障 有物	災 增冠す	傾 地水り	傾 自傾人	侵 耐水風
産土の層のの粘の乾水水潤肥肥定塩の石苦加磷害質的害のののの	効土耘土土の風ののののののののの	土土土土然	然	層分換	" "効	性態量	物	冠す	水り	斜	為水
能の深含難土着硬乾沃状豊含" " "有害險	の層のののののののののの	土土土土然	然	層分換	" "効	性態量	物	冠す	水り	斜	為水
級ささ量易(湿)度力力態量素度無性性斜向斜度性性	の層のののののののののの	土土土土然	然	層分換	" "効	性態量	物	冠す	水り	斜	為水
t d g p w f n i a s e											
II II 3 3 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1											
簡略分級式 II p											

A 土壤区の特徴

この土壤区は中湧中央統に属する。表土の厚さは30cm内外、有効土層は概ね1m以上でいづれも深い。表土の土性は微粒質で粘着性強く、耕起、碎土に困難を感じる。透水性、保水性ともに大で過湿のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。養肥分は置換性塩基類、有効態磷酸いづれも高く、酸度も弱いが次層以下はYpが1.4～1.5以下の強酸性を呈する。特殊な障害性、災害性はなく、地形も平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地である。

C 地力保全上の問題点

特に問題点はないが、二層以下は強酸性を呈するので肥培管理に留意する必要がある。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字南兵村、北兵村の一部、湧別町字四号線の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

富 美 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外、土性はCLを主とする。色は1.0YRで明度3、

彩度 3~4。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度 1.5 前後で疎。PH (H₂O) 6 前後。下層との境界は判然である。

第 2 層は厚さ 1.5~1.8cm で腐植を欠き、土性は L を主とする。色は 1.0 YR で明度 4、彩度 3~4。発達弱度の細塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度 1.5 前後で疎。PH (H₂O) 6 前後。下層との境界は明瞭である。

第 3 層は厚さ 2.0cm 前後で腐植を欠く。土性は CL を主とする。色は 1.0 YR で明度 4~5、彩度 2~3。(上部 2cm は土性 S~SL の火山灰層で色は 1.0 YR 6/4 を主とし単粒状を呈する。) 発達弱度の細塊状構造で細孔に富み、小孔含む。ち密度 1.6~1.8 で疎。PH (H₂O) 6 前後。下層との境界は明瞭である。

第 4 層は厚さ 3.5cm 前後で腐植を欠き、土性は SL である。色は 1.0 YR で明度 5~6、彩度 4~6。構造は極めて弱い塊状構造である。ち密度 1.1~1.2 で疎。PH (H₂O) 6 前後。下層との境界は明瞭である。

第 5 層は概ね 8.5cm 以下で腐植を欠き、土性は C (農学会法触感) である。色は 2.5 Y で明度 6~7、彩度 1~3、均質連結状を呈し、明褐色の雲状酸化沈積物を含む。ち密度は疎である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字富美 試坑 No. 20

第 1 層	0~1.5 cm	腐植含む暗褐 (1.0 YR 4/3) の CL。弱度の細粒状構造。細孔富む。ち密度 1.5 で疎。PH (H ₂ O) 6.2。調査時の湿り半乾。層界判然。
第 2 層	1.5~3.2 cm	腐植欠く灰黄褐 (1.0 YR 4/3) の L。弱度の細塊状構造。細孔富み小孔含む。ち密度 1.6 で疎。PH (H ₂ O) 6.1。調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第 3 層	3.2~5.0 cm	腐植欠く黄褐灰 (1.0 YR 5/2) の CL (上部 2cm は灰黄橙 1.0 YR 6/4 の SL)。弱度の細塊状構造。細孔富み小孔含む。ち密度 1.7 で疎。PH (H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半湿。層界明瞭。
第 4 層	5.0~8.5 cm	腐植欠く灰黄褐 (1.0 YR 5/4) の SL。極めて弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度 1.1 で疎。PH (H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半湿。層界明瞭。
第 5 層	8.5cm 以下	腐植欠く灰黄褐 (2.5 Y 6/2) の C (農学会法触感)。均質連結状。明褐色の酸化沈積物含む。ち密度は疎。調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字富美 試坑 620

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	*全炭素 %	*全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	2.8	14.7	42.7	22.9	19.7	CL	1.66	—	16.7	0.155	10.7	2.8
2	15~32	2.4	14.5	44.0	26.3	14.8	L	1.62	—	—	—	—	—
3	32~50	2.3	8.5	42.9	28.0	20.6	CL	1.63	2.70	—	—	—	—
4	50~85	1.8	37.9	46.5	4.5	11.1	SL	1.56	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度%	* 磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.1	0.5	27.7	18.0	3.4	0.1	6.5	9.34	4.1
2	6.1	4.6	0.7	22.8	13.6	4.6	0.1	6.0	8.93	tr
3	6.0	4.6	1.0	23.5	14.2	4.6	0.1	6.0	8.92	tr
4	5.9	4.4	1.2	18.9	10.6	3.9	0.1	5.6	6.43	tr

* 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては開盛統、芭露中央統があるが、開盛統とは礫層の有無、芭露中央統は湿性を呈するのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)

A- 堆積様式 水積(河成)

B 地形 富美川下流の平地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地、草地

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、磷酸及び加里肥料の増施

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字富美の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土壌区名	簡略分級式
富美東 - 富美東	It n

② 土壤区別説明

富美東統一富美東区

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	置	有	微	酸	障	災	傾	侵	耐	耐						
生	効	土	表	表	表	透	保	固	層	性	態	量	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐		
産	土	土	土	土	土	然	層	分	換	の	性	態	量	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	
力	土	の	の	の	の	風	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	耐	耐
可	の	層	の	の	の	粘	土	乾	沃	状	豊	含	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	耐	耐
能	の	層	の	の	の	粘	土	乾	沃	状	豊	含	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	耐	耐
性	厚	の	粘	土	乾	沃	状	豊	含	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	耐	耐	耐	耐	耐
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	湿	度	力	態	量	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	湿	度	力	態	量	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p		w		f		n		i		a		s		e						
	II	I	I	I	2	2	I	I	2	1	I	2	1	I	1	1	1	I	1	I	1	1	I	1
簡略分級式		II t n																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は富美東統に属する。表土の厚さは15cm前後でやや浅く、有効土層は概ね1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸で耕起、碎土は容易である。透水性大、保水性中庸で過湿過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良好で自然肥沃度は高いほうある。養分については加里が少なく、有効態磷酸中庸の他は多く、酸度も弱い。次層以下は加里、磷酸に極めて乏しい。障害性、災害性は認められず、地形も平坦で侵蝕のおそれも少ない。

B 植生及び利用状況 概ね畑地、草地である。

C 地力保全上の問題点

一般に作土層浅く、かの腐植が少ないので深耕することと堆肥等有機物を施用することが望ましい。また磷酸、加里が不足しているので増施する必要がある。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字富美の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和44年3月31日

南 兵 村 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量6~7%、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1~2、彩度1~2。発達弱度の細粒状構造でち密度は1.1前後で疎である。PH(H₂O)6前後。層界平坦で判然である。

第2層は厚さ20cm前後で腐植を欠く、土性はSLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~3。発達弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度は1.5前後で疎である。PH(H₂O)6前後。層界平坦で明瞭である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。砂岩、凝灰岩の円礫に富み、土性はSである。色は2.5Yで明度3~4、彩度3~5。単粒状でち密度5前後で疎である。PH(H₂O)6前後。層界平坦で明瞭である。

第4層は概ね53cm以下で砂岩、凝灰岩、流紋岩の円礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字南兵村 試坑469

第1層	0~15 cm	腐植富む黒(10YR1/1)のCL、弱度の細粒状構造、ち密度1.1で疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	15~30 cm	腐植欠く黄褐灰(10YR4/2)のSL。弱度の塊状構造、細孔富む。ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第3層	30~53 cm	腐植欠く黒褐(2.5Y3/4)のS、半風化小~中円礫に頗る富む。構造は単粒状、ち密度4で極疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第4層	53cm以下	腐植欠く黒褐(2.5Y3/4)、半風化小~中円礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字南兵村 試坑469

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素% [※]	全窒素% [※]	炭素	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.1	19.9	37.2	23.9	19.0	CL	1.54	2.52	3.83	0.361	10.6	6.4
2	15~35	1.7	20.8	51.7	17.8	9.7	SL			—	—	—	—
3	35~53	1.0	9.23	5.2	2.5	0	S			—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.1	0.7	29.0	1.62	0.5	1.77	5.6	5.54	3.05
2	5.8	4.5	3.5	16.1	6.6	0.2	1.07	4.1	4.36	2.89
3	5.8	4.4	2.2	9.2	3.7	0.9	0.50	4.0	1.17	1.13

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては上湧別統、キノウシ統があるが、上湧別統は土性が粗くキノウシ統とは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩（砂岩、凝灰岩）

A-4 堆積様式 沖積（河成）

B 地形 湧別川流域の平地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 畑地、果樹園

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用、施肥の合理化

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字南兵村の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農学試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
南 兵 村 ー 南 兵 村	■ t ■ d(w) n

② 土壌区別説明

示性分級式（畑）

土	土	自	養	障	災	傾	侵																
表	表	透	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	傾	人	侵	耐	耐					
生	効	土	表	表	土	層	有	効	物	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐					
産	土	土	土	地	然	換	の	性	態	量	害	物	水	り	然	為	水	風					
力	土	の	の	乾	の	の	塩	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	蝕					
可	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害					
能	の	粘	土	の	乾	沃	状	豊	含	要	の	障	危	危	傾	方	蝕	蝕					
性	厚	含	難	着	硬	沃	状	豊	含	要	の	障	危	危	傾	方	蝕	蝕					
等	深	性	性	性	性	力	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	性			
級	さ	量	易	性	性	性	性	力	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	性	
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e													
■	■	■	■	2	2	1(■)	1	2	1	1	1	1	■	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1
簡略分級式 ■ t ■ d(w) n																							

A 土壌区の特徴

この土壌区は南兵村統に属する。表土の厚さは15cm前後でやや浅く、有効土層は50～55cmで中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、碎土は容易である。透水性極めて良く、リング等に対しては過乾のおそれがある。保肥力大、固定力ごく少、塩基状態は良好。加里に乏しく磷酸中庸で他は多い。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地、樹園地である。

C 地力保全上の問題点

作土層がやや浅いので有機物を施用しながら漸次深耕していくことが望ましい。また、加里に乏しいので加里肥料を増肥する必要がある。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字南兵村の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

湧 別 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-2 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3～5%、土性はSC～LICが多い。色は10YRで明度2～3、彩度2～3。発達弱度の細粒状構造で中度のものもある。ち密度18前後で疎～中。PH(H₂O)6前後。下層との境界平坦明瞭。

第2層は厚さ20cm前後で腐植含量3%内外。土性はLICが主である。色はNで明度2、彩度0、発達弱度の細塊状構造と柱状構造。細孔を含む。脈状の酸化沈積物を含む。ち密度15前後で疎、下層との境界は平坦明瞭。

第6層は概ね95cm以下で腐植を欠き土性はC(触感)である。色はNで明度5、彩度0、均質連結状を呈する。ち密度は20前後で中。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はSICを主とする。色はNで明度6、彩度0、巾5～10cmの柱状構造で細孔含む。脈状の酸化沈積物に富む。ち密度17～18で疎。PH(H₂O)6前後。下層との境界平坦明瞭。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はC(触感)である。色はNで明度5、彩度0。巾10cm内外の粒状構造で細孔あり、脈状の酸化沈積物に富む。ち密度17～18で疎、下層との境界は平坦判然。

第5層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はC(触感)である。色はNで明度6、彩度5。巾10cm前後の柱状構造。脈状の酸化沈積物に富む。ち密度15前後で疎、下層との境界は平坦明瞭。

第6層は概ね95cm以下で腐植を欠き土性はC(触感)である。色はNで明度5、彩度0、均質連結状を呈する。ち密度は20前後で中。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字川西 試坑31

第1層	0~21 cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のLiC。発達弱度と中度の細粒状構造。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O)6。調査時の湿り半湿。層界平坦明瞭。
第2層	21~40 cm	腐植含む黒(N2/0)のLiC。発達弱度の細塊状構造と柱状構造、細孔含む。脈状の酸化沈積物含む。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半湿。層界平坦判然。
第3層	40~61 cm	腐植欠く灰(N6/0)のSiC。発達中度の柱状構造。細孔含む。ち密度1.7で疎。脈状の酸化沈積物含む。PH(H ₂ O)6.3。調査時の湿り湿。層界明瞭。
第4層	61~78 cm	腐植欠く灰(N5/0)のC(触感)、発達中~強度の柱状構造。細孔あり。脈状斑鉄富む。ち密度1.7で疎、調査時の湿り湿。層界判然。
第5層	78~96 cm	腐植欠く灰(N6/0)のC(触感)。発達弱度の柱状構造、脈状富む。ち密度1.5で疎。調査時の湿り湿。層界明瞭。
第6層	96cm以下	腐植欠く(N5/0)のC(触感)。構造は均質状、ち密度2.0で中。調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字川西 試坑31

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	※	※	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土				全炭素%	全窒素%	
1	0~21	3.3	18.0	13.8	36.6	31.6	LiC	1.23	1.92	0.226	8.7	3.2
2	21~40	3.6	3.2	14.3	42.0	40.5	LiC	1.45	1.80	0.196	92	3.0
3	40~61	3.0	2.9	22.2	49.2	25.7	SiC	1.57	2.62	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.9	0.8	28.8	14.1	1.5	0.51	4.9	83.4	23.2
2	5.9	4.7	1.5	30.5	13.4	1.9	0.31	4.4	94.2	11.2
3	6.3	5.0	0.5	25.6	12.9	3.7	0.21	5.0	87.9	21.9

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては川西北統があるが、川西北統は表土の腐植含量が多く、下層に泥炭層があるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩（砂岩、凝灰岩）

A-4 堆積様式 沖積（河成）

B 地形 湧別川とシブノツナイ川流域の平地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 畑地、採草地

E 農業上の留意事項

排水完備、有機物施用

F 分布 北海道紋別郡湧別町市街地、川西、信部内、西の沢

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
湧別-湧別	ltpwfa

(2) 土壌区別説明

湧 別 統 - 湧 別 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	土	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤表有表耕	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐耐
生効土	土土土	然	層分換	の性	態量	害理	冠す	斜為	水風
産土	土の土	の風	の乾の	水水潤肥定	塩の石苦加磷	害質的	害の	の	の
力土の	のの	粘土	沃	状豊含	基灰土里酸要	の障	危危	傾方傾	蝕蝕
可の層	のの	の乾	沃	状豊含	基灰土里酸要	の障	危危	傾方傾	蝕蝕
能の	難土着便	乾	沃	状豊含	基灰土里酸要	の障	危危	傾方傾	蝕蝕
性厚の	含難土着便	乾	沃	状豊含	基灰土里酸要	の障	危危	傾方傾	蝕蝕
等深	含難土着便	乾	沃	状豊含	基灰土里酸要	の障	危危	傾方傾	蝕蝕
級さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	斜	度性性
tdgp	w	f	n	i	a	s	e		
llllll	llll	llll	llll	llll	llll	llll	llll	llll	llll
簡略分級式	ltpwfa								

A 土壌区の特徴

この土壌区は湧別統に属する。表土の厚さは20～40cmで中～深く有効土層は1m以上で深い。表土の土性は微粒質で耕起、砕土がやや困難である。透水性小で過湿のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態中庸、加里中～少なく、他は多い。障害性なく、冠水のおそれがある。侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草地となっており、ビート、馬鈴薯、麦類、飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

まず排水の設備を完全なものにすること。腐植含量が少ないので堆厩肥等有機物を施用すること。

D 分布

北海道紋別郡湧別町の市街地、川西、信部内、西ノ沢の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

川 西 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後、腐植含量7%内外、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2～3、彩度1～2、発達弱度の細粒状構造。ち密度15～18で疎。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭。

第2層は厚さ45cm前後、腐植欠き、土性はSiCを主とする。色は10YRで明度5～7、彩度1～2、構造は均質状を呈す。細孔あり、赤褐の酸化沈積物を含む。ち密度15前後で疎。PH(H₂O)5.5～6。下層との境界は平坦明瞭。

第3層は厚さ10cm前後。ヨシを主材とする分解良好な低位泥炭に泥土を混入する垂泥炭層、色はNで明度3、彩度0、赤褐色の酸化沈積物を含む。ち密度10以下で極めて疎である。下層との境界は平坦明瞭。

第4層は厚さ15cm前後、腐植及び泥炭を含み、土性はC(触感)である。色は10YRで明度5～6、彩度2。構造は均質状で灰赤褐の酸化沈積物を含む。ち密度10以下で疎。下層との境界は平坦明瞭。

第5層は厚さ10cm前後でヨシを主材とする低位泥炭に泥土を混入する垂泥炭層。色は10YRで明度1、彩度1。分解良好、下層との境界は平坦明瞭。

第6層は概ね95cm以下でヨシ、ゼンマイを主な構成植物とする泥炭層。色は10YRで明度2彩度1。分解度3で分解不良。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字川西 試坑No.32

第1層	0～15 cm	腐植富む黒(10YR2/1)のLiC。弱度の細粒状構造。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
-----	------------	--

第2層	15~58 cm	腐植欠く黄褐灰(10YR6/2)のSiC。構造は均質状(一部柱状構造)、赤褐色の酸化沈積物含む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半湿。層界平坦明瞭。
第3層	58~70 cm	灰黒(N3/0)のC(触感)。ヨシ泥炭に泥土を混入した亜泥炭。分解良好。赤褐色の酸化沈積物含む。ち密度8で極疎。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第4層	70~85 cm	腐植及び泥炭を含む黄褐灰(10YR6/2)のC(触感)。構造は均質状。灰赤褐色の酸化沈積物含む。ち密度8で極疎。調査時の湿り半湿。層界平坦明瞭。
第5層	85~94 cm	黒(10YR1/1)のヨシ泥炭に泥土を混入した亜泥炭。分解良好。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第6層	94cm以下	黒(10YR2/1)のヨシ、ゼンマイよりなる低位泥炭。分解度3で不良。調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字川西 試坑632

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成				土性	現地容 積重g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	4.0	23.5	8.9	36.2	31.4	LiC	1.37		4.36	0.356	12.2	7.2
2	15~58	3.3	0.3	5.9	54.1	39.7	SiC	1.49	2.55	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和 度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.2	8.8	15.2	8.7	0.7	0.11	5.7	90.8	13.3
2	5.7	3.9	16.5	31.0	9.8	2.2	0.13	3.2	90.1	tr

※.乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては湧別統、サギ沼統、志撫子統があるが湧別統は土層内に泥炭層がなく、サギ沼統は表層より泥炭であり、志撫子統は泥炭層が本統より浅いのでそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩、凝灰岩)/ヨシ(非固結水成岩混)

A-4 堆積様式 沖積(河成)/亜泥炭

B 地形 湧別川下流域の平地

C 気温 年平均気温6.2℃、年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね採草地、放牧地、畑地で一部未利用地

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、酸性矯正、施肥合理化

F 分布 北海道紋別郡湧別町字、東の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
川西北 — 川西北	lltpwfn

② 土壌区別説明

川 西 北 統 一 川 西 北 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 生 力 可 能 性 等 級	表 効 土 の 層 の 厚 含 深 さ	表 土 の の 粘 土 難 着 性 易	表 土 の の 粘 土 難 着 性 易	透 風 乾 の 水 潤 沃 性 度 度	保 水 潤 肥 定 力 力 態 量 否	固 定 力 力 態 量 否	置 換 の 性 態 量 " " " "	有 微 酸 物 害 質 的 障 害 無 性 性	障 害 質 的 障 害 無 性 性	災 害 質 的 障 害 無 性 性	傾 危 險 斜 向 斜 度 性 性	傾 危 險 斜 向 斜 度 性 性	傾 危 險 斜 向 斜 度 性 性	侵 耐 風 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e				
ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll
簡略分級式 lltpwfn														

A 土壌区の特徴

この土壌区は川西北統に属する。表土の厚さは15cm前後でやや浅く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は微粒質、粘着性中庸で耕起、砕土がやや困難である。下層に垂泥炭があり、過湿のおそれがある。

保肥力中、固定力ごく小で塩基状態は良好である。加里少なく、苦土中程度で、他の養分は多い。

災害性、障害性はなく、侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

概ね採草地、放牧地及び畑地（麦類、根菜類）で一部に未利用地となつている。

C 地力保全上の問題点

まず排水を完全なものとする。作土が浅めなので深耕することが望ましい。また酸性を呈しているため矯正すること。加里分が少ないので加里肥料を増施すること。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字川西、東の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

北 兵 村 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ15cm前後で腐植含量15%内外、土性はLiCが多い。色は10YRで明度1、彩度1、発達弱度の細粒状構造でち密度10前後で極めて疎である。PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦で判然である。

才2層は厚さ15cm前後で腐植含量6%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度3。発達中度の細塊状構造で細孔を含む。ち密度15前後で疎、PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦で漸変する。

才3層は厚さ10cm前後で腐植含量2~3%、土性はLが主である。色は10YRで明度4~6、彩度2~3。発達弱度の細塊状構造と巾2~6cmの柱状構造で細孔に富み、小孔がある。明褐の酸化沈積物を含む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦で判然である。

才4層は概ね40cm以下で腐植を欠き(一部含む)、土性はC(触感)である。色は7.5YRで明度3~4、彩度3~4。発達中度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度17前後で疎、下層との境界は平坦で判然である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡上湧別町字北 村 試坑627

才1層	0~16cm	腐植頗る富む黒(10YR ¹ / ₁)のLiC。弱度の細粒状構造、ち密度8で極疎、PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
才2層	16~28cm	腐植富む黒褐(10YR ² / ₃)のCL。中度の細塊状構造、細孔含む。ち密度14で疎、PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
才3層	28~41cm	腐植含む黄褐灰(10YR ⁵ / ₂)のL。弱度の細塊状構造と柱状構造。細孔富み、小孔あり。明褐の酸化沈積物含む。ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り湿。層界平坦判然。
才4層	41cm以下	腐植欠く黄褐(7.5YR ³ / ₄)のC(触感)。中度の細塊状構造、細孔含む。ち密度17で疎、調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字北兵村 試坑No.27

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	*全炭素 %	*全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	5.4	2.7	26.6	32.9	37.8	LiC	115		9.87	0.700	14.1	16.1
2	16~28	6.2	13.8	49.0	20.3	16.9	CL	133		3.71	0.304	12.2	6.0
3	28~41	5.4	12.6	49.2	29.6	8.6	L			1.66	0.263	6.3	2.7

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.6	3.2	45.9	16.5	1.0	0.30	36	2108	
2	5.5	4.3	12.2	34.3	3.4	0.6	0.37	10	2262	
3	5.5	4.5	4.7	19.2	1.0	0.4	0.26	5	2029	

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統として旭統、信部内北統、サギ沼統、テイネイ統、芭露中央統があるが芭露中央統とは腐植含量、その他はどれも堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 半固結水成岩 (砂岩、凝灰岩)

A-4 堆積様式 沖積 (河成)

B 地形 台地上の狭い低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、採草地、一部水田

E 農業上の留意事項 排水完備 深耕

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字北兵村、旭の一部

” 湧別町字福島、東、川西の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
北 兵 村 - 北 兵 村	llwllpfna

② 土壤区別説明

北兵村統一北兵村区

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	土	土	土	土	地	然	層	換	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐																
産	力	土	の	の	の	の	風	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	水	風										
可	能	の	層	磧	粘	土	着	乾	沃	状	豊	含	要	有	害	險	險	傾	傾	方	方	方	方	方	方	方										
性	厚	含	難	土	着	硬	性	性	性	度	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜										
等	深	量	易	性	性	性	性	性	度	度	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜										
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	度	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜										
	t	d	g	p		w		f		n				i		a		s		e																
	■					3	3	2	■	2	1	3		1	3	2		1	2	2	1	1	2		1	1		2	1		1	--		1	1	1
簡略分級式		■w pfnaias e																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は北兵村統に属する。表土の厚さは30cm前後で深く、有効土層も1m以上で深い。表土の土性は微粒質、粘着性中庸で耕起、砕土がやや困難である。透水性中庸であるが凹地のため湿性を呈しており、過湿のおそれ大きい。

保肥力大、固定力中で塩基状態中庸である。石灰多く、他の養分は中庸、障害性はないが冠水のおそれがある。侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草地で一部に水田もある。

C 地力保全上の問題点

地形の関係で湿性を呈しているのでも排水設備を完全にする必要はある。作土層が一般に浅いので深耕することが望ましい。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字北兵村、旭の一部、

" 湧別町字福島、東、川西の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

上 富 美 中 央 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量7~8%、未風化の流紋岩質凝灰岩の小~中円~半角礫を含む。土性はCLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造、ち密度1.8前後で疎~中、PH(H₂O)7前後。下層との境界は判然である。

第2層は25cm以下で未風化の凝灰岩円礫とSよりなる砂礫層(10YR7/2)である。

代表的断面の形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字上富美、試坑№10

第1層	0~15cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のCL。未風化の小~中円礫~半角礫を含む、弱度の細粒状構造、ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)7.2、層界平坦判然
第2層	25cm以下	未風化の小~中円礫とS(触感)よりなる砂礫層。

代表的断面の分析成績 紋別郡上湧別町字上富美、試坑№10

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	3.3	20.2	32.8	29.9	17.1	CL			4.44	0.357	12.4	7.4

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.2	6.9	0.1	39.0	26.5	7.4	0.66	68	707	37.2

※乾土あたり%

A-2 他の土壤統との関係

本土壤統に類似する土壤統として、中湧別統、開盛統、中湧中央統があるが、中湧別統は表土の含量が開盛統は腐植含量が、中湧中央統は礫層が深いのでそれぞれ区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩(凝灰岩)

A-4 堆積様式 沖積(河成)

B 地 形 富美川及びその支流域等の低平地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

殆んど畑地、採草地、放牧地

E 農業上の留意事項 除礫、有機物施用

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字開盛、富美、上富美の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
上富美中央-上富美中央	I d i l t g a

② 土 区別説明

上 富 美 中 央 統 - 上 富 美 中 央 区

示性分級式(畑)

土																											
表	表	耕	土				自	養	障		災	傾	侵														
生	効	土	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐		
産	土	土	耘	土	土	地	然		層	分	換	"	"	効		害	理	冠	す	べ	斜	為		水	風		
力	土	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	蝕		
可	の	層	の	の	の	粘	土						基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	傾	方	蝕		
能	の	磽	土	粘	土	乾		沃	状	豊	含	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性		
性	厚	含	難	着	傾	乾										有	害	險	險								
等	深	量	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性		
級	さ	さ	量	易		湿	度			否					性	性	斜	向	斜	度	性	性					
	t	d	g	p		w		f		n				i	a	s		e									
I	I	I	I	2	2	1	I	1	1	1	I	1	1	1	1	1	1	I	1	3	I	2	1	I	1	1	1
簡略分級式												I d i l t g a															

A 土壤区の特徴

この土壤区は上富美中央統に属する、表土の厚さは25cm内外で中～やや深い次層以下は砂層のため有効土層は浅い。表土の土性は細粒質で粘着性中～稍弱く耕起、砕土は容易である。透水性大で過湿のおそれは少ないが地下水位の高いところは弱い湿性を呈する場合がある。保肥力大、固定力はおく小で塩基状態は良好である。置換性塩基、有効態磷酸いづれも多く、酸度も弱い。砂礫層が浅く、物理的障害を受ける。また一時的な豪雨により冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地となっており、採草地、放牧地、畑地である。

C 地力保全上の問題点

特に問題点はない。表土に礫の多いところは除礫すること。またこのようなところは重点的に有機物を施用することが望ましい。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字開盛、富美、上富美の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

滋 賀 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後でヨシ、ハシノキを構成植物とする低位泥炭もしくはこれに泥土(土性CL)を混入する亜泥炭で分解不良である。色は2.5YRで明度3~4、彩度4、PH(H₂O)5~5.5下層との境界は平坦で判然~明瞭である。

第2層は概ね地表下15cm以下で腐植を欠き、土性はLiCが多い、色は5Gで明度5~6、彩度1で強グライを呈する。構造は均質状で細孔あり、ち密度1.0前後で疎である。PH(H₂O)5前後。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字上富美 試坑No. 26

第1層	0~14cm	黒褐(2.5Y3/4)のヨシ、ハシノキを主構成植物とする泥炭。分解不良(分解度2)。PH(H ₂ O)5.3調査時の湿り潤。層界明瞭。
第2層	14cm以下	腐植欠く緑灰(5G5/1)のLiC。構造は均質状。細孔あり。PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿~潤。強グライ層。

代表的断面の分析成績 紋別郡上湧別町上富美 試坑No. 26

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	2.9					LP			2.93	0.276	10.8	4.9
2	14~	4.5	11.6	26.1	18.6	43.7	LiC			0.48	0.064	7.5	0.8

層位	PH		置換酸 度 Y_1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 g mg/100
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.2	7.0	27.2	8.5	0.9	1.43	31	879	tr
2	5.2	3.5	22.7	27.5	7.5	3.0	0.44	27	1066	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては上富美中央統があるが泥炭層、強グライ層なく、下層が砂礫層のため区別される。

A-3 母材 ヨシ、ハンノキ/非固結水成岩 (凝灰岩)

A-4 堆積様式 集積 (泥炭) / 沖積 (河成)

B 地形 富美川支流の凹地状低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

ヨシ、ハンノキ、カヤツリグサ、スギナ、ヒオウギアヤメ、イワノガリヤス、ヤナギ等の生育する未利用地

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正、施肥の合理化

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
滋 賀 東 - 滋 賀 東	IVwwIItnalf

② 土壤区別説明

滋賀東統一滋賀東区

示性分級式(畑)

土	壤	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	土	表	表	透	保	湿	保	固	土	置
産	土	耘	土	土	然	層	分	換	効	有	微
力	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	層	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩
能	の	礫	粘	土	乾	沃	状	豊	含	要	害
性	厚	の	難	土	着	沃	状	豊	含	要	害
等	深	含	難	土	着	沃	状	豊	含	要	害
級	さ	量	易	湿	度	力	力	態	量	素	度
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
Ⅳ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
簡略分級式 ⅣwⅠtⅡnaⅢf											

A 土壤区の特徴

この土壤区は滋賀東統に属する。表土の厚さ14~15cmで浅く、有効土層は概ね1mで深い。表土は泥炭で耕起、砕土は容易である。表層以下強グライを呈する排水極めて下良の過湿地である保肥力大、固定力小、塩基状態中庸で磷酸に乏しく、苦土中庸で他の養分は多いが強酸性を呈する障害はないが冠水のおそれが大きい。

B 植生及び利用状況

ヨシ、ハンノキ、カヤツリグサ、スギナ、ヒオウギアヤメ、イワノガリヤス、ヤナギ等の生育する未利用地

C 地力保全上の問題点

排水が極めて不良で表土が分解不良な泥炭を主としているのでまず排水を完全にして泥炭の分解を促進することが必要である。酸性も強いので矯正すること。また有効態磷酸に乏しいので磷酸肥料を増肥すること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

西 芭 露 統

(1) 土壤統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm前後で腐植含量3~6%、未風化の小~中半角~礫を含むところがある。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2~4、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造。ち密度1.1~1.5で疎。PH(H₂O)5~6。下層との境界は平坦で判然である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量1~2%、未風化の小~中半角~円礫のあるところがある。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度3~4。発達弱度の細塊状構造、細孔に富み、小孔を含む。ち密度1.2~1.8で疎。PH(H₂O)6~6.5、下層との境界は平坦漸変である。

第3層は厚さ13cm前後で腐植を欠く場合が多く、土性はCLを主とする。色は7.5YRで明度4~5、彩度2~4。発達弱度の細塊状構造が主体で中度の場合もある。孔隙は一般に不鮮明、ち密度2.1~2.3で中。PH(H₂O)5~5.5。下層との境界平坦判然である。

第4層は厚さ25cm前後で腐植を欠く、土性はSLを主とし、色は7.5YRで明度4~5、彩度3~4。構造は単粒状もしくは発達極めて弱度の細塊~塊状構造、ち密度1.5前後で疎。PH(H₂O)5内外。下層との境界は平坦で明瞭である。

第5層は概ね65cm以下で1~3cmの未風化な砂岩の円礫よりなる礫層で礫間に砂(粗砂)を介在する場合が多い。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字西芭露、試坑 № 59

第1層	0~13cm	腐植含む~富む黒褐(10YR3/2)のLiC。弱度の細粒状構造。ち密度1.1で疎。PH(H ₂ O)6.1。調査時の湿り半湿。層界平坦判然。
第2層	13~27cm	腐植ある灰黄褐(10YR4/3)のLiC。弱度の細塊状構造。細孔富み、小孔含む。ち密度1.2で疎。PH(H ₂ O)6.5。調査時の湿り半湿。層界漸変。
第3層	27~40cm	腐植欠く灰褐(7.5YR5/4)のCL、弱度の細塊状構造。ち密度2.3で中。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半湿。層界判然。
第4層	40~65cm	腐植欠く灰褐(7.5YR5/4)のSL。単粒状構造。ち密度1.6で疎。PH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半湿。層界明瞭
第5層	65cm以下	未風化の砂岩を主とする円礫層で礫間に粗砂をはさむ。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字西芭露 試坑 № 59

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	2.7	8.0	30.1	36.7	25.2	LiC	1.42	2.52	2.56	0.266	9.6	4.3
2	13~27	2.4	6.5	33.7	32.7	27.1	LiC	1.40	2.61	0.83	0.102	8.2	1.9
3	27~40	2.8	12.3	47.1	23.7	16.9	CL	1.59	2.91	—	—	—	—
4	40~65	2.8	31.3	39.8	16.1	12.8	SL	1.62	2.70	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 g/mg/100
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.9	0.3	35.5	23.7	2.2	1.06	67	735	288
2	6.5	5.0	0.5	36.6	19.7	1.8	1.02	54	874	tr
3	5.3	3.9	18.5	32.2	10.3	0.9	1.11	32	802	tr
4	5.1	3.7	33.3	24.3	7.9	0.7	0.49	33	821	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し類似する土壌統として芭露中央統、芭露統があるが芭露中央統、芭露統は湿性を呈しまた芭露南統は土性が粗く、かつ表土より礫含量多いため本統とは区別される。

A-3 母材 半固結水成岩 (砂岩)

A-4 堆積様式 沖積 (河成)

B 地形 芭露川、志撫子川等その他小河川流域

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

殆んど畑地になっている。一部荒地

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用、礫質地は除礫

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字中トバナ沢の一部

湧別町字計呂地、志撫子、芭露、上芭露、東芭露の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
西芭露 - 1	Idp
" - 2	IdiItgp

② 土壤区別説明

西 芭 露 統 - 2 区

示性分級式（畑）

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	表	表	表	透	湿	保	固	土	置	有	微
産	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効
力	土	の	風	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩
可	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	礫	粘	土	の	乾	沃	状	豊	含	"	"
性	厚	含	難	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"
等	深	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度
級	さ	量	易	湿	度	度	否	否	性	性	性	性
<p style="text-align: center;">t d g p w f n i a s e</p> <p style="text-align: center;"> 3 3 2 1 1 (2) 1 1 1 1 1 1 1 2 1 3 1 1 1 -- 1 1 1</p> <p style="text-align: center;">簡略分級式 d i t g p</p>												

A 土壤区の特徴

この土壤区は西芭露統に属し、礫質地で、礫層の浅いものを2区としたものである。表土の厚さは15cm前後でやや浅く、有効土層は30cm前後で浅い。表土の土性は微粒質で耕起、碎土がやや困難である。過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態は良好で養分はいづれも多い。災害性はなく、除去困難な物理的障害がある。地形平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

殆んど離農跡地で荒廃している。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いので深耕すること、また腐植の一般に少なめなので有機物を施用することが望ましい。表土の礫含量の多いところは農耕上支障を来たすので極力除礫すること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字中トバノ沢の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和44年3月31日

芭 露 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外、砂岩の半風化細～中円礫と半角礫にすこぶる富む土性はSLを主とする。色は10YRで明度3～5。彩度3。構造は概ね無構造で単粒状を呈する。ち密度は疎である。PH (H₂O) 6前後。下層との境界は平坦で明瞭である。

第2層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、砂岩の半風化円礫と半角礫よりなる礫層で礫間に川砂をはさむ。色は10YRで明度3～5、彩度3。

第3層は概ね35cm以下で砂岩の半風化円礫と半角礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字東芭露 試坑 №63

第1層	0～15cm	腐植含む灰黄褐(10YR 4/3)のSL。半風化の細～中円礫、半角礫に頗る富む。無構造で単粒状を呈する。ち密度は疎、PH (H ₂ O) 5.8 調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第2層	15～35cm	半風化小、中円礫、半角礫よりなる礫層、礫間に砂をはさむ。
第3層	35cm以下	半風化小、中円礫、半角礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字東芭露 試坑 №63

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	現地容積量g	真比重	※全炭素%	※全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	2.7	37.9	34.5	13.6	14.0	SL			1.55	0.169	9.2	2.6

層位	PH		置換酸度Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.6	0.8	22.1	14.6	4.5	0.36	66	801	3.3

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては西芭露統、芭露中央統があるが、西芭露統とは表土の土性が異なり芭露中央統は湿性を呈するので本統とはそれぞれ区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩)

A-4 堆積様式 沖積(河成)

B 地形 計呂地川、芭露川とその支流の細長い低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地でハツカが主とした作物である。

E 農業上の留意事項

有機物施用、粘質上の客入、除礫

B 植生及び利用状況

概ね畑地となつていて、ハツカを主として栽培している。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので堆肥等有機物をつとめて施用すること。礫質地であるので出来るだけ中礫以上を除礫すること、かつ粘質土を客入することが望ましい。

D 分布

北海道紋別郡湧別町字計呂地、芭露、上芭露、東芭露、西芭露の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

芭 露 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量6%内外、土性はLiClを主とする。色は10YRで明度2、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度10~15で疎である。PH(H₂O)5~7。下層との境界は平坦で判然である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量2~3%。土性はLiClを主とする。色は10YRで明度4~6、彩度2~3、発達弱度の細塊状構造もしくは均質状を呈する。ち密度17~19で疎~中である。PH(H₂O)6前後。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はLiClを主とする。色は10YR~2.5Yで明度5~7、彩度2~4、発達強度の大角柱状構造で細孔を含む。雲状の酸化沈積物含む~富む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)5~6、下層との境界は漸変である。

第4層は概ね50cm以下で腐植を欠き、土性はSiClを主とする。色は7.5YR~10YRで明度5~7、彩度3~6。発達弱度の大角柱状構造である。マンガンの酸化沈積物とグライ斑に富む。ち密度19~24で中、PH(H₂O)5.5前後。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字東芭露 試坑 №64

第1層	0~16cm	腐植富む黒褐(10YR2/3)のLiCl。弱度の細粒状構造、ち密度14で疎、PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り湿、層界平坦判然。
第2層	16~25cm	腐植含む黄褐灰(10YR4/2)のLiCl、構造は一般に均質状、ち密度17で疎、PH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半湿、層界漸変。
第3層	25~45cm	腐植欠く灰黄橙(10YR6/4)のLiCl、強度の大角柱状構造。細孔あり、ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半湿、層界漸変。
第4層	45cm以下	腐植欠く明褐(7.5YR.5/6)のSiCl。強度の大角柱状構造。マンガンの酸化沈積物とグライ斑に富む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半湿~湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字東芭露 試坑 664

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	3.9	2.6	27.8	35.2	34.4	LiC	137		3.45	0.311	11.1	7.5
2	16~25	3.7	1.6	37.7	32.3	28.4	LiC	165		1.51	0.150	10.1	2.5
3	25~45	3.8	4.4	20.3	37.5	37.8	LiC	165					
4	45~	3.6	1.6	14.1	47.8	36.5	SiC	170					

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	0.5	32.3	19.6	1.5	0.59	61	1041	10.8
2	6.2	4.8	0.8	31.6	18.5	3.6	0.31	59	1000	tr
3	5.8	3.9	16.3	37.6	11.3	5.6	0.43	30	1002	tr
4	5.7	3.7	16.8	28.5	10.2	6.9	0.45	36	905	tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては芭露南統、西芭露統、志撫子統、上芭露南統等があるが芭露南統、西芭露統は乾湿が異なり、志撫子統は下層泥炭、上芭露南統は下層礫層のためそれぞれ区別される

A-3 母 材 半固結水成岩

A-4 堆積様式 沖積 (河成)

B 地 形 芭露川その他小河川流域低平地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地である。

E 農業上の留意事項

排水、深耕、施肥の合理化

F 分 布 北海道紋別郡湧別町字富美、中湧別、札富美の一部

湧別町字信部内、福島、東芭露、芭露、上芭露、志撫子。計呂他
の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
芭露中央 - 芭露中央	I w l t p a

② 土壤區別説明

芭露中央統一芭露中央区

示性分級式(畑)

土	膠	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	土	表	表	土	透	保	固	置	有	微	酸	障	災	傾	自	傾	人	侵	耐																
産	土	耘	土	土	地	然	層	換	効	物	冠	す	傾	地	自	傾	人	侵	耐	耐																
力	土	の	の	の	風	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	水	風														
可	の	層	の	の	乾	土	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	水	風													
能	の	粘	土	の	粘	土	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	水	風													
性	厚	の	難	着	硬	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃													
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性													
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度													
	t	d	g	p		w		f		n		i		a		s		e																		
■					3	3	2	■	2	1	3		1	2	1		1	2	1	1	1		1	1		2	1		1	1	1		1	1	1	
簡略分級式 ■w tpa																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は肥露中央統に属する。表土の厚さは15～20cmでやや浅く、有効土層は概ね1m以下で深い。表土の土性は微粒質で耕起、碎土がやや困難である。透水性不良で過湿のおそれが一般に大きい。保肥力大、固定力小、塩基状態良好で養分は一般にいずれも多いが、加里の乏しいところがある。また下層は強酸性を呈するところが多い。障害性はないが一時的な豪雨により冠水するおそれがある。浸蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地である

C 地力保全上の問題点

まず湿性を呈しているので排水を完全とすること。また作土層が浅めなので深耕することが望ましい。尚深耕する場合は下層土が強酸性を呈しているので炭カルを施用すること、加里肥料を増施する必要がある。

D 分布

北海道紋別郡字上湧別町、字富美、札富美、中湧別の一部

湧別町、芭露、上芭露、東芭露、志撫子、計呂地、信部内の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

志 撫 子 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後、腐植含量10%内外で20%近いものもある。色は7.5YRで明度3~4、彩度3~6、発達弱度の細粒状構造。ち密度10~18で疎、PH(H₂O)4.5~5.5、下層との境界平坦明瞭。

第2層は厚さ10~15cmでヨシ、ハンノキを主とする低位泥炭で泥土を混入した亜泥炭の場合もある。色は5YRで明度2~3、彩度3~4、分解やや良、下層との境界平坦明瞭。

第3層は厚さ2~3cmで腐植を欠くS~SL(触感)。雌阿寒岳系統の火山灰と思われる。色は10YRで明度7~8、彩度2、下層との境界は平坦明瞭。

第4層は厚さ10cm前後で腐植を含み(触感)、土性はC(触感)である。色は7.5YRで明度3~4、彩度2~4、発達中度の大角柱状構造、細孔あり程度、ち密度14で疎、管状の酸化沈積物を含む場合がある。下層との境界は平坦で明瞭。

第5層は厚さ20cm前後でヨシ、ハンノキの低位泥炭に泥土を混入した亜泥炭、分解やや良好である。色はNで明度2、彩度0、下層との境界は平坦で明瞭である。

第6層は厚さ5cm前後で分解不良なヨシ、ハンノキの低位泥炭に泥土を混入した亜泥炭である。色は10YRで明度3、彩度2、下層との境界平坦で明瞭である。

第7層は厚さ15cm前後で分解不良なヨシ、ハンノキの低位泥炭。色は10YRで明度2、彩度2。下層との境界は平坦明瞭である。

第8層は概ね70cm以下で分解不良なヨシ、ハンノキの低位泥炭。色は10YRで明度3、彩度3。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字志撫子 試坑 Ⅵ47

第1層	0~20cm	腐植富む褐(7.5YR4/3)のLiC、弱度の細粒状構造、ち密度10で極疎、PH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り半湿、層界明瞭。
第2層	20~27cm	黒赤褐(5YR2/4)の分解やや良なヨシ、ハンノキと泥土を混入した亜泥炭、調査時の湿り湿。層界明瞭。
第3層	27~29cm	淡黄褐灰(10YR8/2)のSL、単粒状を呈す、雌阿寒岳系の火山灰調査時の湿り湿、層界明瞭。
第4層	29~39cm	腐植含む(触感)暗褐(7.5YR3/4)のC(触感)、発達弱度の大角柱状構造、ち密度14で疎。調査時の湿り湿、層界明瞭。
第5層	39~50cm	黒(N2/0)の分解やや良いヨシ、ハンノキ泥炭に泥土を混入した亜泥炭、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第6層	50~56cm	黒褐(10YR3/2)の分解不良なヨシ、ハンノキ泥炭に泥土を混入した亜泥炭、調査時の湿り潤、層界明瞭。
第7層	56~72cm	黒褐(10YR2/2)の分解不良なヨシ、ハンノキの低位泥炭、調査時の湿り潤、層界明瞭。

第8層	72cm以下	暗褐(10YR3/3)の分解不良なヨシ、ハンノキの低位泥炭、調査時の湿り潤。
-----	--------	--

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.7	0.9	14.0	40.2	44.9	LiC	111	2.38	6.45	0.562	11.5	10.6
2	20~39	6.2	1.9	8.9	41.8	47.4	HC	100	2.30	9.21	0.717	12.8	14.9
3	39~56	6.2	0.1	10.9	37.0	52.0	HC	122	2.28	15.52	0.892	17.4	25.1

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 g/mg/100
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.9	3.8	28.3	47.4	6.5	0.1	0.20	14	1243	2.5
2	4.7	3.7	37.0	53.2	6.1	0.2	0.16	11	1204	tr
3	5.0	3.7	20.1	63.5	16.1	2.1	0.14	25	1537	tr

※ 乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として芭露中央統、サギ沼統があるが、芭露中央統は断面内に泥炭層なく、またサギ沼統は表層から低位泥炭のため区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩) / 泥炭(ヨシ、ハンノキ)

A-4 堆積様式 沖積(河成) / 集積(泥炭)

B 地形 芭露川、志撫子川、計呂地川下流の低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地、採草地である

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正、施肥の合理化

F 分布 北海道紋別郡湧別町、字芭露、志撫子、計呂地の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
志撫子 - 志撫子	Iwnlt pfa

② 土壌区別説明

志撫子統 — 志撫子統

示性分級式 (畑)

土	農	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	耐	耐																						
生	効	土	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐														
産	土	土	土	土	地	然	層	分	換	" "	効	害	理	物	冠	す	斜	為	水	風																
力	土	の	の	の	風	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	蝕													
可	の	層	の	の	乾	沃	状	豊	含	" "	素	度	無	性	危	險	傾	方	蝕	蝕																
能	厚	の	粘	土	着	硬								有	害	險	傾	方	蝕	蝕																
性	等	深	含	性	性	さ	湿	性	性	度	力	力	態	量	" "	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	性										
級	さ	量	易											性	性	斜	斜	度	性	性																
	t	d	g	p		w		f		n			i		a		s			e																
I	I	I	I	I	3	2	2	I	1	1	3	I	1	2	3	I	2	3	3	2	2	4	I	1	1	I	2	1	I	1	—	—	I	1	1	1
簡	略	分	級	式	I	w	n	I	t	p	f	a																								

A 土壌区の特徴

この土壌区は志撫子統に属する、表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性微粒質で耕起、碎土は比較的容易であるが農具に附着しやすい。下層は垂泥炭～泥炭で過湿地となっている。保肥力大、固定力小、塩基状態不良である。苦土、加里に乏しく、他はどれも中庸で強酸性を呈する。障害性はないが一時的な豪雨により冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況

概ね採草地、畑地である。

C 地力保全上の問題点

過湿地であるので排水設備をより完全にすること。一般に全層強酸性であるので酸性矯正に力を入れること。加里肥料、苦土入り肥料の増施が必要である。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字芭露、志撫子、計呂地の一部

記載責任者 宮 脇 脇 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

上芭露南統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量4～5%。砂岩の半風化小～中円礫に富む場合が多い。色は10YRで明度2～3、彩度3～4。土性はCL～LiCである。発達弱度の細粒状構造。ち密度15～20で疎～中。PH(H₂O) 6～7、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外。土性はCLのものが多い。色は10YRで明度3～4、彩度3。発達弱度の細塊状構造で細孔を含む。ち密度17～18で疎。PH(H₂O) 7前後。下層との境界は平坦で漸変である。

第3層は厚さ10cm前後、腐植を欠き土性はLを主とする。色は10YRで明度5、彩度3～4。発達弱度の細塊状構造もしくは均質状で細孔に富む。脈状の酸化沈積物に富む、ち密度15前後で疎。PH(H₂O) 7前後、下層との境界は判然である。(一部に30cm以下より礫層のところがある)

第4層は厚さ25cm前後で腐植を欠き、土性はCLとする。色は10YRで明度5～6、彩度3。発達弱度の細塊状構造もしくは均質状細孔を含む。脈状の酸化沈積物を含む。ち密度17で疎。PH(H₂O) 6.5～7.0。下層との境界は判然である。

第5層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はCL(触感)を主とする。色は2.5Yで明度5～7、彩度2、構造は均質連結状で細孔がある。ち密度18前後で疎～中。下層との境界は明瞭である。

第6層は概ね80cm以下で未風化の砂岩、頁岩の細、小、中半角礫よりなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字志撫子 試坑№48

第1層	0～18cm	腐植富む黒褐(10YR 2/3)のCL。半風化小～中円礫に富む。弱度の細粒状構造。ち密度12で疎、PH(H ₂ O) 6.8、下部1～2cm火山灰混入。調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第2層	18～31cm	腐植含む暗褐(10YR 3/3)のCL、弱度の細塊状構造。細孔を含む。ち密度17で疎。PH(H ₂ O) 7.2。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第3層	31～42cm	腐植欠く灰黄褐(10YR 5/4)のL。均質状を呈し一部弱度の細塊状構造。細孔富む。脈状の酸化沈積物富む。ち密度16で疎。PH(H ₂ O) 7.0、調査時の湿り半湿。層界判然。
第4層	42～65cm	腐植欠く灰黄橙(10YR 5.5/3)のCL。均質状を呈し一部弱度の細塊状構造。細孔含む。脈状の酸化沈積物含む。ち密度17で疎。PH(H ₂ O) 6.7。調査時の湿り半湿。層界判然。
第5層	65～80cm	腐植欠く黄褐灰(2.5Y 6/2)のCL。均質状を呈し細孔あり。ち密度19で中。調査時の湿り半湿。
第6層	80cm以下	未風化の細、小、中半角礫～円礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字志撫子 試坑 №48

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~18	2.9	13.3	39.7	26.1	20.9	CL	126		3.16	0.314	10.1	5.3
2	18~31	2.7	5.9	31.7	38.8	23.6	CL			1.67	0.186	9.0	2.8
3	31~42	2.7	10.0	52.2	23.9	13.9	L						
4	42~65	2.7	2.6	44.3	32.1	21.0	CL						

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基状態容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.8	6.5	0.3	33.5	23.3	2.6	1.47	70	802	52.8
2	7.2	6.6	0.3	31.1	17.2	3.4	1.87	55	801	13.2
3	7.0	6.4	0.1	28.4	15.9	2.7	1.21	56	820	tr
4	6.7	6.0	0.1	29.4	14.2	2.4	0.91	48	937	7.0

※：乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として芭露南統、芭露中央統があるが、芭露南統、西芭露統は乾湿が異なり芭露中央統は断面に礫層なく、それぞれ区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩 (砂岩)

A-4 堆積様式 沖積 (河成)

B 地 形 芭露川、志撫子の支流の低平地

C 気 候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地である。

E 農業上の留意事項

排水、有機物の施用、施肥の合理化

F 分 布 北海道紋別郡湧別町字東芭露、志撫子の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上 芭 露 南 - 1	I d g w a
" - 2	I d i l p w n a

② 土壌区別説明

上 芭 露 南 統 - 2 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生 効 土 耘	表 透	保 湿	保 固	置	有 微 酸	有 物 增	地 自	傾 人	侵 耐 耐
産 土 土	土 土	土 地	然	層 分 換	" "	効 害 理	冠 す	斜 為	水 風
力 土 の	の の	の 風	の 水	水 潤 肥	肥 定	塩 の 石 苦 加 磷	害 質 的 害	の の	の 蝕
可 の 層 磔	粘 土	の 乾	沃	状 豊 含	" "	要 有 害	障 危 險	傾 傾	蝕 蝕
能 の 磔 難 土 着 硬	性 性	性 性	度 力	態 量	" "	素 度	無 性	度 度	斜 向 斜
性 厚 含	性 性	性 性	度 力	態 量	" "	素 度	無 性	度 度	斜 向 斜
等 深	性 性	性 性	度 力	態 量	" "	素 度	無 性	度 度	斜 向 斜
級 さ さ 量 易	湿	度	否						
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
	1 1 1 1 3	2 2 2 2 1	2 1 2 1 1	2 1 1 3 1	1 2 1 2 1	1 3 2 1 1	1 1 1 1 1		
簡略分級式	1 d i 1 p w n a								

A 土壌区の特徴

この土壌区は上芭露南統に属する。1区とは磔層が浅いので区別したものである。表土の厚さは30cm前後で浅い。表土の土性は微粒質が多く耕起、砕土がやや困難である。やや湿性を呈しており、過湿となるおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態は良好で養分も加里に乏しい他はいづれも多い。除去困難な物理的障害があり、また一時的な豪雨により冠水のおそれがある。

B 植生及び利用状況 概ね畑地となつている。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全なものにする必要がある。一般に腐植が少ないので有機物を施用すること。加里が少ないので加里肥料を増施すること。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字東芭露の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

芭 露 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～30cmで腐植含量5～6%、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2、彩度2～3、発達弱度の細粒状構造、ち密度15前後で疎である。PH(H₂O)5.5～6.0下層との境界は平坦で明瞭である。

第2層は厚さ7～8cmで腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度6、彩度2発達中度の細塊状構造と巾3～6cmの柱状構造の複合の場合が多い、雲状の酸化沈積物がある。ち密度20前後で中である。PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦で判然である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度5、彩度3、発達弱度の細塊状構造。細、中孔がある。斑状と管状の酸化沈積物に富む、ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は漸変である。

第4層は概ね50cm以下で腐植を欠き、土性はSCLを主とする。色は10YRで明度6～7、彩度2～3、均質連結状を呈する。細、中孔があり、小孔に富む。斑状と管状の酸化沈積物に頗る富む。ち密度18前後で疎～中。PH(H₂O)5前後。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡湧別町字芭露 試坑 №53

第1層	0～27cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のLiC、弱度の細粒状構造。ち密度、PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半湿。層界平坦明瞭。
第2層	27～34cm	腐植欠く黄褐灰(10YR6/2)のLiC。中度の細塊状構造と中角柱状構造。細、中孔あり。雲状の酸化沈積物あり。ち密度20中、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半湿。層界平坦判然。
第3層	34～48cm	腐植欠く灰黄褐(10YR5/3)のLiC。弱度の細塊状構造、細、中孔あり。斑状と管状の酸化沈積物富む。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.5調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第4層	48cm以下	腐植欠く灰黄橙(10YR6/3)のSCL、均質連結状、細、中孔あり、小孔富む。斑状と管状の酸化沈積物頗る富む、ち密度18で疎。調査時の湿り半湿。PH(H ₂ O)2。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字芭露 試坑 №53

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～27	4.4	9.3	22.0	39.6	29.1	LiC	1.22	2.52	3.27	0.298	11	5.4
2	27～34	4.1	4.5	15.8	44.4	35.3	LiC						
3	34～48	4.2	2.5	29.2	40.0	28.3	LiC	1.37					
4	48～	3.0	6.5	58.6	14.4	20.5	SCL	1.58	2.63				

層位	PH		置換酸 度 Y_1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 g mg/100
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.7	0.8	33.8	21.5	3.3	0.55	64	1046	15.9
2	5.4	3.8	11.3	37.4	12.4	3.9	0.27	33	928	7.5
3	5.5	3.9	7.5	25.3	12.1	5.4	0.21	48	987	tr
4	5.2	3.6	18.5	35.5	7.7	3.7	0.11	22	803	tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては芭露中央統があるが、本統より湿性の程度が強く、表土の厚さが薄いので区別した

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩)

A-4 堆積様式 沖積(河成)

B 地形 芭露川下流の低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃ 年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地である。

E 農業上の留意事項

排水の完備、酸性矯正。

F 分布 北海道紋別郡湧別町字芭露の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
芭 露 - 芭 露	l p w a

② 土壤区別説明

芭露統 - 芭露区

示性分級式 (畑)

土	塲	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	土	表	表	表	透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐											
産	土	耘	土	土	の	然	層	分	換	の	性	態	量	害	理	冠	す	斜	為	水	風															
力	土	の	の	の	風	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	蝕												
可	の	層	の	の	乾	の	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃										
能	の	粘	土	の	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃										
性	厚	の	難	土	着	硬	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性											
等	深	含	性	性	さ	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性												
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否											
		t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
		II	I	I	I	II	3	3	2	II	2	3	2	I	1	1	1	I	1	1	1	1	2	I	1	1	II	2	1	I	1	--	I	1	1	1
		簡略分級式 II p w a																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は芭露統に属する。表土の厚さは25~30cmで深く、有効土層も1m以上で深い。表土の土性は微粒質で耕起、砕土やや困難である。湿性を呈しており過湿のおそれがある。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態良好で養分はどれも多いが次層以下強酸性を呈する。障害性はないが冠水のおそれがある。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地となっている。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているため排水設備を完全にすること。第2層以下強酸性を呈しているため炭カル等を施用し矯正する必要がある。かつ磷酸資材も併用することが望ましい。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字芭露の一部

記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

滋 賀 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量4~6%。凝灰岩の半風化小円~半角礫を含む(円礫は浮石が主)。土性はLのものが多い。色は10YRで明度3、彩度2である。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度1.4で疎、PH(H₂O)6前後、下層との境界は平坦で判然である。

第2層は厚さ35cm前後で腐植を欠き、凝灰岩の半風化小円~半角礫と浮石の小~中円礫を含む。土性はCLのものが多い。色は10YRで明度4~6、彩度3~4。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.5で疎、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は漸変である。

第3層は概ね60cm以下で腐植を欠き、凝灰岩の未~半風化小半角礫に頗る富む。土性はSLを主とする。色は10YRで明度7~8、彩度2~4、構造は均質状を呈する。ち密度1.5前後で疎、PH(H₂O)5.5前後である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字富美、試坑 №13

第1層	0~25cm	腐植含む黒褐(10YR3/2)のL、半風化の小円~半角礫含む。弱度の細粒状構造で細孔富む。ち密度1.4で疎、PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	25~60cm	腐植欠く黄褐灰(10YR5/3)のCL。半風化の小円~半角礫含む。弱度の細塊状構造で細孔富む。ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾、層界漸変。
第3層	60cm以下	腐植欠く灰黄橙(10YR7/3)のSL。未~半風化の小~中半角礫に頗る富む、無構造で均質状、ち密度1.1~1.7で疎、PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別字上富美 試坑 №13

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~25	2.2	32.2	30.8	24.8	12.2	L	137		2.37	0.151	15.7	4.0
2	25~60	1.9	30.7	25.3	26.0	13.0	CL	159	2.54				
3	60~	2.4	44.7	29.2	17.8	8.3	SL						

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸 係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	5.1	0.3	17.0	9.7	1.7	0.51	57	438	21.0
2	5.6	4.5	1.7	15.8	7.0	2.1	0.43	44	377	tr
3	5.6	1.9	0.5	16.2	8.5	2.4	0.62	52	440	tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては円山統、上富美統、富美統があるが、円山統は砂岩、上富美統は流紋岩といずれも母材を異にし、また富美統は扇状堆土なので本統と区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(凝灰岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高120~200mの丘陵地

C 気候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

殆んど畑地でビート、トモロヨシ、馬鈴薯等が主として栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、施肥の合理化

F 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
滋 賀 - 滋 賀	Itgns

② 土壌区別説明

滋 賀 統 - 滋 賀 区

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵													
生	効	土	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	
産	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	水	冠	す	水	冠	す	水	冠
力	土	の	の	の	風	の	性	態	量	物	害	質	的	害	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	層	磔	粘	土	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	の	障	危	危	傾	傾	蝕
能	厚	の	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度	度	蝕
性	等	深	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度	度	度	蝕
級	さ	量	易	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	無	性	度	度	度	度	蝕
	t	d	g	p		w		f		n						i		a		s			e	
	簡略分級式 Itgns																							

A 土壌統との関係

この土壌区は滋賀統に属する。表土の厚さは25cm前後で中庸で有効土層は概ね1m内外で深い。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。透水性大で、過湿のおそれはなく、また過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態良好で加里中庸の他はいずれの養分も多い。障害性、災害性はなく、侵蝕のおそれは小さいが部分的に起こりうる。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地でトモロコシ、ビート、馬鈴薯が主に栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐植が少なめなので、堆厩肥等有機物を施用すること。加里、磷酸少ないところが多いので増施すること。傾斜の急なところはなるべく草地にするほうが望ましい。

D 分布

北海道紋別郡上湧別町字上富美の一部
記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

上 富 美 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量10%前後。流紋岩の未風化小角礫に頗る富み。土性はCLを主とする。色は10YRで明度1~3、彩度1~2。発達弱度の細粒状構造で細孔富む。ち密度1.5前後で疎である。PH(H₂O)6前後。下層との境界は平坦で判然である。

第2層は厚さ15cm前後で流紋岩の未風化小~中半角礫よりなる礫層で、礫間に腐植含む(触感)L(触感、色は10YRで明度3、彩度3~4)を充填する。

第3層は概ね地表下30cm以下で流紋岩の小~中半角~角礫よりなる礫層である。(色は10YRで明度6、彩度2が主)

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡上湧別町字富美 試坑No.16

第1層	0~14cm	腐植富む~頗る富む黒(10YR1/r)のCL、未風化小角礫頗る富む。弱度の細粒状構造。細孔富む。ち密度1.5で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界判然。
第2層	14~27cm	未風化の小~中半角~角礫よりなる礫層で礫間に暗褐(10YR3/3)のL(触感)をはさむ。調査時の湿り半湿。
第3層	27cm以下	未風化の小~中半角~角礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字富美 試坑No.16

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 [*] %	全窒素 [*] %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~14	2.8	23.8	26.2	29.9	20.1	CL	5.67	0.351	16.2	9.5

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.3	0.6	27.5	13.9	3.3	0.48	51	783	tr

*乾土あたり %

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては共栄ノ沢統、支流ノ沢統、滋賀統、円山統、富美統、開盛統があるが滋賀統は凝灰岩、円山統は砂岩でいずれも母材が異なり、他はいずれも堆積様式を異にするので本統とは区別される。

A-3 母 材 固結火成岩(流紋岩)

A-4 堆積様式 崩 積

B 地 形 標高150~300mの丘陵地

C 気 候 年平均気温6.2℃ 年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね、畑地、草地である。

E 農業上の留意事項

有機物施用、侵蝕防止、施肥合理化 除礫

F 分 布 北海道紋別郡上湧別町字富美、上富美、開盛の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上 富 美 - 上 富 美	Utdgilnse

② 土壌区別説明

上富美統一上富美区

示性分級式(畑)

土	表	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	土	表	表	表	透	保	濕	保	固	土
産	土	耘	土	土	地	然	層	換	"	"	効
力	土	の	の	の	風		の	性	態	量	有
可	の	層	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩
能	の	礫	粘	土	乾	沃	沃	状	豊	"	"
性	厚	含	難	土	着	礫	乾	沃	状	豊	"
等	深	含	性	性	性	性	性	力	力	態	量
級	さ	さ	量	易	濕	度	度	否	素	度	無
									性	性	度
									斜	斜	度
									斜	斜	度
									性	性	性

t d g p w f n i a s e

II III III | 2 2 1 | 1 1 1 | 1 1 1 || 1 1 2 3 1 1 || 1 3 | 1 1 || 2 -- || 2 1 1

簡略分級式 **II t d g i || n s e**

A 土壌区の特徴

この土壌区は上富美統一に属する。表土の厚さは15cm以下で浅く、有効土層も25～30cmで浅い。表土の土性は細粒質で耕起、砕土は容易であるが礫多く、農具の使用に抵抗を感じる。過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力ごく小、塩基の状態は良好である。有効態のリン酸は少なく、加里中庸で他は多い。除去困難な物理的障害があるが災害性はない。侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

概ね、畑地、草地となつている。

C 地力保全上の問題点

一般に礫が多いので極力除礫すること。下層が礫層なので有機物施用に重点をおき、耕土肥培につとめるべきである。急傾斜のところは草地として土壌の保全をはかること。リン酸、加里が少なめなので増施すること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字上富美、開盛の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

西 ノ 沢 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ13～15cmで腐植含量2%前後。流紋岩の未風化小～中角礫に富み、土性はCLを主とする。色は7.5YRで明度3～5、彩度3～4、発達弱度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度は疎である。PH(H₂O)5～5.5、下層との境界は明瞭である。

才2層は厚さ5～7cmで腐植含量2%以下、下紋岩の未風化中半角礫に頗る富み、土性はCLを主とする。色は10YRで明度5～6、彩度2、発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度は中である。PH(H₂O)5～5.5、下層との境界は判然である。

才3層は厚さ7cm前後で流紋岩の未風化小半角礫よりなる礫層で、礫間に色10YRで明度7、彩度2のCLを充填する。PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は漸変である。

才4層は厚さ10cm前後で流紋岩の未風化小～中角礫よりなる礫層で、礫間に色は10YRで明度8、彩度2で雲状の酸化沈積物を含む土性Lを充填する。PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

才5層は厚さ10～15cmで流紋岩の未風化小～中角礫よりなる礫層で、礫間に色は10YRで明度7、彩度4で雲状の酸化沈積物に富む土性を充填する。下層との境界は明瞭である。

才6層は概ね50cm以下で流紋岩の小～中角礫よりなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡湧別町字西緑蔭 試坑№42

才1層	0～13cm	腐植含む褐(7.5YR _{4/3})のCL、未風化の小～中角礫富む。弱度の細粒状構造、細孔含む。ち密度は中疎、PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半湿、層界明瞭。
才2層	13～20cm	腐植ある黄灰(10YR ⁶ / ₂)のCL、未風化の中半角礫頗る富む。弱度の細塊状構造、細孔富む。ち密度は中、PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半湿、層界判然。
才3層	20～27cm	未風化の小半角礫よりなる礫層、礫間は淡黄褐灰(10YR ⁷ / ₂)のCL、PH(H ₂ O)5.4調査時の湿り湿、層界漸変。
才4層	27～37cm	未風化の小～中角礫よりなる礫層、礫間は淡黄褐(10YR ⁸ / ₂)のL、雲状酸化沈積物含む。PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、層界明瞭。
才5層	37～50cm	未風化の小～中角礫よりなる礫層、礫間は灰黄橙(10YR ⁷ / ₄)のL(触感)、雲状酸化沈積物富む。調査時の湿り湿、層界明瞭。
才6層	50cm以下	未風化の小～中角礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字西緑陰 試坑42

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	2.0	23.0	22.8	38.6	15.6	C L	1.32	1.12	0.079	14.3	1.9	
2	13~20	1.6	28.9	18.4	36.0	16.7	C L		1.06	0.085	12.4	1.8	
3	20~27												
4	27~37		28.1	20.8	44.4	6.7	L						

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.2	4.8	21.9	8.2	0.3	0.36	3.7	5.51	27.7
2	5.3	4.0	12.5	14.3	3.9	0.3	0.19	2.7	4.12	4.9
3	5.4	3.9	13.8	11.8	2.5	0.4	0.18	2.1		tr
4	5.4	4.0	15.0	10.5	3.0	1.6	0.26	2.8		tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する土壌統として上富美統があるが断面の乾湿が異なるので区別される。

A-3 母材 固結火成岩(流紋岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高40~160mの丘陵地

C 気候 年平均気温6.2℃、年降水量902.4mm

D 植生及び利用状況

大部分はカバ、ナラ、センの生育する未利用地、一部畑地

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、酸性矯正、合理的施肥、排水の完備、除稈、侵蝕防止

F 分布 北海道紋別郡湧別町字西緑陰(西ノ沢)の大部分

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
西ノ沢-西ノ沢	■ t d i g w n s e

② 土壤区別説明

西の沢統一西の沢区

示性分級式（畑）

土	壤	表	表	耕	表	表	表	土	自	養	置	障	災	傾	侵																					
生	効	土	土	土	土	土	地	然	層	換	有	微	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐														
産	土	土	土	土	土	土	の	風	の	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	物	冠	す	べ	り	然	為	水	風							
力	土	の	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	物	冠	す	べ	り	然	為	水	風								
可	の	層	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	物	冠	す	べ	り	然	為	水	風								
能	の	層	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	物	冠	す	べ	り	然	為	水	風								
性	厚	の	粘	土	着	硬	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃							
等	深	含	難	土	着	硬	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃							
級	さ	量	易	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	性	性	性								
級	さ	量	易	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	性	性	性								
	t	d	g	p		w		f		n		i		a		s		e																		
	■	■	■	■		2	1	1	■	1	2	2		1	1	2	■	1	3	2	1	1	2	■	1	3		1	1	■	2	--	■	2	1	1
簡略分級式 ■tdi gwnse																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は西ノ沢区に属する。表土の厚さは15cm以下で浅く、有効土層も30~40cmで浅い。表土の土性は細粒質で耕起、砕土は容易であるが礫が多く農具の使用に抵抗を感じる。透水性小さく湿性を呈しており、過湿となることを示している。保肥力大、固定力ごく小で、塩基状態は中庸である。苦土少なく、加里中庸で他は多いが、次層以下強酸性を呈する。災害性はないが除去困難な物理的障害があり、侵蝕のおそれもある。

B 植生及び利用状況

ナラ、カバ、センの生育する未利用地で一部畑地である。

C 地力保全上の問題点

作土層浅く、腐植が少ないので有機物を施用しながら漸次深耕していくこと。なお、下層は強酸性なので炭カルも施用することが望ましい。中礫以上は極力除礫すること。また等高線栽培や草地を増やし土壤保全につとめること。土層の深いところは排水を完全にすることがある。苦土が少ないので苦土入り肥料を使用すること。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字西緑陰（西ノ沢）の大部分

記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和44年3月31日

円 山 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ15~20cmで腐植含量3~5%、砂岩の風化小~中角~半角礫に富む。土性はCLである。色は7.5~10YRで明度2~4、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度1.5~2.2で疎~中である。PH(H₂O)5.5~6.5、下層との境界は平坦明瞭である。

才2層は厚さ10~20cmで腐植を欠き、砂岩の風化小~中角~半角礫(ビスケット状)に富み~頗る富む。土性はCL~CiLである。色は7.5~10YRで明度4~6、彩度4~6。発達弱度の細塊状構造で細孔を富む。ち密度1.7~2.3で疎~中である。PH(H₂O)5~5.5、下層との境界は漸変である。

才3層は厚さ15cm前後、砂岩の風化中角礫(ビスケット状)よりなる礫層で、礫間に色は7.5~10YRで明度5~6、彩度4~6の土性L~CLをはさむ。ち密度2.5前後で密。PH(H₂O)5前後。下層との境界漸変である。

才4層は概ね50cm以下で腐植を欠き、砂岩の風化小~中角礫に頗る富む。土性はL~SL(触感)である。構造は概ね無構造で均質状を呈する。色は7.5~10YRで明度6~7、彩度4。ち密度2.9~3.1で極めて密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡湧別町字計呂地 試坑 №52

才1層	0~15cm	腐植富む黒褐(7.5YR 2/3)のCL。風化小~中角礫富む。発達弱度の細粒状構造、ち密度2.2で中、PH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾層界平坦明瞭。
才2層	15~35cm	腐植欠く褐(7.5YR 4/6)のCiL、風化小~中角礫富む。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度2.2で中。PH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り半乾。層界漸変。
才3層	35~50cm	明褐(7.5YR 5/6)の風化中角礫の礫層、礫間に礫と同色の土性Lをはさむ。ち密度2.5で密。PH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り半乾。層界漸変。
才4層	50cm以下	腐植欠く灰橙(7.5YR 7/4)のSL(触感)。風化中角礫に頗る富む。無構造で均質状、ち密度2.9~3.0で極密。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡湧別町字計呂地 試坑 №52

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	2.9	16.9	36.7	29.9	16.5	CL	148	2.48	3.41	0.256	13.6	5.7
2	15~35	2.2	12.2	29.8	29.6	28.4	LiC	154					
3	35~50	2.2	30.2	32.6	27.6	9.6	L						

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 度%	磷酸吸収 係 数	有効態 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.8	0.3	34.0	22.0	0.9	0.18	65	822	12.3
2	5.1	4.0	17.0	23.1	2.1	0.4	0.19	9	796	tr
3	5.1	3.9	26.8	25.0	2.7	1.3	0.16	11	684	tr

※乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として滋賀統、上富美統、西ノ沢統があるがいずれも本統と母材を異にするので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(砂岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高20~200mの丘陵地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

大部分が畑地、草地となっている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、施肥の合理化

F 分布 北海道紋別郡湧別町字計呂地、志撫子、芭露、上芭露、東芭露、西芭露、緑蔭の一部。上湧別町字旭、札富美、富美、開盛の一部

調査及び記載責任者 富 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
円 山-円 山	lltdgs

② 土壌区別説明

円山統一円山区

示性分級式(畑)

土											障	災	傾	侵	
鵜表有表耕	土	自	養	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐						
生効土	表表表	透保湿	保固土	層分換	効	害理冠す	水り	斜	水風						
産土	土土土	然	層の性	量	害質的害	のの	の	の	の						
力土の	のの乾	水水潤肥定	塩の石苦加磷	基灰土里酸	要	の障	危危	傾方	傾						
可の層	のの粘	沃	状豊含	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性						
能の礫	土の着硬	性性さ	力力態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性						
性厚の含	難土の着硬	性性さ	力力態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性						
等深	性性さ	性性度	力力態	量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性						
級さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	斜	度						
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e							
	II II II I	2 2 2	I 1 1 1	I 1 2 1	I 1 1 3 1 1 1	I 1 1	I 1 1	II 2 --	I 1 1 1						
	簡略分級式 IItdgs														

A 土壌区の特徴

この土壌区は円山統に属する。表土の厚さは15～20cmでやや浅く、有効土層も概ね50cm前後で中庸である。表土の土性は細粒質で耕起、砕土が容易である。過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、塩基の状態は良好である。加里が少ないが他のものは多い。下層は強酸性を呈する。特殊な障害性、災害性はなく、侵蝕のおそれも少ない。

B 植生及び利用状況

大部分が畑地、草地である。

C 地力保全上の問題点

一般に作土層浅めで腐植含量の少ないところが多いので堆肥等の有機物を施用しながら深耕していくこと。尚下層が強酸性を呈するので炭カル等の酸性改良資材も合わせて施用することが望ましい。また加里が少なく、苦土、磷酸の乏しいところも多いので施肥の際充分注意する必要がある。

下層の礫層、堅密層は心土破碎で容易に破碎出来ると思われる。

D 分布

北海道紋別郡湧別町の計呂地川、志撫子川、露川流域の丘陵地の一部
上湧別町字旭、札富美、富美、開盛の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

富 美 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ20cm前後で腐植含量5~8%、流紋岩の未風化小~中半角礫に富む。土性はSCLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~4。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度1.5前後で疎である。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は平坦で判然である。

才2層は厚さ5cm前後。腐植を含み(触感)礫なく、土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度3~5、彩度2~4。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.8前後で疎~中。下層との境界は平坦で明瞭である。

才3層は概ね2.5cm以下で流紋岩の未風化小~中半角礫よりなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡上湧別町字富美 試坑 No.17

才1層	0~20cm	腐植富む黒(10YR 2/1)のSCL。未風化の小~中角礫富む。弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度1.3で疎。PH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
才2層	20~24cm	腐植含む(触感)黄褐灰(10YR 4/2)のCL(触感)、弱度の細塊状構造、細孔富む。ち密度1.8で疎、調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭。
才3層	2.4cm以下	灰黄褐(10YR 4/3)の未風化小~中半角礫によりなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡上湧別町字富美 試坑 No.17

層位	採取部位 cm	水分%	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 ※%	全窒素 ※%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	3.0	34.2	26.1	19.6	20.1	SCL	3.23	0.266	12.1	5.4

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	5.0	0.5	30.5	13.8	6.9	0.70	45	705	41.2

※乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には、キナウン統、緑蔭統、ポン川統等があるが、キナウン統とは母材が緑蔭統、ポン川統とは母材及び乾湿が異なるので本統とは区別される。

A-3 母材 固結火成岩（流紋岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 富美川とその支流の丘陵地、台地との接触部の扇状地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、草地である。

E 農業上の留意事項 深耕、除礫、水飽防止

F 分布 北海道紋別郡湧別町字開盛、富美、上富美

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
富 美 - 富 美	III di It g f s e

② 土壌区別説明

富 美 統 - 富 美 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 表 有 表 耕	土 自 養 障 災 傾 侵	生 効 土 産 力 可 能 性 等 級	表 表 表 透 保 湿	土 然 層 換	置 有 微 酸	有 物 增 地	障 災 傾 侵	自 傾 人 侵 耐 耐	生 効 土 産 力 可 能 性 等 級	表 表 表 透 保 湿	土 然 層 換	置 有 微 酸	有 物 增 地	障 災 傾 侵	自 傾 人 侵 耐 耐
土 壤 表 有 表 耕	土 自 養 障 災 傾 侵	生 効 土 産 力 可 能 性 等 級	表 表 表 透 保 湿	土 然 層 換	置 有 微 酸	有 物 增 地	障 災 傾 侵	自 傾 人 侵 耐 耐	生 効 土 産 力 可 能 性 等 級	表 表 表 透 保 湿	土 然 層 換	置 有 微 酸	有 物 增 地	障 災 傾 侵	自 傾 人 侵 耐 耐
i d g p	w	f	n	i	a	s	e								
III III I 2 1 1	I 1 1 1	II 1 2 2	I 1 2 1 1 1 2	III 1 3	I 1 1	II 2 --	II 2 1 1								
簡略分級式 III di It g f s e															

A 土壌区の特徴

この土壌区は富美統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は30cm前後で浅い。表土の土性は細粒質で耕起、砕土は容易であるが表土礫含量20%前後で農具の使用に低抗を感じる。透水性、保水性とも大～やや大で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中庸で、養肥分も苦土中庸の他一般に多い。災害性はなく、除去困難な物理的障害がある。侵蝕のおそれのあるところが多い。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、草地である。

C 地力保全上の問題点

一般に作土層の浅いところが多いので深耕すること、深耕の際は堆肥などの施用が望ましい。また礫多く作業のじやまになるので中礫以上は極力除去すること。水蝕発生のおそれのあるところは等高線栽培とか緑作帯を設けるとか水蝕防止に努めること。

D 分布 北海道紋別郡上湧別町字開盛、富美、上富美

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

キ ナ ウ シ 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ14～15cmで腐植含む黒褐(7.5 YR 2/2)のLiC、未風化の硬い中半角礫に頗る富む。発達弱度の細粒状構造細孔あり。ち密度1.7で疎PH(H₂O)5.2、調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。下層との境界は明瞭である。

オ2層は概ね地表下14～15cm以下で砂岩の堅硬な未風化中半角礫よりなる礫層で、礫間に灰褐(7.5 YR 5/3)CL(触感)をはさむ。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡上湧別町字南浜村 試坑 No.8

オ1層	0～14cm	腐植含む黒褐(7.5 YR 2/2)のLiC、未風化の硬い中半角礫に頗る富む。発達弱度の細粒状構造細孔あり。ち密度1.7で疎PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
オ2層	14cm～	未風化の硬い中半角礫よりなる礫層で、礫間に灰褐(7.5 YR 5/3)CL(触感)をはさむ。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡上湧別町字南浜村 試坑 No.8

層位	採取部位	水分%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～14	4.1	11.9	29.3	31.1	27.7	LiC	153	5.44	0.435	12.5	9.0

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	リン吸収 係 数	有効態リン 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.2	8.5	35.7	9.3	0.9	1.42	26	775	30.9

※乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては富美統、緑蔭統、ポン川統があるが、富美統は母材が異なり、他は湿性を呈しているので本統と区別される。

A-3 母材 半固結水成岩（砂岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 低平地と段丘、丘陵との接触部の扇状地

C 気候 年平均気温 6.0℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね耕地となっており、畑地、草地、樹園地である。

E 農業上の留意事項

除礫、酸性矯正、施肥の合理化

F 分布 北海道紋別郡湧別町字計呂地、志撫子、芭露、上芭露、西芭露、東芭露の一部
上湧別町字、札富美、富美、南浜村、中トバノ沢の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
キノウシーキノウシ	NdiItgIpfn

② 土壌区別説明

キナウシ 統 一 キナウシ 区

示性分級式（畑）

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生	効	土	表	表	透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐										
産	土	耘	土	土	地	然	層	換	"	"	効	害	理	冠	す	水	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐									
力	土	の	土	土	の	風	の	性	態	量	害	質	的	害	の	水	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐									
可	層	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	水	風	耐	耐								
能	の	磔	粘	土	乾	沃	沃	状	豊	含	要	基	灰	土	里	酸	害	質	的	害	の	水	風	耐	耐								
性	厚	含	難	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	要	基	灰	土	里	酸	害	質	的	害	の	水	風	耐	耐							
等	深	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	性								
級	さ	量	易	湿	度	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否								
	t	d	g	p	w	f	n				i	a	s	e																			
IV	IV	III	III	3	2	2	I	1	1	1	II	1	1	3	II	1	2	1	1	1	3	IV	1	4	I	1	1	I	1	1	1	1	1
簡略分級式																																	
IVdiIIIgtgIpfn																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区はキナウシ統に属する。表土の厚さは15cm以下で浅く、有効土層は15cm~20cmで極めて浅い。表土の土性は微粒質で耕起、碎土がやや困難であり、磔が多いので農具の使用に低抗を感じる。透水性、保水性共に大で過湿過乾のおそれが少ない。保肥力大、固定力ごく小で塩基状態不良である。養肥分は苦土中庸の他はいつでも多いが、強酸性を呈している。災害性はなく、除去困難な物理的障害がある。微傾斜で浸蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

概ね畑地、草地、樹園地である。

C 地力保全上の問題点

磔が多いので中磔以上を除磔すること。有効土層が浅いので客土も有効と思われる。強酸性を呈しているので炭カル等で矯正する必要がある。苦土入り肥料を使用すること。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字、計呂地、志撫子、芭露、上芭露、西芭露、東芭露の一部
上湧別町字、札富美、富美、南浜村、中トバノ沢の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

緑 蔭 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ20cm前後で腐植含量7~8%、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度15前後で疎である。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は判然である。

才2層は厚さ10cm前後で腐植含量3%内外、土性はHCを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度3~4。発達中度の細塊状構造と巾2~7cmの角柱状構造の複合で細孔に富む。構造面及び亀裂面に腐植、粘土が沈着している。ち密度20前後で中、PH(H₂O) 5.5~6.0、下層との境界は漸変である。

才3層は厚さ10cm前後で概ね腐植を欠く、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度6~7、彩度3、発達弱度の細塊状構造と強度の巾5~10cmの角柱状構造の複合で細孔を含む。構造面に腐植、粘土が膜状に沈着している。ち密度22~24で中、PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は漸変である。

才4層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は2.5Yで明度7~8、彩度2、発達中度で巾5~10cmの角柱状構造で細孔を含む。構造面に粘土、腐植が膜状に沈着しており、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度22~24で中、PH(H₂O) 5.5~6.0。下層との境界は漸変である。

才5層は厚さ25cm前後で腐植を欠き、土性はCL~C (触感)である。色は2.5Yで明度7~8、彩度2。発達強度の巾3~10cmの角柱状構造で構造面に粘土の沈着がある。雲状の酸化沈積物を含む。ち密度22~23で中、下層との境界は平坦明瞭である。

才6層は概ね80cm以下で砂岩、泥岩の風化~腐朽小円礫の礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡湧別町字緑蔭 試坑 №44

才1層	0~18cm	腐植富む黒褐(10YR ² / ₃)のLiC、弱度の細粒状構造、細孔含む。ち密度16で疎、PH(H ₂ O) 5.5。調査時の湿り半乾、層界平坦判然
才2層	18~28cm	腐植含む暗褐(10YR ³ / ₃)のHC、中度の細塊状構造と中度の角柱状構造、細孔富む。構造面に粘土の沈着あり、ち密度19で中、PH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半湿、層界平坦漸変。
才3層	28~40cm	腐植欠く灰黄橙(10YR ⁷ / ₃)のLiC。弱度の細塊状構造と角柱状構造、細孔含む。構造面に粘土、腐植の沈着あり。ち密度23で中、PH(H ₂ O) 5.6。調査時の湿り湿、層界平坦漸変。
才4層	40~52cm	腐植欠く、淡黄灰(2.5Y ⁷ / ₂)のLiC。中度の角柱状構造、細孔含む。構造面に粘土腐植の沈着あり、雲状の酸化沈積物含む。ち密度23で中、PH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り湿、層界漸変。
才5層	52~78cm	腐植欠く淡黄灰(2.5Y ⁷ / ₂)のCL~C(触感)。強度の角柱状構造。構造面に粘土の沈着あり、雲状の酸化沈積物含む。ち密度23で中、調査

		時の湿り湿、層界明瞭。
才6層	7.8cm以下	風化～腐朽小円礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

紋別郡上湧別町字緑蔭 試坑 No. 44

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重%	真比重	*全炭素 %	*全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	3.7	3.1	15.5	42.9	38.5	LiC	133		4.04	0.381	10.5	6.7
2	18~28	3.7	2.5	11.1	38.3	48.1	HC	141		1.98	0.185	10.7	3.3
3	28~40	2.8	1.6	13.3	44.7	40.4	LiC	162	2.69	0.83	0.099	8.4	1.4
4	40~52	3.0	2.0	18.7	41.5	37.8	LiC						

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.2	5.5	38.4	13.9	0.6	0.10	36	1000	14.5
2	5.7	4.2	5.5	27.4	12.8	1.1	0.12	47	1038	2.1
3	5.6	4.0	15.5	23.3	8.5	1.0	0.12	36	802	1.6
4	5.7	3.9	24.0	24.4	6.5	1.9	0.12	27	820	7.0

*乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土 統としては富美統、キナウシ統、ボン川統があるが、富美統、キナウシ統とは乾湿が異なり、ボン川統とは表土の礫含量が異なるので区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩（砂岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地 形 低平地と段丘、丘陵地との接触部の扇状地

C 気 候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね畑地、草地で一部荒廃地あり、

E 農業上の留意事項

排水の完備、深耕、酸性矯正、施肥の合理化

F 分 布 北海道紋別郡湧別町字東ノ沢、中ノ沢の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
緑 統一緑 統	lldpwfns

② 土壌区別説明

緑 蔭 統 — 緑 蔭 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵																												
生 効 土 表 表 表 透 保 湿 保 固 土 置 有 微 酸 有 物 增 地 自 傾 人 侵 耐 耐	産 土 効 土 耘 土 土 地 然 層 分 換 " " 効 害 理 冠 す 斜 為 水 風	力 土 の 風 の 性 態 量 物 水 べ り 然 為 水 風	可 の 層 の の の 乾 の 水 水 潤 肥 肥 定 塩 の 石 苦 加 燐 害 質 的 害 の の の 蝕	能 の 礫 粘 土 基 灰 土 里 酸 要 の 障 危 危 傾 方 傾 蝕 蝕	性 厚 の 含 難 土 着 硬 乾 沃 状 豊 含 " " " 有 害 險 險	等 深 性 性 さ 性 性 度 力 力 態 量 素 度 無 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性	級 さ さ 量 易 湿 度 度 否 性 性 斜 蝕																												
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																									
II	I	II	I	II	3	2	2	II	2	1	2	II	1	2	2	II	1	2	3	1	1	2	I	1	1	I	1	1	II	2	--	I	1	1	1
簡略分級式		lldpwfns																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は緑蔭統に属する。表土の厚さは25~30cmで深く、有効土層は概ね80cm前後で中庸である。表土の土性は微粒質で耕起、碎土はやや困難である。透水性やや小さく、過湿のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態は中庸である。養肥分は加里は少なく、苦土中庸の他は多いが下層は強酸性を呈する。災害性、障害性は少なく、侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

概ね畑地、草地となつている。(一部に荒地あり)

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全にすることがあり、心土破碎も有効と思われる。作土層の浅いところが多く、深耕することが望ましい。また深耕の場合は有機物施用と共に下層土が強酸性を呈するところから炭カル等も合わせて施用するほうが良い。加里が乏しいので増施すること。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字東ノ沢、中ノ沢の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

ポ ン 川 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ15cm前後で腐植含量6%内外、砂岩の半風化小円～中半角礫を含む、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2、彩度2～3。発達弱度の細粒状構造、ち密度13～19で疎～中、PH(H₂O)5前後、下層との境界は判然である。

オ2層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。砂岩の半風化小円～半角礫に富む。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5～6、彩度3～4。発達弱度の細塊状構造、細小孔含む。ち密度19前後で中、PH(H₂O)5前後、下層との境界は漸変である。

オ3層は厚さ15cm前後で腐植を欠く。砂岩の半風化小円～半角礫を含む。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5～6、彩度3～4、発達弱度の細塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度20前後で中である。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は漸変である。

オ4層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。砂岩の半風化小円～半角礫を含む。土性はLを主とする。色は10YRで明度6～8、彩度2～3。概ね無構造で均質状を呈する。小孔を含む。雲状の酸化沈積物含む。ち密度20～24で中、PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は漸変である。

オ5層は概ね70cm以下で腐植を欠き、礫なく、土性はC(触感)を主とする。色は10YRで明度6～8、彩度2～3。発達強度の中3～8cmの角柱状構造で小孔がある。雲状の酸化沈積物とグライ斑を含む。ち密度25～27で密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡湧別町字芭露 試坑 №56

オ1層	0～16cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のLiC、半風化小～中半角礫含む、弱度の細塊状構造、ち密度13で疎、PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、層界平坦判然。
オ2層	16～38cm	腐植ある灰黄橙(10YR ⁶ /4)のCL、半風化小円～半角礫富む。弱度の細塊状構造。細小孔含む、ち密度19で中、PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
オ3層	38～52cm	腐植欠く灰黄橙(10YR ⁶ /4)のCL、半風化小円～半角礫含む。弱度の細塊状構造、細孔富む、小孔含む、ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
オ4層	52～69cm	腐植欠く灰黄橙(10YR ⁷ /3)のL、半風化小円～半角礫含む、無構造で均質状を呈す。小孔含む。雲状の酸化沈積物含む。ち密度23で中、PH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
オ5層	69cm以下	腐植欠く灰黄橙(10YR ⁷ /3)のC(触感)、礫なく、強度の角柱状構造、雲状の酸化沈積物とグライ斑含む。ち密度25で密。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字芭露 試坑 №56

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	4.1	14.9	23.4	32.9	28.8	LiC	115	2.54	3.57	0.343	10.4	5.9
2	16~38	3.3	23.2	29.0	28.1	19.7	CL	157	2.55	0.72	0.109	6.7	1.4
3	38~52	3.0	17.1	35.8	31.3	15.8	CL	166					
4	52~69	2.8	23.1	34.6	27.5	14.8	L	161	2.68				

層位	PH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.1	7.0	33.0	13.0	1.9	0.21	39	928	7.5
2	5.3	3.8	16.3	25.3	9.4	1.2	0.14	37	844	tr
3	5.5	3.8	17.3	23.6	8.5	2.1	0.14	36	718	tr
4	5.6	3.8	19.3	23.1	9.4	2.1	0.19	41	754	6.6

※乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として富美統、キナウシ統、緑蔭統があり、富美統、キナウシ統は乾湿が異なり、緑蔭統は表土、次層に礫がなく、かつ最下層が礫層なので区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩（砂岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地 形 低平地と段丘及び丘陵との接触部の扇状地

C 気 候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

概ね、畑地、草地である。

E 農業上の留意事項

排水、深耕、酸性矯正、施肥の合理化、除礫

F 分 布 北海道紋別郡湧別町字、計呂地、志撫子、芭露、東芭露、西芭露の一部

上湧別町字ヌツポコマナイの大部分と富美の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
ボン川 - ボン川	II t g p w f n s

② 土壌区別説明

ボン川統一ボン川区

示性分級式(畑)

土 壤	表 表	表 表	土 透	自 保	養 固	置 土	有 微	障 酸	災 有	傾 地	自 傾	侵 人	耐 耐																						
生 効	土 土	土 土	土 土	地 地	然	層 換	" "	効	害 理	冠 す	斜 為	水 風																							
産 土	土 土	土 土	の の	の の	水 水	潤 肥	定 塩	の 石	苦 加	害 質	害 の	の の	蝕 蝕																						
力 土	の の	の の	粘 土	乾 着	沃	状 豊	含 量	" "	要	有 害	危 險	傾 方	蝕 蝕																						
能 厚	の 含	難 性	土 性	着 硬	性 度	力 力	態 態	" "	素 度	無 性	度 度	斜 斜	度 性																						
性 等	深 量	易 性	性 性	湿 度	度 度	力 力	態 態	" "	素 度	無 性	度 度	斜 斜	度 性																						
級 さ	量 量	易 性	性 性	湿 度	度 度	力 力	態 態	" "	素 度	無 性	度 度	斜 斜	度 性																						
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e																							
	II	II	II	II	3	2	2	II	2	2	II	1	2	II	1	1	3	2	1	3	I	1	I	1	I	1	I	1	II	2	--	I	1	1	1
簡略分級式	II t g p w f n s																																		

A 土壌区の特徴

この土壌区はボン川統に属する。表土の厚さは15~20cmでやや浅く、有効土層は1m以下で深い。表土の土性は微粒質で耕起、碎土はやや困難である。湿性を呈しているところから過湿となるおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基の状態は中庸である。加里が不足しており磷酸中庸で他の養分は多いが次層以下極強酸性を呈している。障害性、災害性はなく、侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

概ね畑地、草地である。

C 地力保全上の問題点

まず排水を完全にする必要がある。作土層が一般に浅いので深耕すること、その場合次層以下極めて強い酸性土壌なので酸性矯正に充分留意すること。加里が不足しているので増施すること。礫の多いところは中礫以上を極力除くことが望ましい。

D 分布 紋別郡湧別町字計呂地、志撫子、露、東露、西露の一部
 上紋別町字ヌツボコマナイの大部分と富美の一部
記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

サ ギ 沼 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ17cmでヨンを主材とする分解不良の低位泥炭、色は10YRで明度2、彩度3のものが多い。PH(H₂O)5前後、下層との境界は明瞭である。

オ2層は厚さ1cm前後で旭岳噴出と思われる火山灰層、土性はS(触感)、色は10YRで明度2、彩度2、下層との境界は明瞭である。

オ3層は厚さ10cm前後でヨンを主とする分解不良の低位泥炭、色は10YRで明度2、彩度2が多い。PH(H₂O)5前後。下層との境界は明瞭である。

オ4層は厚さ3cm前後で雌阿寒岳噴出と思われる火山灰で土性はSL(触感)である。色は7.5YRで明度5、彩度4、下層との境界は明瞭である。

オ5層は厚さ25cm前後でヨンを主としハンノキをわずかに含む分解不良な低位泥炭、色は5YRで明度3、彩度3のものが多い。PH(H₂O)5.5~6.0。下層との境界は明瞭である。

オ6層は概ね60cm以下で、分解やや良~良のヨンと分解不良なハンノキの低位泥炭で鉍質土壌の混入が認められる。色は10YRで明度1、彩度1のものを主とする。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡湧別町字東 試坑 №45

オ1層	0~17cm	黒褐(10YR 2/3)の分解不良なヨン泥炭、ち密度は極疎、PH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り潤、層界明瞭。
オ2層	17~18cm	黒褐(10YR 2/2)のS(触感)、旭岳のものと思われる火山灰、ち密度は疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ3層	18~30cm	黒褐(10YR 2/2)の分解不良なヨン泥炭、ち密度は極疎、PH(H ₂ O)5.0、調査時の湿り潤、層界明瞭。
オ4層	30~33cm	灰褐(7.5YR 5/4)のSL(触感)、雌阿寒岳のものと思われる火山灰、ち密度は疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ5層	33~58cm	明赤褐(5YR 3/3)の分解不良なヨン泥炭にハンノキを含む、ち密度は極疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り潤、層界明瞭。
オ6層	58cm以下	黒(10YR 1/1)の分解やや良~良のヨンと分解不良のハンノキの低位泥炭、鉍質土を混入する。ち密度は極疎、調査時の湿りは潤。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字東 試坑 No. 45

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	5.5	—	—	—	—	LP	100	1.86	16.81	1.192	14.1	27.4
2	17~33	4.0	—	—	—	—	S/LP/ SL			12.26	0.727	16.8	20.3
3	33~58	10.0	—	—	—	—	LP	91	1.33	49.28	2.175	22.7	75.8

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.9	4.1	20.1	53.5	4.2	0.5	0.36	8	1227	2.5
2	5.0	4.1	19.0	63.2	6.6	1.0	0.20	10	917	4.1
3	5.7	4.4	1.6	118.0	19.4	21.6	0.21	16	1457	3.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統にはテイネイ統があるが、本統よりも分解が進んでいるので区分した。

A-3 母材 ヨシ主材

A-4 堆積様式 集積（低位泥炭）

B 地形 海岸、湖岸に近い低平地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

殆んどがヨシ、ツルコケモモ、ミズゴケ、ギボシ、スゲ、ヒオウギアヤメ、ワレモコウ等の生育する未利用地。

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正、施肥合理化、客土

F 分布 北海道紋別郡湧別町字、計呂地、志撫子、芭露、東、t 信部内の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
サギ沼-サギ沼	IwII fna

② 土壤区別説明

サギ沼統 — サギ沼区

示性分級式（畑）

土	塲表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
産土	耘土土	土地	然	層分換	効	害理	冠す	斜	為	水風
力土の	のの	の風	水水潤肥	定塩の石	苦加	磷	害質的	害の	の	の
可の層	のの	の乾	水水潤肥	定塩の石	苦加	磷	害質的	害の	の	の
能の	のの	の乾	水水潤肥	定塩の石	苦加	磷	害質的	害の	の	の
性厚	の難	土着	硬	沃	状豊	含	有害	險	傾	傾
等深	性性	性性	性性	度	力力	態	量	素度	無性	度度
級さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	斜	度	性性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
	IV I I I I	1 1 1 1	IV 2 2 3	III 1 2 3	III 2 2 2 2 4	I 1 1	III 3 1	I 1	—	I 1 1 1
	簡略分級式 NwIII fna									

A 土壤統の特徴

この土壤区はサギ沼統に属する。表土の厚さは30cm前後で深く、有効土層1m以上で深い。耕起、碎土は容易である。排水状態極めて悪く、過湿状態となつている。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で養肥分はいづれも中庸もしくは不足気味である。極めて強い酸性を呈する。障害性はなく、冠水するおそれ大きい。

B 植生及び利用状況

殆んどがヨシ、ツルコケモモ、ミズゴケ、ギボシ、スゲ、ワレモコウ等の湿性植物の生育する未利用地。

C 地力保全上の問題点

まず、集水渠、明、暗渠等を設けて排水を完全なものにし、分解を進める必要がある。また客土なども実施することが望ましい。強酸性を呈しているので矯正すること。塩基分に不足気味なので増肥する必要がある。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字、計呂地、志撫子、芭露、東、信部内の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

テ イ ネ イ 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ17cm前後で、ヨシの分解やや良好な低位泥炭、色は10YRで明度2、彩度1、ち密度は極疎。PH(H₂O)5前後、下層との境界明瞭である。

オ2層は厚さ1cm前後で旭岳のものと思われる火山灰、色は10YRで明度1~2、彩度1、土性はS(触感)、下層との境界明瞭である。

オ3層は厚さ1cm前後でヨシを主とする分解やや良好な低位泥炭、色は10YRで明度1~2、彩度1、ち密度11前後で疎。下層との境界明瞭である。

オ4層は厚さ1cm前後で雌阿寒岳のものと思われる火山灰、土性はSL(触感)、色は10YRで明度3~4、彩度4、ち密度12前後で疎。下層との境界明瞭である。

オ5層は厚さ4cm前後でヨシを主とする分解やや良好な低位泥炭、色は10YRで明度1~2、彩度1、ち密度11前後で疎、下層との境界は明瞭である。

オ6層は厚さ2cm前後で雌阿寒岳のものと思われる火山灰で土性はSL(触感)、色は10YRで明度4、彩度4、ち密度12前後で疎、下層との境界は明瞭である。

オ7層は厚さ10~15cmでヨシを主とする分解やや良好な低位泥炭、色は10YRで明度2、彩度1~2、ち密度10前後で極疎、PH(H₂O)5前後。下層との境界は明瞭である。

オ8層は厚さ20~25cmで分解良好なヨシを主とする低位泥炭で若干の鈣質土を混入する場合もある。色は10YRで明度1~2、彩度1、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。

オ9層は厚さ10~15cmで腐植に富み、泥炭を含み、土性はC(触感)を主とする、色は10YRで明度3、彩度1、構造は均質状を呈する。ち密度は疎、下層との境界は漸変である。

オ10層は概収75cm以下で腐植欠き、泥炭を含み、土性はC(触感)を主とする。色はNで明度6~7、彩度0、構造は均質状を呈する。ち密度は疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡湧別町字東 試坑№36

オ1層	0~17cm	黒(10YR ² / ₁)ヨシを主とする分解やや良好な低位泥炭、ち密度は10以下で極疎、PH(H ₂ O)5.0、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ2層	17~18cm	黒(10YR ^{1.5} / ₁)のS(触感)、旭岳のものと思われる火山灰、単粒状、ち密度12で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ3層	18~19cm	黒(10YR ^{1.5} / ₁)のヨシを主とする分解やや良好な低位泥炭、ち密度11で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ4層	19~20cm	暗褐(10YR ³ / ₄)のSL(触感)、雌阿寒岳のものと思われる火山灰、単粒状、ち密度12で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ5層	20~24cm	黒(10YR ¹ / ₁)のヨシを主とする分解やや良好な低位泥炭、ち密度12で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
オ6層	24~26cm	褐(10YR ⁴ / ₄)のSL(触感)、雌阿寒岳のものと思われる火山灰、単粒状、ち密度12で疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。

才7層	26~39cm	黒(10YR 2/1)のヨシを主とする分解やや良好な低位泥炭、ち密度1.1で疎、PH(H ₂ O)5.0、調査時の湿り潤、層界明瞭。
才8層	39~62cm	黒(10YR 1.5/1)のヨシを主とする分解良好な低位泥炭、若干の鉍質物混入、ち密度1.2で疎、調査時の湿り潤、層界明瞭。
才9層	62~75cm	腐植富み泥炭含む黒褐(10YR 3/1)のC(触感)、均質状、ち密度は疎、調査時の湿り潤、層界漸変。
才10層	75cm以下	泥炭を若干含む灰(N6.5/0)のC(触感)、均質状、ち密度は疎、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

紋別郡湧別町字東 試坑 46.36

層位	採取部位 cm	水分%	粒徑組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素% [※]	全窒素% [※]	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	9.0	—	—	—	—	LP	9.7		29.64	1.424	20.8	46.5
2	17~26	6.4	—	—	—	—	S-LP	10.7		13.81	0.828	17.1	2.23
3	26~39	10.3	—	—	—	—	L-P	9.7	1.54	40.55	2.242	18.1	62.7

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	4.0	12.0	88.5	19.4	1.0	0.62	22	1780	6.2
2	4.8	4.0	18.6	45.7	2.6	0.5	0.15	6	1025	5.1
3	5.0	3.7	40.1	17.0	7.9	1.0	0.12	46		tr

※乾土あたり

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としてはサギ沼統があるが本統よりも分解悪く、かつ全層に泥炭が出現するので区別される。

A-3 母材 ヨシ(主)

A-4 堆積様式 集積(低位泥炭)

B 地形 海岸近くの低い台地間の低地

C 気候 年平均気温 6.2℃、年降水量 902.4mm

D 植生及び利用状況

畑地、草地もあるが主として、ヨシ、ノリウツギ等の湿性植物の生育する未利用地。

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正、合理的施肥、客土

F 分布 北海道紋別郡湧別町字東と信部内の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
テイネイーテイネイ	IVwIIIfaIttn

② 土壌区別説明

テイネイ統 — テイネイ区

示性分級式(畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	表	表	土	透	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐													
産	土	耘	土	土	然	層	換	性	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風																	
力	土	の	の	風	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	蝕												
可	層	の	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	蝕												
能	の	磔	粘	土	乾	沃	状	豊	含	素	度	無	性	度	斜	斜	度	性	性															
性	厚	含	難	着	硬	沃	状	豊	含	素	度	無	性	度	斜	斜	度	性	性															
等	深	性	性	性	性	度	力	態	量	素	度	無	性	度	斜	斜	度	性	性															
級	さ	量	易	湿	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	斜	斜	度	性	性															
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																							
IV	I	I	I	2	1	1	IV	2	2	3	III	1	3	3	II	1	2	1	2	2	3	I	1	1	III	3	1	I	1	--	I	1	1	1
簡略分級式		IVwIIIfaIttn																																

A 土壌統の特徴

この土壌区はテイネイ統に属する。表土の厚さは20cm前後でやや浅く、有効土層は1m以上で深い。耕起、碎土は容易である。過湿のおそれが甚しい。保肥力大、固定力中、塩基状態不良である。養分は苦土、燐酸中庸で他は多いが次層以下はすべて乏しい。極めて強い強酸性を呈する。障害性はなく、冠水のおそれが大きい。

B 植生及び利用状況

畑地、草地もあるが大半はヨシ、カヤツリグサ、ハンノキ、ノリウツギ等の湿性植物の生育する

未利用地である。

C 地力保全上の問題点

まず排水を完全にして泥炭の分解を更に促進すること、客土も実施すべきである。塩基分もすぐ不足するので肥培管理に留意すること。極強酸性を呈しているため酸性改良も重要である。

D 分布 北海道紋別郡湧別町字、東、信部内の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

3 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の説明

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

(水田)

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
福島	福島 — 福島	310	排水不良 加里の不足	明暗渠の完備 施肥の合理化

(畑)

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
富栄床	富栄床—富栄床	38	加里の不足、強酸性	施肥の合理化、酸性矯正
信部内	信部内北— 信部内北 旭 — 旭 信部内—信部内 五鹿山— 1 〃 — 2 上芭露—上芭露 東芭露—東芭露	2204 (内水田 65)	排水不良 下層堅密 作土がやや浅い 酸性を呈する 加里と苦土が不足 水蝕発生のおそれがある	暗渠等排水施設の完備 心土破碎 深耕 酸性矯正 施肥の合理化 保全耕作
計呂地	共栄ノ沢—共栄ノ沢 支流ノ沢—支流ノ沢 計呂地—計呂地 福島南—福島南	285	作土がやや浅い 腐植がやや少ない 酸性を呈する 加里が不足	深耕 有機物施用 酸性矯正 施肥の合理化
露南	中番屋—中番屋 芭露南—芭露南	350	腐植が少ない 砂地及び礫質地	有機物施用 粘質土の客入 除礫
上湧別	川西—川西 上湧別— 1 〃 — 3 開盛—開盛 中湧別— 1 中湧中央—中湧中央 富美東—富美東 南兵村—南兵村 西芭露— 1	1997 (内水田 68)	作土がやや浅い 腐植が少ない 加里・苦土の不足	深耕 有機物施用 施肥の合理化
中湧別	上湧別— 2 中湧別— 2 上富美中央— 上富美中央 西芭露— 2	498	作土がやや浅い 腐植が少ない 礫質地	深耕 有機物施用 除礫
湧別	湧別—湧別 川西北—川西北	1199	排水不良 作土がやや浅い	暗渠等排水施設の完備 深耕

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
湧別	北兵村ー北兵村 慈賀東ー滋賀東 芭露中央ー 芭露中央 志撫子ー子撫子 上芭露南ー 1 2 芭露ー芭露	(内水田 37)	腐植が少なめである 酸性を呈する 加里、苦土が不足	有機物施用 酸性矯正 施肥の合理化
富美	滋賀ー滋賀 上富美ー上富美 円山ー円山 富美ー富美 キナウシー キナウシ	1385	作土が浅い、腐植が少ない 酸性を呈する 水蝕のおそれがある 加里、苦土が少ない 礫質地	深耕、有機物施用 酸性矯正 保全耕作 施肥の合理化 除礫
ボン川	西ノ沢ー西ノ沢 緑蔭ー緑蔭 ボン川ーボン川	450	排水不良 作土が浅い、腐植が少ない 酸性を呈する 加里、苦土が不足、 礫質地	暗渠等排水施設の完備 深耕、有機物施用 酸性矯正 施肥の合理化、除礫
テイネイ	サギ沼ーサギ沼 テイネイー テイネイ	138	排水不良 強酸性を呈する 養分の不足	排水設備を完全に 酸性矯正 施肥の合理化、鉍質土の客入

2) 保全対策地区別説明

(水田)

[福島保全対策地区]

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
紋別郡上湧別町	310	福島ー福島

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

台地上の水田土壌で下層は堅密なものが多い。従って透水性が悪く還元化が強い。加里、苦土が少なく、下層は強酸性を呈する。稲作の北限にあり、夏季にしばしば低温の影響を強く受け、遅延型、障害型の冷害に見舞われており、気象災害が多い。

② 営農の方向、その他

経営の安定がまず必要なところであつて、そのためには水稲単作を極力避けて寒地用作物と共に家畜を導入して有畜化をはかることが望ましいであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (h a)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水	福島一福島 310	明渠、暗渠の完備	素焼土管、塩ビパイプ等 工事費の助成
施肥の合理化	同上	加里の増施	指導

② その他

気象災害を受け易いので被害軽減のためには品種の選択、健苗育生、初期生育の促進を図ることが大切で、施肥改善、水管理等に充分留意する必要がある、徹底した指導が望ましい。

(畑)

〔富栄床保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 壤 区)
紋別郡湧別町	38	富栄床一富栄床

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

海砂を母材とする土壌で海岸沿いに発達する台地に存在する。下層が強酸性を呈し、加里が不足気味で他に特記すべき問題点はない。

② 営農の方向、その他

酪農が一部で行なわれている。草地に対する施肥に充分留意する必要がある。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (h a)	実施方法	対象資材及び機械機具の種類、型式、数量等
施肥合の合理化	富栄床一富栄床 38	加里の増施	指導
酸性矯正	同上	炭カルの施用	700~900 Kg/10a

〔信部内保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 壤 区)
紋別郡湧別町	2204	信部内北一信部内北 旭一旭、信部内一信部内 五鹿山一1、五鹿山一2、上芭露一上芭露 東芭露一東芭露
〃 上湧別町		

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

①特徴と問題点

砂岩、凝灰岩等を母材とする台地土壌である。一般に地表下50～60cmから未風化な堅密層で不透水層となっており、排水不良を呈している。その程度は傾斜が急なところ程湿性は弱い。腐植含量の少ないところもあるが概して多い。加里と苦土が少なく、多くの土壌が次層以下極強酸性を呈する。土壌は乾燥すると固結しやすく、碎土に困難を感じる。地形は緩傾斜を呈するところが多く水蝕の発生するおそれがある。

② 営農の方向、その他

多くは畑作と酪農の混同経営で今後は更に家畜が増加するものと思われる畑地、草地を問わず熔成燐肥を使用し、加里を増肥する等の施肥技術を経営に充分反映させることが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水	信部内北—信部内北 旭 — 旭	暗渠排水の完備	素焼土管、塩ビパイプ、 工事費の助成
心土破碎	信部内—信部内	50～60cmを心土破碎	大型機械、工事費の助成
酸性矯正	五鹿山— 1 〃 — 2	炭カルの施用	暗渠との併用が望ましい 500～800 Kg/10a
施肥の合理化	上芭露—上芭露 東芭露—東芭露	加里の増施、熔燐の使用	指導
深耕	2204	有機物施用と共に漸次深耕	〃
有機物施用	上芭露—上芭露 721 東芭露—東芭露	家畜導入の推進 堆肥の増産	〃
保全耕作	信部内—信部内 五鹿山—1、2 926 東芭露—東芭露	等高線栽培、緑作帯の設置 草地の拡張	〃

[計呂地保全対策地区]

(1) 分布状態

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土区)
紋別郡湧別町、上湧別町	285	共栄ノ沢—共栄ノ沢、支流ノ沢—支流ノ沢 計呂地—計呂地、福島南—福島南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩、凝灰岩等を母材とする台地土壌で概ね地表下50～60cmで円～半角礫の礫層となる。一般に腐植が少ないので加里にも乏しく酸性を呈している。地形は緩傾斜のところが多く、水蝕の発生するおそれがある。

② 営農の方向、その他

混同経営が行なわれているが有機物施用、加里肥料の増施、牧草栽培等に充分留意することが望ましい。

分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 区)
紋別郡湧別町、上湧別	285	共栄ノ沢—共栄ノ沢、支流ノ沢—支流ノ沢 計呂地—計呂地、福島南—福島南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩、凝灰岩等を母材とする台地土で掘取地表下50～60cmで円～半角の層となる。一般に腐植が少なめで加里にも乏しく酸性を呈している。地形は緩傾斜のところが多く、水蝕の発生するおそれがある。

② 営農の方向、その他

混同経営が行なわれているが有機物施用、加里肥料の増施、牧草栽培等に充分留意することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対 策 の 種 類	対象地及び対象面積 (h a)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
深 耕	共栄ノ沢—共栄ノ沢 支流ノ沢—支流ノ沢 計呂地—計呂地 福島南—福島南 285	有機物と共に漸次深耕	指導
施肥の合理化		加里の増施	〃
酸性矯正		炭カルの使用	400～700 Kg/10a
有機物施用	共栄ノ沢—共栄ノ沢 95 支流ノ沢—支流ノ沢	堆肥の増産 家畜導入の推進	指導
保全耕作	支流ノ沢—支流ノ沢 福島南—福島南 245	等高線栽培、緑作帯の 設置、草地の拡張	指導

〔芭露南保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 区)
紋別郡湧別町、上湧別町	350	中番屋—中番屋、芭露南—芭露南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

海砂を母材として海岸、湖岸に沿って細長く分布するものと芭露川等の河川流域の砂岩を母材とする低平地の土壤でいずれも土性が粗く粗粒質のため透水性はきわめて良いが保水性が小さいので干ばつにかかりやすい。腐植も少なく、塩基類もやや少なめである。海砂を母材とするものは風蝕のおそれがある。

② 営農の方向、その他

穀、混同経営が多く、今後更に家畜主体になるものと思われる。十分な有機物施用が望ましい。

(3) 地力保全対策

①地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (h a)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
有機物施用 客土	中番屋一中番屋 芭露南一芭露南 350	堆肥の増産 粘質土壌の客入	指導 事業費の助成
除 礫	芭露南一芭露南 350	中礫以上を除礫	ストンピッカー

[上湧別保全対策地区]

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (h a)	備考 (該当土区)
紋別郡湧別町、上湧別町	1997	川西一川西、上湧別一1、上湧別一3、 開盛一開盛、中湧別一1、中湧中央一中湧中央 富美東一富美東、南兵村一南兵村、西芭露一1

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

湧別川流域の低平地で砂岩、凝灰岩等の風化堆積物を母材とする良好な沖積土壌である。比較的新しい堆積のために一般に腐植含量が少なく、養分では加里、苦土に欠乏しているものが多い。過湿、過乾のおそれは少ない。

② 営農の方向、その他

有機物施用に重点をおくことが望ましい。

(3) 地力保全対策

①地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (h a)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
深耕	川西一川西 上湧別一1 〃一3 開盛一開盛 中湧別一1 中湧中央一中湧中央 富美東一富美東 南兵村一南兵村 西芭露一1 1997	有機物を施用しながら漸次 深耕	指導
有機物施用	上湧別一1 〃一3 中湧別一1	堆肥の増産 緑肥作物の栽培	〃

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
	富美東一富美東 西芭露一1 760		
施肥の合理化	上湧別一1 上湧別一3 富美東一富美東 南兵村一南兵村 625	加里の増施 苦土入り肥料の使用	〃

〔中湧別保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土区)
紋別郡湧別町、上湧別町	498	上湧別一2、中湧別一2、西芭露一2 上富美中央一上富美中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

湧別川及び小河川流域の低平地で砂岩、凝灰岩の風化堆積物を母材とする沖積土壌である。地表下20～30cm移度から円礫を主とする礫層で、堆積も新しいため腐植含量が少なく、養分は磷酸の少ないところがあるが他の塩基類は比較的多い。

② 営農の方向、その他

有機物施用が才1の必要事項である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
有機物施用	上湧別一2 中湧別一2 西露一2 355	堆肥の増産 緑肥作物の栽培	指導
深耕	上湧別一2 中湧別一2 上富美中央一上富美中央 西芭露一2 498	有機物施用をしながら 漸次深耕	〃
除礫	上湧別一2 上富美中央一上富美中央 西芭露一2 236	中礫以上を除礫する	〃 ストンピツカー

〔湧別保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡 市 町 村	面 積 (h a)	備 考 (該当土 区)
紋別郡湧別町、上湧別町	1 1 9 9	湧別一湧別、川西北一川西北、北浜村一北浜村、 滋賀東一滋賀東、芭露中央一芭露中央、 志撫子一志撫子、上芭露南一1、上芭露南一2、 芭露一芭露

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

湧別川下流域の低平地と芭露川等小河川流域の低平地で、砂岩、凝灰岩等の風化堆積物を母材とした沖積土壌で断面に泥炭をはさむものがあるが、いずれも地下水位が高く過湿となっている。一般に加里、苦土、燐酸が少なく、下層が強酸性を呈するものが多い。

② 営農の方向、その他

混同経営が中心で今後更に家畜の導入が推進されることが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対 策 の 種 類	対象地及び対象面積 (h a)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排 水	湧別一湧別 川西北一川西北 北浜村一北浜村 滋賀東一滋賀東	明渠、暗渠の完全実施	素焼土管、塩ビパイプ 事業費の助成
深 耕	露中央一露中央 志撫子一志撫子 上芭露南一1 上芭露南一2 芭露一芭露 1 1 9 9	有機物、炭カルを施用しながら漸次深耕	指導
酸性矯正	川西北一川西北 滋賀東一滋賀東 芭露中央一芭露中央 志撫子一志撫子 芭露一芭露 6 8 2	炭カルの使用	500~1000 Kg/10a
施肥の合理化	湧別一湧別 川西北一川西北 滋賀東一滋賀東 志撫子一志撫子 上芭露南一2 4 9 6	加里の増施 肥 苦土入り肥料の使用	指導

〔富美保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡湧別町、上湧別	1385	滋賀一滋賀、上富美一上富美、円山一円山 富美一富美、キナウシ一キナウシ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩、凝灰岩、流紋岩等を母材とする崩積あるいは扇状堆土で、地表から角礫または半角礫で富み、礫層が浅い。透水性、保水性共中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。磷酸、加里、苦土がやや少ない。傾斜の急なところは水蝕の発生するおそれがある。

② 営農の方向、その他

穀及び混同経営が行なわれており、今後更に家畜導入を推進すべきである。

(3) 地立保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
深耕	滋賀一滋賀 上富美一上富美 円山一円山 富美一富美 キナウシ一キナウシ 1385	有機物を施用しながら 漸次深耕	指導
有機物施用	滋賀一滋賀 181	堆肥の増産	〃
酸性矯正	円山一円山 548	炭カルの使用	500~700 Kg/10a
保全耕作	上富美一上富美 富美一富美 337	等高線栽培、緑作帯の 設置、草地の拡張	指導
施肥の合理化	滋賀一滋賀 上富美一上富美	磷酸、加里の増施 苦土入り肥料の使用	〃
除礫	円山一円山 富美一富美 キナウシ一キナウシ 1385	中礫以上を除礫	ストンピッカー

〔ボン川保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡湧別町、上湧別町	450	西ノ沢一西ノ沢、緑蔭一緑蔭、ボン川一ボン川

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩、流紋岩等を母材とする崩積あるいは扇状堆土で透水性、保水性共に中庸であるが斜面上部よりの水分供給のため湿性を呈している。加里、苦土が少なく、下層は強酸性を呈する。

② 営農の方向、その他

混同経営が行なわれており、今後更に家畜導入の推進が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水	西ノ沢-西ノ沢	暗渠排水の完全な実施	素焼土管、塩ビパイプ、工事費の助成
深耕	緑蔭-緑蔭 ボン川-ボン川	有機物を施用しながら漸次深耕	指導
酸性矯正	450	炭カルの使用	400~600Kg/10a
施肥の合理化		加里の増施、苦土入り肥料の使用	指導
有機物施用	西ノ沢-西ノ沢	堆肥の増産	〃
保全耕作	66	等高線栽培、緑作帯設置、草地拡張	〃
除 礫		中礫以上を除礫	ストンピッカー

〔テイネイ保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土区)
紋別郡湧別町	138	サギ沼-サギ沼、テイネイ-テイネイ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

湧別川下流域及び芭露川等の河川下流域に分布する泥炭地である。一部暗渠排水が実施されているが、工事の不完全なところや未施工地は排水不良を呈している。鉍質物少なく極めて強い酸性を呈し、養分はいずれもやや少ない。

② 営農の方向、その他

混同経営が行なわれているが更に主畜経営の方向に推進されると思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水	サギ沼-サギ沼	明渠、暗渠排水の完全な実施	素焼土管、塩ビパイプ、工事費の助成
酸性矯正	テイネイ-テイネイ	炭カルの使用	1200~1400 Kg/10a
施肥の合理化	138	燐酸、加里の増施、苦土入り肥料の使用	指導
客土		鉍質土壌の客入	事業費の助成

紋別地域 湧別町・上湧別町

2) 土壌分析成績 (水田)

保全 対策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性												
					風乾細土中		細土無機物中 %					土 性	現地における理化学性 100CC 溶中				
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土		容 積 重 g	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隠 率 %
福 島 保 全 對 策 区	福 島	28	1	0~15	4.1	6.9	2.8	18.4	21.2	34.0	44.8	LiC	136				
			2	15~30	3.6	1.1	2.6	23.5	26.1	34.9	39.0	LiC	173				
			3	30~64		0.9	3.9	27.6	31.5	32.0	36.5	LiC	170				

(畑)

保全 対策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性												
					風乾細土中		細土無機物中 %					土 性	現地における理化学性 100CC 溶中				
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土		容 積 重 g	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隠 率 %
富 栄 床 保 全 對 策 区	富 栄 床	37	1	0~7	3.7	13.9	16.9	43.9	60.8	20.2	19.0	CL	107				
			2	7~15	4.5	8.3	8.9	20.8	29.7	33.2	37.1	LiC	130				
			3	15~36	5.7	7.1	9.7	28.1	37.8	41.6	20.6	CL	124	33	40	27	67
			4	36~50	4.4	—	10.4	20.8	31.2	47.3	21.5	SiCl	141				
			5	50~77	5.4	—	8.4	20.2	28.6	37.2	34.2	LiC					
信 部 内 北	信 部 内	38	1	0~15	3.5	6.7	9.2	23.2	32.4	41.5	26.1	LiC	101	35	15	50	65
			2	15~26	2.3	0.7	5.6	16.1	21.7	40.3	38.0	LiC	177				
			3	26~50	3.3	—	3.8	17.0	20.8	39.9	39.3	LiC	183				
			4	50~70	3.7	—	4.9	16.7	21.6	32.8	45.6	HC	187				

化 学 性															
PH		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩基置換容量 me/ 100g	置換性塩基 (mg/100g)			塩基飽和度 %	磷酸吸收系数	乾土 効果	30℃	有効態	遊離酸化鉄 %
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				NH ₄ -N 發生量 土	有效態 (mg/ 100mg)	
5.4	4.3	5.5	4.17	0.411	10.1	24.3	268.8	8.1	9.4	40	1.181		18.3	9.6	0.94
5.4	4.1	9.7	0.66	0.081	8.1	16.5	168.0	8.1	9.4	36	1.037		7.0	2.4	2.18
5.5	3.8	19.0	0.52	0.062	7.4	14.5	123.2	8.1	8.5	30				3.6	

化 学 性													
pH		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩基置換容量 me/ 100g	置換性塩基 (mg/100g)			石灰飽和度 %	磷酸吸收系数	有効態磷酸 mg/ 100g	
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C/ N		CaO	MgO	K ₂ O				
5.0	4.0	8.8	8.37	0.507	18.0	42.1	184.8	26.2	23.1	16	694	11.6	
5.1	3.8	23.8	5.04	0.273	18.4	46.3	81.2	4.0	18.4	6	1.124	tr	
5.3	3.9	25.5	4.37	0.279	15.7	48.2	50.4	4.0	19.3	4	1.626	tr	
5.5	4.0	25.8	—	—	—	30.6	61.6	20.2	36.7	7	1.488	tr	
5.7	4.0	10.3	—	—	—	30.6	67.2	42.3	49.0	8	1.465	tr	
6.0	4.5	2.3	4.03	0.297	13.6	26.8	260.4	6.0	4.2	35	864	3.7	
5.5	3.7	17.5	0.42	0.065	8.4	16.2	137.2	6.0	2.8	30	515	3.3	
5.5	3.6	28.8	—	—	—	16.5	131.6	46.4	3.8	28	591	tr	
5.7	3.6	23.8	—	—	—	22.7	148.4	62.5	5.2	23	618	tr	

保 全 对 策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					風乾細土中		細土無機物中%					土 性	現地における理化学性 100CC液中					
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土		容 積 重 %	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %	
富 栄 床 保 全 对 策	信 部 内 北	40	1	0~13	4.1	13.7	4.9	29.7	34.6	33.2	32.2	LiC	103	25	51	24	75	
			2	13~19	1.9	1.9	7.8	21.3	29.1	47.6	23.3	SiCl	135					
			3	19~37	2.3	—	4.5	19.4	23.9	43.5	32.6	LiC	169					
	旭	22	1	0~20	4.2	11.4	5.1	20.5	25.6	28.9	45.5	HC	118	32	43	35	78	
			2	20~29	5.4	12.8	2.3	23.4	25.7	44.0	30.3	LiC	123	28	55	17	72	
			3	29~47	2.8	3.6	1.3	21.0	22.3	37.2	40.5	LiC	168	50	39	11	50	
			4	47~65	2.2	—	12.8	17.3	30.1	34.4	35.5	LiC						
	保 全 对 策	39	旭	1	0~15	6.4	24.6	4.8	27.6	32.4	37.1	30.5	LiC	120	28	62	10	72
				2	15~21	6.4	18.1	0.7	12.7	13.4	38.4	48.2	HC					
				3	21~29	3.5	3.5	0.4	13.4	13.8	42.7	43.5	LiC	151	42	44	14	58
				4	29~42	3.7	1.8	2.2	13.9	16.1	32.4	51.5	HC	164				
				5	42~67	4.0	—	3.7	15.4	19.1	32.6	48.3	HC	173	46	49	5	54
	信 部	21	旭	1	0~12	4.4	11.7	5.0	27.5	32.5	28.9	38.6	LiC	119	27	58	15	73
				2	12~21	1.5	1.5	17.6	25.4	43.0	35.5	21.5	CL	162	46	39	15	54
				3	21~37	1.6	—	9.3	25.4	34.7	37.1	28.2	LiC	186	56	35	9	44
4				37~48	2.1	—	6.4	23.6	30.0	37.1	32.9	LiC	184	52	40	8	48	
内	43	旭	1	0~14	4.2	8.2	10.3	28.8	39.1	33.6	27.3	LiC	145	43	39	18	57	
			2	14~25	3.1	2.0	13.5	31.3	44.8	29.7	25.5	LiC	136	39	35	26	61	
			3	25~35	3.2	1.5	14.8	29.9	44.7	33.0	22.3	CL	169	50	35	15	50	

化 学 性												
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 (mg/100g)			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 系 数	有 效 態 磷 酸 mg/ 100g
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C/ N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.3	4.3	2.8	8.29	0.548	14.4	41.1	347.2	34.3	30.6	30	966	7.9
5.5	3.9	5.5	1.12	0.082	13.7	14.6	78.4	28.2	5.7	19	513	t r
5.6	3.8	18.8	—	—	—	15.2	92.4	30.2	8.0	22	591	t r
5.3	4.1	9.0	6.90	0.497	13.9	46.0	305.2	14.1	7.5	24	1,295	11.7
5.2	4.2	12.0	7.84	0.576	13.6	48.1	176.4	6.0	6.6	13	1,796	3.4
5.0	3.9	23.2	2.15	0.141	15.3	26.5	114.8	20.2	4.7	15	896	t r
5.5	3.8	16.0	—	—	—	18.1	126.0	60.5	5.2	25	590	t r
5.6	4.2	5.0	15.24	0.205	7.4	87.1	694.4	16.1	6.6	28	1,687	11.1
4.8	3.6	34.3	11.21	0.640	17.5	87.1	324.8	20.2	4.2	13	1,798	t r
4.8	3.5	49.3	2.10	0.200	10.5	35.8	98.0	6.0	3.3	10	959	t r
5.0	3.6	33.3	1.08	0.113	9.5	26.8	86.8	32.3	30.1	12	847	t r
5.3	3.6	28.0	—	—	—	26.8	117.6	70.6	3.8	16	908	t r
5.4	4.5	3.2	9.10	0.546	13.0	40.1	355.5	84.7	36.3	32	1,065	t r
5.5	4.1	9.0	0.88	0.089	9.9	15.6	95.2	32.3	17.0	22	694	4.0
5.5	4.0	12.0	—	—	—	15.3	84.0	54.4	12.7	20	600	t r
5.6	4.0	13.2	—	—	—	18.1	117.6	48.4	15.5	23	674	t r
6.5	6.0	0.3	4.97	0.386	12.8	40.5	840.0	4.0	6.6	74	1,197	6.3
5.9	4.5	2.8	1.20	0.121	9.9	32.0	313.6	48.4	3.8	35	918	t r
5.6	4.0	11.8	0.90	0.097	9.3	25.8	254.8	72.6	5.2	35	843	t r

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性												
					風乾細土中		細土無機物中%					土 性	現地における理化学性 100CC溶中				
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土		容 積 重 g	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %
富 栄 床 保 全 对 策 区	五 鹿 山 1	12	4	35~60	3.7	—	11.5	27.9	39.4	34.6	26.0	LiC	168	48	38	14	52
			1	0~8	6.6	17.0	6.0	25.7	31.7	16.9	51.4	HC	115	23	64	13	77
			2	8~14	3.3	3.3	22.3	29.1	51.4	34.0	14.6	L	138	33	55	12	67
			3	14~26	2.7	—	24.0	18.1	42.1	36.3	21.6	CL	172	49	39	12	51
			4	26~41	2.2	—	12.7	18.5	31.2	41.7	27.1	LiC	182				
			5	41~68	2.7	—	8.4	18.3	26.7	39.4	33.9	LiC					
			1	0~20	5.8	13.3	5.5	27.2	32.7	42.5	24.8	CL	137				
			2	20~32	3.7	4.2	6.6	26.1	32.7	38.1	29.2	LiC	133	36	42	22	64
			3	32~39	2.7	1.4	2.6	27.6	30.2	41.1	28.7	LiC					
			4	39~50	2.8	—	2.5	28.9	31.4	42.9	25.7	LiC	181				
	5	50~66	3.3	—	1.3	26.0	27.3	57.0	15.7	SiCl	181	56	34	10	44		
	五 鹿 山 2	19	1	0~26	3.3	6.9	11.1	27.1	38.2	28.8	33.0	LiC	157	45	43	12	55
			2	26~31	1.9	1.2	19.8	32.7	52.5	25.5	22.0	CL	160				
			3	31~47	2.1	—	10.8	30.3	41.1	28.0	30.9	LiC					
			4	47~60	2.1	—	6.8	31.9	38.7	32.0	29.3	LiC					
上 芭 露	61	1	0~19	3.1	4.0	7.7	25.5	33.2	40.9	25.9	LiC	150	44	43	13	56	
		2	19~33	3.1	—	1.7	20.8	22.5	39.4	38.1	LiC	139	37	42	21	63	
		3	33~50	3.9	—	1.0	19.3	20.3	32.6	47.1	HC	162	47	34	19	53	
		4	50~	4.3	—	0.6	21.4	22.0	37.7	40.3	LiC	175	47	34	19	53	

化 学 性													
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 (mg/100g)			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g	
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O				
5.4	3.9	14.0	—	—	—	24.7	263.2	48.4	5.2	38	885	t r	
5.3	4.5	2.2	10.55	0.862	12.2	44.3	246.4	56.4	30.6	20	1,193	t r	
5.2	4.1	13.5	1.97	0.170	11.6	17.0	53.2	20.2	5.2	11	728	t r	
5.5	4.1	10.2	—	—	—	15.8	47.6	34.3	2.8	11	562	t r	
5.6	4.0	11.0	—	—	—	14.2	78.4	20.2	3.8	20	438	t r	
5.7	4.0	15.2	—	—	—	16.2	128.8	121.0	5.7	28	462	t r	
6.5	6.0	0.3	8.19	0.574	14.3	59.4	95.2	34.3	3.8	57	1,746	7.6	
5.6	4.3	10.3	2.53	0.224	11.3	30.8	117.6	4.0	5.2	14	1,401	5.4	
5.4	4.1	17.0	0.83	0.088	9.4	21.5	123.2	16.1	4.2	20	764	t r	
5.5	3.7	18.3	—	—	—	19.5	148.4	48.4	5.7	27	594	t r	
5.7	3.7	16.0	—	—	—	21.1	162.4	66.5	5.7	27	653	t r	
5.9	5.1	0.3	4.14	0.297	13.9	38.1	602.0	58.5	4.7	56	1,053	5.8	
5.7	4.5	1.1	0.71	0.067	10.6	15.0	165.2	68.5	3.3	39	606	10.6	
5.5	4.3	3.7	—	—	—	17.0	201.6	78.6	6.6	42	674	t r	
5.6	5.0	7.2	—	—	—	20.9	210.0	108.9	8.5	36	777	t r	
5.9	5.0	0.5	2.39	0.244	9.8	22.8	369.6	46.4	5.2	58	804	5.0	
5.6	3.8	20.3	—	—	—	21.0	215.6	46.4	8.0	37	756	t r	
5.0	3.6	33.8	—	—	—	24.9	207.2	298.4	13.2	30	849	t r	
4.8	3.4	31.5	—	—	—	24.3	221.2	80.6	15.5	33	766	t r	

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における理学性 100 cc 容 中				
					風乾細土中		細土無機物中%					土 性	容 積 重 ♀	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土								
富 栄 床 保 全 对 策 区	東 芭 露	49	1	0~18	2.5	3.8	19.3	21.0	40.3	34.9	24.8	CL	160	46	42	12	54		
			2	18~34	2.5	—	13.0	21.4	34.4	43.2	22.4	CL							
		66	1	0~20	2.6	3.8	10.7	28.5	39.2	35.5	25.3	LiC							
			2	20~30	2.4	—	12.6	30.0	42.6	32.7	24.7	CL							
	共 栄 ノ 沢	14	1	0~18	3.5	3.3	11.2	27.1	38.3	40.1	21.6	CL	148	42	38	20	58		
			2	18~32	5.2	0.9	9.1	23.4	32.5	39.6	27.9	LiC	158						
			3	32~58	6.3	—	4.9	26.0	30.9	24.2	44.9	LiC							
			4	58~	8.0	—	14.2	17.3	31.5	19.9	48.6	HC							
	支 流 ノ 沢	11	1	0~15	2.4	4.2	31.4	25.6	57.0	24.6	18.4	CL							
			2	15~30	2.1	1.4	46.6	20.6	67.2	18.8	14.0	SL							
計 呂 地	50	1	0~16	2.9	5.3	10.8	28.4	39.2	34.3	26.5	LiC	151	44	42	14	56			
		2	16~29	2.1	1.4	17.5	26.7	44.2	36.7	19.1	CL	152	45	31	24	55			
		3	29~51	2.3	—	22.7	25.2	47.9	35.1	17.0	CL								
		4	51~65	2.5	—	18.2	33.3	51.5	32.4	16.1	CL								
福 島 南	5	1	0~17	3.0	5.0	19.6	27.1	46.7	33.3	20.0	CL	155							
		2	17~32	2.9	1.4	20.3	27.5	47.8	28.7	23.5	CL	143							
		3	32~50	2.9	—	23.4	26.5	49.9	30.2	19.9	CL								

化 学 性												
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg / 100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 效 態 磷 酸 mg / 100g
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.5	3.9	108	2.26	0.174	12.9	29.1	246.4	3.0	10.8	30	935	3.3
5.3	3.7	328	—	—	—	19.5	134.4	3.0	9.9	25	686	tr
6.6	6.3	04	2.26	0.200	11.3	22.0	445.2	16.1	19.8	72	895	7.4
5.4	3.7	188	—	—	—	19.7	148.4	76.6	11.3	27	624	tr
5.7	3.7	108	—	—	—	21.0	229.2	66.5	13.2	38		tr
6.1	4.7	63	—	—	—	19.3	271.6	66.5	9.9	50		4.8
5.5	4.4	32	1.98	0.173	11.4	23.8	305.2	26.2	8.0	46	624	3.7
4.8	3.8	39.0	0.55	0.071	7.8	29.6	176.4	90.7	9.9	21	991	8.4
4.9	3.7	46.5	—	—	—	32.4	193.2	54.4	17.0	21	1,002	tr
4.7	3.7	56.1	—	—	—	40.8	240.8	82.7	27.3	21	1,041	tr
5.6	4.5	24	2.50	0.200	12.5	16.7	207.2	20.2	10.4	44	440	17.6
5.6	4.3	7.7	0.83	0.081	10.2	14.0	109.2	30.2	9.9	28	478	tr
5.6	4.5	2.0	3.16	0.218	14.5	20.9	796.8	36.3	7.5	51	802	3.3
5.4	4.1	10.5	0.83	0.084	9.9	23.6	1428	24.2	9.9	22	748	tr
5.4	3.9	20.3	—	—	—	22.8	126.0	18.1	14.6	20	629	tr
5.5	3.7	33.5	—	—	—		86.8	32.3	14.6		592	tr
6.0	5.0	0.7	2.99	0.232	12.9	24.4	420.0	12.1	14.1	61	644	12.4
5.7	4.4	4.7	0.83	0.096	8.7	20.3	266.0	6.0	13.2	47	620	tr
5.5	4.1	14.5	—	—	—	20.3	196.0	6.0	15.5	34	705	tr

保 全 对 策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における 100 cc 容 中				
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中 %					土 性							
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シル ト	粘 土		容 積 量 %	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %		
富 栄 床 保 全 对 策 区	福 島 南	44	1	0~19	3.6	6.5	18.5	26.1	44.6	28.5	26.9	LiC	143	43	38	19	57		
			2	19~32	3.1	2.0	18.6	24.4	43.0	31.9	25.1	LiC	115	44	37	19	56		
			3	32~50	2.8	-	19.2	35.4	54.6	25.0	20.4	CL							
	中 番 屋	30	1	0~15	0.3	0.6	98.1	0.6	98.7	0.8	0.5	S							
			2	15~21	1.0	4.6	86.4	7.1	93.5	4.1	2.4	S							
			3	21~	0.2	-	97.2	0.3	97.5	2.5	-	S							
	芭 南 露	63	1	0~15	2.7	2.6	37.9	34.5	72.4	13.6	14.0	SL							
	川 西	29	1	0~16	3.5	6.1	24	17.8	20.2	45.5	34.3	SiC	114						
			2	16~35	2.8	-	04	28.1	28.5	45.9	25.6	SiC	151	42	38	20	58		
			3	35~55	1.5	-	13.0	57.8	70.8	14.9	14.3	SL	136						
			4	55~68	2.0	-	12.7	62.8	75.5	15.5	9.0	SL							
			5	68~	1.1	-	88.2	8.9	97.1	1.0	1.9	S							
	上 湧 別	4	1	0~26	2.4	1.2	15.8	48.1	63.9	23.4	12.7	L	133	41	28	31	59		
			2	26~57	1.9	-	29.0	52.7	81.7	11.6	6.7	SL	147	40	44	16	60		
		30	1	0~22	2.1	3.0	31.3	38.2	69.5	18.6	11.9	SL	160						
2			22~40	1.2	-	58.1	29.3	87.4	8.2	4.4	LS	149	47	26	27	53			
33		1	0~17	1.6	1.7	59.2	23.3	82.5	12.5	5.0	SL	144	45	26	29	55			
		2	17~26	1.8	1.7	58.5	26.7	85.2	7.0	7.8	LS								
		3	26~38	1.1	-	90.3	4.5	94.8	5.2	-	S	131	46	9	45	54			

化 学 性													
pH		置 換 酸 度 Y1	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 效 態 磷 酸 mg 100g	
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O				
5.3	4.0	14.3	3.91	0.298	13.1	36.9	260.4	36.3	4.7	25	942	3.3	
5.6	4.0	19.8	1.20	0.112	10.7	28.6	109.2	6.0	4.2	14	842	4.1	
5.2	3.9	24.0	—	—	—	26.5	131.6	30.2	5.7	18	707	t r	
6.1	5.3	0.3	0.35	0.051	7.0	5.0	45.9	12.3	13.2	32	215		
5.7	4.7	0.8	2.70	0.206	13.1	16.1	121.2	12.3	12.2	27	374		
5.9	4.4	1.5	—	—	—	1.9	20.0	2.0	7.5	37	214		
5.8	4.6	0.8	1.55	0.169	9.2	22.1	408.8	90.7	17.0	66	801	3.3	
6.0	5.3	0.6	3.67	3.69	9.7	46.0	568.4	38.3	65.9	44	941	54.4	
5.8	4.6	2.3	—	—	—	34.1	316.4	38.3	13.2	33	802	t r	
5.7	4.5	3.5	—	—	—	25.0	232.4	44.4	14.6	33	586	9.7	
5.6	4.4	5.5	—	—	—	23.8	193.2	36.3	16.5	29	645	17.1	
5.5	4.4	4.3	—	—	—	10.0	86.8	20.2	14.6	31	379	t r	
6.4	5.6	0.2	0.72	0.095	7.5	20.4	380.8	18.1	41.0	67	460	27.9	
6.9	5.9	0.2	—	—	—	15.5	282.8	10.1	13.2	65	397	25.3	
6.1	5.0	0.5	1.78	0.181	9.8	21.9	322.0	4.0	26.4	53	570	21.6	
6.2	5.0	0.5	—	—	—	14.3	182.0	18.1	31.6	45	407	17.8	
6.1	5.3	0.3	1.00	0.112	9.0	16.8	249.2	16.1	50.4	53	455	26.8	
6.2	5.3	0.6	1.00	0.111	9.1	15.3	246.4	18.1	33.4	58	456	20.4	
6.2	5.0	0.5	—	—	—	9.0	154.0	16.1	19.8	61	386	26.3	

保 全 对 策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性												
					風乾細土中		細土無機物中%					土 性	現地における理学性 100 cc 容 中				
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土		容 積 %	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %
富 采 床 保 全 对 策 区	上 湧 別 3	3	1	0~24	2.5	4.4	28.9	31.7	60.6	21.6	17.8	CL	120	38	25	37	62
			2	24~55	1.8	—	37.1	37.4	74.5	14.2	11.3	SL	153				
	開	1	1	0~17	2.1	4.5	8.6	37.4	46.0	29.8	24.2	CL	166	50	46	4	50
			2	17~31	5.4	1.4	6.5	49.1	55.6	24.8	19.6	CL	154				
			3	31~42	5.3	—	7.1	39.9	47.0	33.4	19.6	CL	163	44	47	9	56
	盛	15	1	0~15	2.1	5.0	9.6	32.9	42.5	32.4	25.1	LiC	149	43	46	11	57
			2	15~29	2.3	4.7	14.7	31.6	46.3	34.2	19.5	CL	144				
	中 湧 別 1	24	1	0~18	1.9	2.3	0.4	32.8	33.2	36.8	28.0	LiC	143	40	40	20	60
			2	18~50	2.0	—	0.1	41.9	42.0	36.5	21.5	CL	148				
	中 湧	2	1	0~15	4.0	6.4	5.0	36.3	41.3	32.6	26.1	LiC	153				
			2	15~24	3.4	3.4	3.3	41.6	44.9	33.0	22.1	CL	151	42	42	16	58
			3	24~32	3.1	3.0	11.1	46.6	57.7	23.7	18.6	CL	149				
			4	32~44	2.8	2.1	8.0	52.0	60.0	25.1	14.9	L	155				
			5	44~56	3.3	—	2.2	34.0	36.2	36.0	27.8	LiC	155	42	47	11	58
			6	56~80	3.2	—	0.6	29.3	29.9	41.1	29.0	LiC	161	45	42	13	55
7			80~100	3.5	—	1.6	28.5	30.1	37.1	32.8	LiC	169					
央	23	1	0~18	2.9	6.6	2.0	26.5	28.5	37.5	34.0	LiC	127	37	39	24	63	
		2	18~31	2.7	2.9	0.2	30.6	30.8	36.2	33.0	LiC	151					
		3	31~52	2.7	—	0.3	25.2	25.5	42.2	32.3	LiC	162					

化 学 性												
pH		置 換 酸 度 Yl	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 效 態 磷 酸 mg/ 100g
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.3	4.5	4.2	2.62	0.243	10.8	23.5	252.0	6.0	37.9	38	567	30.4
5.6	4.3	3.1	—	—	—	14.0	196.0	4.0	19.8	50	437	13.0
5.4	4.1	11.7	2.66	0.243	11.0	25.5	266.0	30.2	18.4	37	838	t r
5.2			0.86	0.099	8.6	24.4	142.8	48.4	17.4	21	1,008	t r
5.3	3.9	29.7	—	—	—	27.4	196.0	112.9	19.8	26	1,016	t r
		0.1	2.96	0.348	8.5	36.0	764.4	52.4	97.0	76	777	36.3
6.2	5.6	0.2	2.80	0.263	10.6	20.4	305.2	62.5	78.7	53	757	8.2
6.3	5.6	0.1	1.36	0.203	6.7	27.4	526.4	10.1	40.5	69	753	24.0
6.4	5.1	0.3	—	—	—	24.4	431.2	42.3	13.7	63	832	31.0
6.4	5.8	0.2	3.87	0.341	11.3	34.7	716.8	66.5	38.2	74	836	11.7
6.4	5.5	0.2	2.04	0.196	10.4	26.5	464.8	26.2	31.1	63	708	5.8
6.2	5.2	0.3	1.80	0.150	12.0	25.0	369.6	30.2	31.6	53	565	4.1
6.3	5.0	0.5	1.26	0.118	10.6	21.3	308.0	36.3	39.6	52	578	2.1
6.1	5.1	0.6	—	—	—	26.5	344.4	42.3	57.0	46	667	t r
6.1	4.8	0.6	—	—	—	24.0	324.8	46.4	62.6	48	646	t r
6.0	4.2	0.8	—	—	—	25.4	313.6	6.0	80.5	44	668	t r
6.5	6.1	0.2	3.94	0.338	11.7	38.7	705.6	26.2	46.2	71	1,106	18.1
5.3	4.0	14.5	1.73	0.188	9.2	25.0	229.6	10.1	24.0	33	971	t r
5.2	3.9	15.7	—	—	—	23.7	182.0	26.2	19.3	27	895	t r

保 全 对 策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における理化学性 100 cc 容中				
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中 %					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ルト	粘 土								
富 美 東 富 浜 村 床 保 全 对 策 区	富 美 東	20	1	0~15	2.8	2.8	14.7	42.7	57.4	22.9	19.7	CL	166						
			2	15~32	2.4	-	14.5	44.4	58.9	26.3	14.8	L	162						
			3	32~50	2.3	-	8.5	42.9	51.4	28.0	20.6	CL	163	46	39	15	54		
			4	50~85	1.8	-	37.9	46.5	84.4	4.5	11.1	SL	156						
	南 浜 村	9	1	0~15	3.1	6.4	19.9	37.2	57.1	23.9	19.0	CL	154	44	44	12	56		
			2	15~35	1.7	-	20.8	51.7	72.5	17.8	9.7	SL							
			3	35~53	1.0	-	92.3	5.2	97.5	2.5	-	S							
	西 芭 露 1	58	1	0~12	3.3	2.6	1.8	30.1	31.9	38.5	29.6	LiC	139	39	38	23	61		
			2	12~38	2.9	-	1.5	51.1	52.6	30.0	17.4	CL	169						
			3	38~50	2.9	1.8	6.4	35.5	41.9	33.6	24.5	CL	118	44	37	19	56		
		59	1	0~13	2.7	4.3	8.0	30.1	38.1	36.7	25.2	LiC	142	42	34	24	58		
			2	13~27	2.4	1.4	6.5	33.7	40.2	32.7	27.1	LiC	140	41	33	26	59		
			3	27~40	2.8	-	12.3	47.1	59.4	23.7	16.9	CL	159	43	33	24	57		
			4	40~65	2.8	-	31.3	39.8	71.1	16.1	12.8	SL	162	49	40	11	51		
		土湧別2	速軽10	1	0~17	2.4	2.7	42.3	32.7	75.0	14.5	10.5	SL						
	中湧別2	25	1	0~17	2.2	4.1	10.4	34.6	45.0	31.7	23.3	CL	151	43	42	15	57		
上富中 美央	10	1	0~25	3.3	7.4	20.2	32.8	53.0	29.9	17.1	CL								
西 芭 露 2	6	1	0~15	3.7	4.1	13.9	29.1	43.0	30.6	26.4	LiC	155							
		2	15~30	2.9	1.0	17.0	36.2	53.2	27.1	19.7	CL	173							

化 学 性													
PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100 g	置 換 性 塩 素 mg/100 g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 (ppm) ($\frac{mg}{100g}$)	
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C/ N		CaO	MgO	K ₂ O				
6.2	5.1	0.5	1.67	0.155	10.7	27.7	504.0	68.5	6.6	65	934	4.1	
6.1	4.6	0.7	-	-	-	22.8	380.8	92.7	4.7	60	893	tr	
6.0	4.6	1.0	-	-	-	23.5	397.6	92.7	4.7	60	892	tr	
5.9	4.4	1.2	-	-	-	18.9	296.8	78.6	3.3	56	643	tr	
5.9	5.1	0.7	3.83	0.361	10.6	29.0	453.6	10.1	83.4	56	554	30.5	
5.8	4.5	3.5	-	-	-	16.1	184.8	4.0	50.4	41	436	28.9	
5.8	4.4	2.2	-	-	-	9.2	103.6	18.1	23.6	40	117	11.3	
5.2	5.0	0.5	1.56	0.215	13.8	28.9	632.8	42.3	27.8	78	920	14.0	
6.2	5.0	0.4	-	-	-	32.2	574.0	26.2	19.3	64	897	4.1	
6.4	4.6	0.6	1.07	0.125	8.6	35.2	554.4	90.7	19.3	56	897	5.4	
6.1	5.9	0.3	2.56	0.266	9.6	35.5	663.6	44.4	49.9	67	735	28.8	
6.5	5.0	0.5	0.83	0.102	8.2	36.6	551.6	36.3	48.0	54	874	tr	
5.3	3.9	18.5	-	-	-	32.2	288.4	18.1	52.3	32	802	tr	
5.1	3.7	33.3	-	-	-	24.3	221.2	14.1	23.1	33	821	tr	
5.9	4.3	3.4	1.61	0.151	10.7	21.9	263.2	28.2	35.7	43	687	22.1	
6.4	5.6	0.2	2.43	0.243	10.0	28.6	557.2	26.2	99.4	70	717	tr	
7.2	6.9	0.1	4.44	0.357	12.4	39.0	742.0	149.2	31.1	68	707	37.2	
5.9	5.0	0.5	2.47	0.262	9.5	29.6	490.0	42.3	29.2	59	689	24.1	
6.7	5.5	0.2	0.60	0.089	6.7	24.1	400.4	60.5	35.3	59	664	9.9	

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における理学性 100 cc 容中				
					風乾細土中		細土無機物中%					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土								
富 栄 床 保 全 对 策 区	湧 別	31	1	0~21	3.3	3.2	18.0	13.8	31.8	36.6	31.6	LiC	123						
			2	21~40	3.6	3.0	3.2	14.3	17.5	42.0	40.5	LiC	145						
			3	40~61	3.0	-	2.9	22.2	25.1	49.2	25.7	SiC	157	44	41	15	56		
		34	1	0~18	4.1	4.5	19.5	22.9	42.4	32.8	24.8	CL	165						
			2	18~30	3.9	4.8	27.2	18.3	45.5	30.0	24.5	CL	148	44	37	19	56		
			3	30~36	4.7	3.5	11.3	22.4	33.7	36.2	30.1	LiC							
			4	36~50	3.7	-	8.9	34.2	43.1	35.1	21.8	CL							
		41	1	0~28	3.2	4.9	7.6	48.7	56.3	15.4	28.3	SC	151	42	49	9	58		
			2	28~45	2.2	-	31.7	46.4	78.1	13.5	8.4	SL	150	44	36	20	56		
	3		45~51	2.1	-	29.1	48.4	77.5	10.3	12.2	SL	145							
	川 西 北	32	1	0~15	4.0	7.2	23.5	8.9	32.4	36.2	31.4	LiC	137						
			2	15~58	3.3	-	0.3	5.9	6.2	54.1	39.7	SiC	149	41	45	14	59		
	北 浜 村	27	1	0~16	5.4	16.1	2.7	26.6	29.3	32.9	37.8	LiC	115						
			2	16~28	6.2	6.0	13.8	49.0	62.8	20.3	16.9	CL	133						
			3	28~41	5.4	2.7	12.6	49.2	61.8	29.6	8.6	L							
滋 賀 東	26	1	0~14	2.9	-	-	-	-	-	-	LP								
		2	14~	4.5	0.8	11.6	26.1	37.7	18.6	43.7	LiC								
18	18	1	0~18	3.8	6.3	12.9	20.4	33.3	29.1	37.6	LiC	129	33	46	21	67			
		2	18~45	2.3	-	14.2	31.8	46.0	29.4	24.6	CL	188							

化 学 性												
PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 機 mg / 100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg / 100g
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O			
6.0	4.9	0.8	1.92	0.220	8.7	28.8	394.8	30.2	24.0	49	834	23.2
5.9	4.7	1.5	1.80	0.196	9.2	30.5	375.2	38.3	14.6	44	942	11.2
6.3	5.0	0.5	-	-	-	25.6	361.2	74.6	9.9	50	879	21.9
6.4	5.9	0.3	2.72	0.267	10.2	36.0	610.4	38.3	13.2	61	1,290	16.3
6.4	5.7	0.1	2.89	0.285	10.1	35.4	576.8	34.3	8.9	58	1,041	17.1
6.0	5.2	0.3	2.13	0.182	11.7	39.0	481.6	68.5	5.7	44	1,309	5.5
6.2	5.0	0.5	-	-	-	29.3	330.4	48.4	5.2	40	1,000	5.4
6.1	5.1	0.5	2.93	0.280	10.5	29.6	459.2	14.1	8.9	55	938	4.5
5.8	4.2	7.3	-	-	-	17.6	207.2	36.3	7.1	42	590	tr
5.5	4.1	6.3	-	-	-	17.6	204.4	30.2	8.9	41	570	tr
5.4	4.2	8.8	4.36	0.356	12.2	15.2	243.6	14.1	5.2	57	908	13.3
5.7	3.9	16.5	-	-	-	31.0	274.4	44.4	6.1	32	901	tr
5.6	4.6	3.2	9.87	0.700	14.1	45.9	462.0	20.2	14.1	36	2,108	2.0
5.5	4.3	12.2	3.71	0.304	12.2	34.3	95.2	12.1	17.4	10	2,262	1.2
5.5	4.5	4.7	1.66	0.263	6.3	19.2	28.0	8.1	13.7	5	2,029	0.8
5.3	4.2	7.0	2.93	0.270	10.8	27.2	238.0	18.1	67.4	31	879	tr
5.2	3.5	22.7	0.48	0.064	7.5	27.5	210.0	60.5	20.7	27	1,066	tr
5.7	4.8	0.8	3.80	0.309	12.2	39.0	537.6	92.7	47.6	49	1,078	20.8
5.1	3.9	1.7	-	-	-	22.3	193.2	102.8	7.5	31	779	tr

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性												
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中 %					土 性	現地における理化学性 100 cc 容中				
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ルト	粘 土		容 積 重 %	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %
富 栄 床 保 全 对 策 区	芭 露 中 央	51	1	0~22	3.6	5.9	1.5	24.9	26.4	39.9	33.7	LiC	138	39	42	19	61
			2	22~38	3.2	-	2.3	32.3	34.6	40.7	24.7	CL	142	41	33	26	59
			3	38~55	2.6	-	9.4	45.9	55.3	26.8	17.9	CL					
		64	1	0~16	3.9	5.7	2.6	27.8	30.4	35.2	34.4	LiC	137				
			2	16~25	3.7	2.5	1.6	37.7	39.3	32.3	28.4	LiC	165				
			3	25~45	3.8	-	4.4	20.3	24.7	37.5	37.8	LiC	165				
	4	45~	3.6	-	1.6	14.1	15.7	47.8	36.5	SiC	170						
	志 撫 子	47	1	0~20	4.7	10.6	0.9	14.0	14.9	40.2	44.9	LiC	111	27	47	26	73
			2	20~39	6.2	14.9	1.9	8.9	10.8	41.8	47.4	HC (SP)	100	29	61	10	71
			3	39~56	6.2	25.1	0.1	10.9	11.0	37.0	52.0	HC (SP)	122	20	77	3	80
		54	1	0~14	5.4	19.4	21.3	28.4	49.7	22.5	27.8	LiC	122				
			2	14~31	10.5	-						LP	89	14	66	20	86
3			34~50	7.3	22.0	0.3	7.0	7.3	46.1	46.6	HC (LP)	115	18	76	6	82	
55		1	0~28	4.4	9.6	8.5	26.2	34.7	33.1	32.2	LiC	141					
		2	28~45	4.7	-	0.3	8.8	9.1	58.7	32.2	SiC	132					
		3	45~55	5.6	6.8	0.2	4.8	5.0	44.3	50.7	HC	130					
上 芭 露 南 1	48	1	0~18	2.9	5.3	13.3	39.7	53.0	26.1	20.9	CL	126					
		2	18~31	2.7	2.8	5.9	31.7	37.6	38.8	23.6	CL						
		3	31~42	2.7	-	10.0	52.2	62.2	23.9	13.9	L						

化 学 性													
PH		置 換 酸 度 Yi	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100 g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 (mg/ 100 g	
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O				
7.2	6.8	0.1	3.55	0.316	11.2	44.2	1153.6	14.1	21.7	93	1,114	34.8	
5.8	4.2	3.8	-	-	-	32.7	459.2	44.4	7.5	50	919	tr	
5.5	4.1	4.5	-	-	-	28.0	361.2	60.5	8.0	46	838	tr	
6.0	5.0	0.5	3.45	0.311	11.1	32.3	548.8	30.2	27.8	61	1,041	10.8	
6.2	4.8	0.8	1.51	0.150	10.1	31.6	518.0	72.6	14.6	59	1,000	tr	
5.8	3.9	16.3	-	-	-	37.6	316.4	112.9	20.3	30	1,002	tr	
5.7	3.7	16.8	-	-	-	28.5	285.6	139.1	21.2	36	905	tr	
4.9	3.8	28.3	6.45	0.562	11.5	47.4	182.0	2.0	9.4	14	1,243	2.5	
4.7	3.7	37.0	9.21	0.717	12.8	53.2	170.8	4.0	7.5	11	1,204	tr	
5.0	3.7	20.1	15.52	0.892	17.4	63.5	450.8	42.3	6.6	25	1,537	tr	
4.5	3.6	30.3	11.89	0.959	12.4	40.0	128.8	4.0	7.5	12	999	5.1	
4.4	3.7	30.6	-	-	-	69.4	190.4	8.1	8.5	10	1,117	1.8	
4.8	3.8	23.0	13.77	1.039	13.3	50.5	266.0	52.4	5.2	19	1,238	tr	
5.4	4.3	2.3	5.83	0.483	12.0	35.2	498.4	26.2	21.7	51	931	15.9	
5.1	3.7	21.3	-	-	-	30.4	277.2	34.4	8.5	33	1,030	1.3	
5.0	3.7	22.3	4.17	0.384	10.9	35.7	296.8	38.3	10.8	30	1,137	tr	
6.8	6.5	0.3	3.16	0.314	10.1	33.5	652.4	52.4	69.2	70	802	52.8	
7.2	6.6	0.3	1.67	0.186	9.0	31.1	481.6	68.5	88.1	55	801	13.2	
7.0	6.4	0.1	-	-	-	28.4	445.2	54.4	57.0	56	820	tr	

保全 对策 区	土地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
				風乾細土中		細土無機物中%					土 性	現地における理化学性 100 cc 容中					
				水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土		容 積 重 g	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 容 積 %	
富 采 床 保 全 对 策 区	上露 芭南 2	65	4	42~65	2.7	-	2.6	44.3	46.9	32.1	21.0	CL					
		1	0~15	3.3	4.3	18.9	31.3	50.2	23.9	25.9	LiC	153					
		2	15~30	3.4	-	33.9	37.6	71.5	7.2	21.3	SCL	151					
	芭 露	53	1	0~27	4.4	5.4	9.3	22.0	31.3	39.6	29.1	LiC	122	35	34	31	65
			2	27~34	4.1	-	4.5	15.8	20.3	44.4	35.3	LiC					
			3	34~48	4.2	-	2.5	29.2	31.7	40.0	28.3	LiC	137				
			4	48~	3.0	-	6.5	58.6	65.1	14.4	20.5	SCL	158	46	38	16	54
	滋 賀	13	1	0~25	2.2	4.0	32.2	30.8	63.0	24.8	12.2	L	137				
			2	25~60	1.9	-	30.7	25.3	56.0	26.0	18.0	CL	159	51	31	18	49
			3	60~	2.4	-	44.7	29.2	73.9	17.8	8.3	SL					
	上富 美	16	1	0~14	2.8	9.5	23.8	26.2	50.0	29.9	20.1	CL					
	円	52	1	0~15	2.9	5.7	16.9	36.7	53.4	29.9	16.5	CL	148	44	38	18	56
			2	15~35	2.2	-	12.2	29.8	42.0	29.6	28.4	LiC	154				
			3	35~50	2.2	-	30.2	32.6	62.8	27.6	9.6	L					
	60	1	0~17	2.3	2.2	19.7	26.4	46.1	35.4	18.5	CL	165	48	36	16	52	
		2	17~25	2.4	-	20.9	30.5	51.4	29.6	19.0	CL	161	45	31	24	55	
	山	62	1	0~20	2.3	3.7	28.1	23.2	51.3	32.1	16.6	CL	130	39	31	30	61
			2	20~40	2.1	-	31.0	20.5	51.5	27.8	20.7	CL					
			3	40~	2.3	-	33.1	21.4	54.5	23.5	22.0	CL					

化 学 性													
p H		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g	
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C /N		CaO	MgO	K ₂ O				
6.7	6.0	0.1	-	-	-	29.4	397.6	48.4	42.9	48	937	7.0	
5.8	4.7	0.5	2.57	0.253	10.2	31.1	674.8	46.4	12.7	77	996	17.4	
6.2	4.7	0.5	-	-	-	24.0	557.2	46.4	8.0	82	1,035	1.7	
5.7	4.7	0.8	3.27	0.298	11.0	33.8	602.0	66.5	25.9	64	1,046	15.9	
5.4	3.8	11.3	-	-	-	37.4	347.2	78.6	12.7	33	928	7.5	
5.5	3.9	7.5	-	-	-	25.3	338.8	108.9	9.9	48	987	t r	
5.2	3.6	18.5	-	-	-	35.5	215.6	74.6	5.2	22	803	t r	
5.8	5.1	0.3	2.37	0.151	15.7	17.0	271.6	34.3	24.0	57	438	21.7	
5.6	4.5	1.7	-	-	-	15.8	196.0	42.3	20.3	44	377	t r	
5.6	4.9	0.5	-	-	-	16.2	238.0	48.4	29.2	52	440	t r	
6.0	5.3	0.6	5.67	0.351	16.2	27.5	389.2	66.5	22.6	51	783	t r	
6.5	5.8	0.3	3.41	0.250	13.6	34.0	616.0	18.1	8.5	65	822	12.3	
5.1	4.0	17.0	-	-	-	23.1	58.8	8.1	8.9	9	796	t r	
5.1	3.9	26.8	-	-	-	25.0	75.6	26.2	7.5	11	684	t r	
5.6	4.1	5.5	1.31	0.136	9.6	18.3	263.2	20.2	5.7	51	685	1.6	
6.4	4.4	2.0	-	-	-	20.7	322.0	70.6	13.2	50	686	7.8	
6.2	5.1	0.3	2.20	0.197	11.2	22.7	453.6	14.1	17.0	71	732	9.8	
5.4	4.8	16.0	-	-	-	20.1	182.0	52.4	21.2	32	683	t r	
5.1	3.7	32.3	-	-	-	21.0	98.0	62.5	30.6	17	705	t r	

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性													
					風乾細土中		細土無機物中%					土性	現地における理学的性 100cc容中					
					水分%	腐植%	粗砂	細砂	砂合計	シルト	粘土		容積重 ρ	固相容積%	水分容積%	空気容積%	孔隙率%	
富 栄 床 保 全 対 策 区	富美	17	1	0~20	3.0	5.4	34.2	26.1	60.3	19.6	20.1	SCL						
	キノウシ	7	1	0~14	3.0	3.3	8.6	31.7	40.3	29.7	30.0	LiC	162	47	36	17	53	
		8	1	0~14	4.1	9.0	11.9	29.3	41.2	31.1	27.7	LiC	153					
	西ノ沢	42	1		0~13	2.0	1.9	23.0	22.8	45.8	38.6	15.6	CL	132				
			2		13~20	1.6	1.8	28.9	18.4	47.3	36.0	16.7	CL					
			3		20~27													
			4		27~37		-	28.1	20.8	48.9	44.4	6.7	L					
	緑陰	44	1		0~18	3.7	6.7	3.1	15.5	18.6	42.9	38.5	LiC	133				
			2		18~28	3.7	3.3	2.5	11.1	13.6	38.3	48.1	HC	141				
			3		28~40	2.8	1.4	1.6	13.3	14.9	44.7	40.4	LiC	162	45	41	14	55
			4		40~52	3.0	-	2.0	18.7	20.7	41.5	37.8	LiC					
	ポシ	56	1		0~16	4.1	5.9	14.9	23.4	38.3	32.9	28.8	LiC	115	34	29	37	66
			2		16~38	3.3	1.4	23.2	29.0	52.2	28.1	19.7	CL	157	43	47	10	57
			3		38~52	3.0	-	17.1	35.8	52.9	31.3	15.8	CL	166				
			4		52~69	2.8	-	23.1	34.6	57.7	27.5	14.8	L	161	46	37	17	54
		川	57	1		0~25	2.7	4.7	10.4	26.0	36.4	35.5	28.1	LiC	105	33	22	45
2					25~43	1.8	-	11.3	27.4	38.7	37.2	24.1	CL	179	53	30	17	47
3					43~		-	8.1	21.5	29.6	35.3	35.1	LiC					
1					0~17	5.5	-	-	-	-	-	-	Lp	100	15	73	12	85

化 学 性												
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg / 100 g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 效 態 磷 酸 mg/ 100g
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C /N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.6	5.0	0.5	3.23	0.266	12.1	30.5	386.4	139.1	33.0	45	705	41.2
6.0	4.7	1.2	1.97	0.206	9.6	29.3	464.8	58.5	18.4	57	745	8.2
5.2	4.2	8.5	5.44	0.435	12.5	35.7	260.4	18.1	66.9	26	775	30.9
5.3	4.2	4.8	1.12	0.079	14.3	21.9	229.6	6.0	17.0	37	551	27.7
5.3	4.0	12.5	1.06	0.085	12.4	14.3	109.2	6.0	8.9	27	412	4.9
5.4	3.9	13.8	-	-	-	11.8	70.0	8.1	8.5	21		t r
5.4	4.0	15.0	-	-	-	10.5	84.0	32.3	12.2	28		t r
5.5	4.2	5.5	4.04	0.381	10.5	38.4	389.2	12.1	4.7	36	1,000	14.5
5.7	4.2	5.5	1.98	0.185	10.7	27.4	358.4	22.2	5.7	47	1,038	2.1
5.6	4.0	15.5	0.83	0.099	8.4	33.3	238.0	20.2	5.7	36	802	1.6
5.7	3.9	24.0	-	-	-	24.4	182.0	38.3	5.7	27	820	7.0
5.2	4.1	7.0	3.57	0.343	10.4	33.0	364.0	38.3	9.9	39	728	7.5
5.3	3.8	16.3	0.72	0.109	6.7	25.3	263.2	24.2	6.6	37	844	t r
5.5	3.8	17.3	-	-	-	23.6	238.0	42.3	6.6	36	718	t r
5.6	3.8	19.3	-	-	-	23.1	263.2	42.3	8.9	41	754	6.6
5.8	4.7	0.8	2.81	0.222	12.6	30.2	336.0	32.3	21.7	40	735	8.2
5.4	3.8	14.3	-	-	-	20.5	126.0	72.6	6.6	22	496	t r
6.0	3.6	6.5	-	-	-	26.1	266.0	88.7	14.6	36		t r
4.9	4.1	20.1				53.5	117.6	10.1	17.0	8	1,227	2.5

保 全 对 策 区	土 地 点 番 号	地 層 位	深 さ cm	理 学 性														
				風乾細土中		細土無機物中%					土 性	現地における理学性 100 cc 容中						
				水 分 %	腐 植 %	粗 砂	細 砂	砂 合 計	シ ル ト	粘 土		容 積 重 g	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %		
富 栄 床 保 全 对 策 区	サ ギ 沼	45	2	17~33	4.0	20.3												
			3	33~58	10.8							Lp	91	7	81	12	93	
	テ イ ネ イ	36	1	0~17	9.0	-	-	-	-	-	-	Lp	97					
			2	17~26	6.4													
			3	26~39	10.3	-	-	-	-	-	-	-	Lp	97	11	81	8	89

※ 乾土あたり

化 学 性												
p H		置 換 酸 度 Yl	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.0	4.1	19.0				63.2	184.8	20.2	9.4	10	917	4.1
5.7	4.4	1.6				118.0	543.2	435.5	9.9	16	1,457	3.1
5.0	4.0	12.0				88.5	543.2	20.2	29.2	22	1,780	6.2
4.8	4.0	18.6				45.7	72.8	10.1	7.1	6	1,025	5.1
5.0	3.7	40.1				17.0	221.2	20.2	5.7	46		t r